2018年度シラバス

科目名:英語コミュニケーションⅡA	担当者:加藤　あや美	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
This is related to the ability to communicate in English. The main aim of this course is to help students develop the skills and knowledge to engage in discussions on various topics with their classmates and teacher. The students will discuss a variety of issues and use conversational strategies to express their opinions.

授業の到達目標
By the end of this course, students will be able to 1. have confidence and competency in listening and speaking to others.2. discuss topics and use conversational strategies to maintain conversation.

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Students will be required to bring an English/Japanese dictionary to class. Students should be prepared to speak a lot in class.

評価方法
Attitude and Class Participation 30% Homework 30% Tests 40%

教科書	参考図書
Akiko Nitta (2018) A Shorter Course in English for Business Communication (南雲堂)	Other course materials will be provided by the teacher

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Students will be expected to participate during class discussions, ask questions during class, and actively work on improving their communication skills. (Office Hour: Tuesday lunch time)

01	Course introduction
02	Lesson 1. Stating the Purpose of a Contact: Conversation
03	Lesson 1. Stating the Purpose of a Contact: Exercises
04	Lesson 2. Meeting for the First Time: Conversation
05	Lesson 2. Meeting for the First Time: Exercises
06	Lesson 3. Presenting a Business Card: Conversation
07	Lesson 3. Presenting a Business Card: Exercises
08	Review Test (Lesson 1~3)
09	Lesson 4. Transferring a Call: Conversation
10	Lesson 4. Transferring a Call: Exercises
11	Lesson 5. Phone Troubles: Conversation
12	Lesson 5. Phone Troubles: Exercises
13	Lesson 6. At the Airport Abroad: Conversation
14	Lesson 6. At the Airport Abroad: Exercises
15	Review Test (Lesson 4~6)
16	None

2018年度シラバス

科目名:英語コミュニケーションⅡB	担当者:加藤　あや美	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
This is related to the ability to communicate in English. The main aim of this course is to help students develop the skills and knowledge to engage in discussions on various topics with their classmates and teacher. The students will discuss a variety of issues and use conversational stratefies to express their opinions.

授業の到達目標
By the end of this course, students will be able to1. have confidence and cmpetency in listening and speaking to others.2. discuss topics and use conversational strategies to maintain conversation.

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Students will be required to bring an English/Japanese dictionary to class. Students should be prepared to speak a lot in class.

評価方法
Attitude and Class Participation 30% Homework 30% Tests 40%

教科書	参考図書
Akiko Nitta (2018) A Shorter Course in English for Business Communication	Other course materials will be provided by the teacher

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Students will be expected to participate during class discussions, ask questions during class, and actively work on improving their communication skills. (Office Hour: Tuesday lunch time)

01	Course introduction
02	Lesson 7. Making Polite Requests: Conversation
03	Lesson 7. Making Polite Requests: Exercises
04	Lesson 8. Taking and Leaving Telephone Messages: Conversation
05	Lesson 8. Taking and Leaving Telephone Messages: Exercises
06	Lesson 9. Making Inquiries: Conversation
07	Lesson 9. Making Inquiries: Exercises
08	Review Test (Lesson 7~9)
09	Lesson 10. Making Appointments 1: Conversation
10	Lesson 10. Making Appointments 1: Exercises
11	Lesson 11. Stating Requests Clearly: Conversation
12	Lesson 11. Stating Requests Clearly: Exercises
13	Lesson 12. Making Apologies: Conversation
14	Lesson 12. Making Apologies: Exercises
15	Review Test (Lesson 10~12)
16	None

科目名:発達心理学Ⅲ	担当者:堀　由里	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:小学校教諭１種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
保育・教育の現場と理論を中心とした大学での学びを結び付けられることが、受講生の保育・教育力を次のステップへと導きます。本講義では、乳幼児のエピソードや映像を読み込み、そこから発達心理学の知見を整理していく作業を行います。毎回、担当者を決めて発表をし、それに解説を加えていく授業形態で進めます。

授業の到達目標
1）発達心理学の知識を理解することができる。2）具体的な子どものエピソードを理論に基づいて説明することができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修：実習で出会った子ども達、身近にいる子ども達の言動を書き留めておく。事後学修：授業内での他者の視点を自分の言葉で再構成する。

評価方法
授業への主体的・協調的な参加状況（50%）、発表レポート（50%）

教科書 適宜、資料配布	参考図書 適宜、紹介

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
常に現場を想像しながら熱い気持ちを持ち、それと同時に冷静で客観的な視点を持ち合わせられるようにしましょう。オフィス・アワーや連絡手段については授業内で伝える。

01	発達理論と保育・教育実践との関わり
02	子どもの居場所
03	環境移行・関係の移行
04	人見知り
05	遊びの伝染
06	秘密を分かち合う
07	反抗期
08	我慢すること
09	まねをしたい気持ち
10	ばれるイタズラ
11	物の名前の獲得
12	異文化間適応
13	サンタクロースを信じる気持ち
14	一対一の療育ではできないこと
15	保育・教育に活かす心理学のまとめ
16	なし

2018年度シラバス

科目名:脳神経科学	担当者:藤田　公和	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
人の誕生、成長・発達および老化は、脳の機能に依存する部分が非常に大きい。最近の脳科学研究の進歩には、目を見張るものがあり、次々に新しい多くの研究成果が公表されている。この授業では、胎生期や乳幼児期から人の生涯にわたる脳の構造・機能の発達や変化、疾病などについて理解し、脳を守り、脳を発達させる方法を学ぶ。

授業の到達目標
大胆な言い方をすれば、子どもの発達は脳の発達であると言える。この授業を通して、子どもの脳の発達という視点から、保育・教育にかかわるいくつかの課題や子育ての具体的な方法論に関して、科学的な根拠を説明できるようになる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
脳に関係する話題はテレビやインターネット、新聞や雑誌などで頻繁に取り上げられています。完全に理解できなくてもいいので、興味を持ってそのような情報に触れるようにしてください。そのような話題について、この授業を通して理解できるよう解説していきます。

評価方法
確認テスト：50%　　ミニレポート：30%　　授業態度：20%

教科書	参考図書
特になし　教員が作成した資料を使用します。	特になし

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
オフィスアワー：火、木、金曜日の昼休み　fujita-k@ohkagakuen-u.ac.jp

01	ガイダンス　脳科学分野の最新情報
02	脳の基本構造①　脳の各部の名称と働き、神経細胞、神経伝達、シナプス
03	脳の基本構造②　グリア細胞、ミエリン、シナプス伝達、大脳皮質の機能局在
04	記憶・学習、早期教育の意味
05	脳の障害　　幼児虐待と脳の傷害、ADHD、発達障害、自閉症、切れる子
06	身体運動のメカニズムと発達
07	言葉
08	胎児期の異常、新出生前診断、脳死
09	男の脳・女の脳
10	右脳・左脳
11	摂食中枢、脳の栄養、摂食障害
12	脳の病気　　認知症、うつ病、パーキンソン病、ALS、iPS細胞、
13	老化・アンチエイジング 老化・アンチエイジング
14	妊娠・出産と母親の脳の発達
15	脳の発達と環境　　確認テスト
16	なし

2018年度シラバス

科目名:環境の科学	担当者:辻　広志	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	2
		必須. 選択	選択

授業概要と方法
この授業では、様々な生態系における環境問題と生物の保全対策について学び、ヒトと自然の共生のあり方について考える。配布プリントによる講義を中心に、視聴覚教材、現物資料の提示、実習、新聞記事、インターネット等を通して、自然環境や野生生物に対する理解を深める。

授業の到達目標
地球環境、生物多様性、生態系のしくみについて理解し、環境保全活動の実践方法を知る。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
自宅周辺にはどのような動植物が生息しているか調べる。環境問題や野生生物に関する最新の情報を、新聞、雑誌、テレビ、インターネット等で入手する。

評価方法
レポート点50%、平常点50%（出席状況、授業感想文、授業への取り組み姿勢）で総合評価する。

教科書	参考図書
使用しない	授業中に適宜紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
「エコ検定」等の環境に関する資格検定取得を目指す学生は是非受講してください。質問等がある場合は、研究管理棟２Ｆの218研究室に来てください。

01	イントロダクション：環境問題と私たちの暮らし
02	生物多様性の危機の現状：世界のカエル類の約３割は絶滅の危機に瀕している！
03	生態系のしくみ：オオカミが自然を守っている？
04	日本の森林生態系：照葉樹の森と落葉樹の森
05	植物の種子散布：身近な雑草の繁殖戦略
06	野外実習：キャンパスの生き物観察
07	環境変動による環境負荷：地球温暖化が生物に及ぼす影響
08	有害化学物質による環境汚染：「沈黙の春」と「メス化する自然」
09	希少種の保全：レッドデータブックで絶滅危惧生物を調べよう
10	生態系の保全：世界自然遺産の光と影
11	侵略的外来種：アカミミガメ、ブラックバス、アライグマが日本の生態系を破壊する
12	企業・市民による環境保全活動：企業の環境報告書を読もう
13	自然再生事業：「ビオトープ」は生物の避難場所
14	女子学生の自然体験：身近な生き物アンケート
15	まとめと確認
16	なし

2018年度シラバス

科目名:生命の科学	担当者:若月　徹	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限:特になし		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
私たちと私たちを取り巻く生命と「いのち」について理解を深めます。生命の構造と機能を維持する仕組みを生理学、生化学、分子生物学などから考えます。授業計画は参考です。授業はPBL（Problem Based Learning:：問題に基づく学習）形式で行います。学習課題を自分で見つけ、調べ、グループでeラーニングを用いて知識を共有します。

授業の到達目標
生命のメカニズムについて分子レベルで理解できる。生命と放射線について説明できる。DNAと遺伝子について説明できる。必要な課題を自ら発見できる。課題を解決する具体的な方法を発見し、課題を解決できる。課題の解決に当たって、他の学習者や教員と協力してよりよい解決方法を見出すことができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
日常生活や新聞、インターネットなどの身近なことに目を向け、なにげない情報から疑問を拾い出しましょう。（時間１５分程度）

評価方法
授業への参加態度50%　提出物５０％で評価します。

教科書	参考図書
特になし	『生命の科学がみるみる分かる本』高木美也子著、PHP研究所

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
むずかしそうと思わず気軽に受講してください。対話形式でわかりやすく解説します。若月徹（藤田保健衛生大学医学部健康科学、連絡先は授業で開示します。）

01	ガイダンス、アイスウォーム
02	課題の発掘「生命ってなに？」（マインドマップ、KJ法、ワールドカフェ等）
03	DVD「遺伝子・DNA」
04	100円ショップの材料でDNAを見てみよう
05	コドンレター：ＤＮＡで手紙を書こう
06	人類のお母さんミトコンドリア・イブ
07	「８年越しの花嫁」免疫と病気
08	自分と他人はどう違う―臓器移植の現実
09	人はどうして結婚するの？クローン人間はつくれるかーiPS細胞
10	半年で－２２ｋｇ！簡単ミトコンドリア活性化で効率的なダイエット
11	放射線ってなあに？生命と放射線
12	１００円ショップの材料で放射線を見てみよう
13	「がん」どうして出来るの？
14	遺伝子治療ってなあに？ＡＡＤＣ欠損症と遺伝子治療
15	助かる確率が４倍に！ＰＵＳＨコースで心臓突然死を防ごう
16	

科目名:異文化理解と教育	担当者:加藤　あや美	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
グローバル社会への理解を深めるという目標をもとに、異文化という観点からコミュニケーションの具体的な事例を取り上げ、異なる文化背景を持った人にどのように伝え、交わるか、また、どのように受け入れ、理解するのかについて考えていきます。さらに、多文化共生社会に中で、いかに円滑に共存できるかについて一緒に考えていきましょう。Active Learning型の授業を実践するため、グループワークやディスカッションを取り入れていきます。

授業の到達目標
異文化理解や異文化コミュニケーションの諸相に関連する文献を読み、それぞれにおける問題点を文化、言語の関連の枠組みでとらえ、考察を加えることを目指す。実際に異文化と接触した際に、学んだ知識をもとに適切に行動する力を身につける。また、異なる文化背景の人々を受け入れることができる素地を養う。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
日頃から新聞などに目を通し、国際的に問題となっている事柄に関心を持つようにしましょう。また、日常的に様々な人とのコミュニケーションも大切にし、人との関わりに高い意識を持つようにして下さい。さらに、授業内で紹介する異文化コミュニケーションの事例をもとに、自分の周りにある身近な事例をピックアップできるようにしておきましょう。

評価方法
授業への参加度　30%　小テスト・小レポート　30%　期末レポート　40%

教科書	参考図書
適宜、プリントを配布します。	授業中に紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
ディスカッションを多く取り入れていくため、積極的な授業への参加を望みます。発表や授業レポートにおいて、自分の考えを明確に述べることができるよう努力しましょう。（オフィスアワー：火曜昼休み)

01	オリエンテーション
02	異文化コミュニケーション①　文化とは何か
03	異文化コミュニケーション②　自分かへの気づき
04	異文化コミュニケーション③　様々な異文化接触
05	異文化コミュニケーション④　グループディスカッション
06	異文化理解①　言語と文化の密接な関係
07	異文化理解②　異文化への言語的アプローチ
08	異文化理解③　世界における言語教育の現状
09	異文化理解④　日本における言語政策
10	異文化理解⑤　日本における言語教育
11	多文化共生①　アジアにおける英語の役割
12	多文化共生②　多文化国家の現状
13	多文化共生③　多文化国家における言語政策
14	多文化共生④　多文化国家における言語教育
15	多文化共生⑤　多文化が共生するために
16	なし

2018年度シラバス

科目名:生涯学習	担当者:田辺　則人	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　成熟社会を迎えてきたなかで、一人ひとりが生涯にわたって学び、豊かな人生をすごすことができる社会をつくる重要性を学ぶ。このため、生涯学習が求められるようになった背景や今後の社会動向を学ぶとともに、自治体等における生涯学習推進のための取組み、市民活動や子育て支援と生涯学習、市民の生涯学習社会形成の担い手としての役割を事例を交えて学ぶ。あわせて、学生自身が社会に出てからも学び続けるべきことについて考える機会とする。

授業の到達目標
　教師や保育者になる立場、市民としての立場などから、仕事や生活と生涯学習の重要性について理解する。　生涯にわたって豊かな生活をおくるために、エンパワーメントに心がけ、学び続ける意識を持つ。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　書籍、ＨＰなどからシラバスのキーワードについて、あらかじめ調べてみること。特に予習シートを出した場合には、調べて考え方上で記入すること。また、講義後半に意見シートの記入を求める場合もある。

評価方法
　予習シート・ワークショップ（または意見交換。２回）での積極性40点、期末のレポート提出60点とし、合計100点満点で評価する。

教科書	参考図書
特になし。	講義の都度紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　自分にとって必要なことや興味を持ったことについて、自ら工夫して学ぶ姿勢を持つようにする。　メールでの質問等は受け付けるので講義で開示する。件名は「生涯学習講義について」と明記のこと

01	【ステップ１　生涯学習を取り巻く動き】ガイダンス／生涯学習とは：生涯学習の様々な定義
02	地域や市民の直面する課題：社会の変化の中での生涯学習の重要性や地域の課題と生涯学習
03	市民参加、協働の背景：自治体において市民参加、さらに協働のまちづくりが不可欠になった背景
04	まちづくりと生涯学習：生涯学習となっているまちづくりや、それを促進する自治体・職員の役割
05	市民協働、生涯学習ニーズ：市民と行政の協働の取組み、コーディネイトのあり方／予習シート
06	〈グループワーク(1)〉（仮）少子高齢社会でなぜ生涯学習が必要かを考える
07	【ステップ２　生涯学習中身の個別テーマ】生涯学習都市の事例：行政、市民、民間ビジネス概観
08	生涯学習と教育：教育の課題について生涯を通じて学び続ける視点から考える
09	レポートの書き方（ミニ演習）／生涯学習の多様なプログラム：公民館、市民参画型のプログラム
10	文化・芸術やスポーツの振興：文化財保護、文化の継承や文化・芸術活動、スポーツ活動の状況
11	図書館、生涯学習施設：図書館等の役割や読書の大切さについて事例から学ぶ
12	【ステップ３　今後の自らの生涯学習も考える】子育て支援と生涯学習⑴：子育て支援と学び合い
13	子育て支援と生涯学習⑵：地域包括支援、子どもの貧困問題／予習シート
14	〈グループワーク⑵〉（仮)若者としてこれから何をどう学びたいか・学ぶべきか（仮）
15	グループワークのまとめ／講義　エンパワーメントの必要性／これからの生涯学習・地域の課題
16	レポートの提出

2018年度シラバス

科目名:家族福祉	担当者:嶋守　さやか	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	2
		必須. 選択	選択

授業概要と方法
　現代家族の多様性や子どもと家族をめぐる今日的な問題について、家族社会学の視点から考察する。また、現代の家族や家族福祉の理解に役立つキーワードから理解する。テーマに即した映像資料の視聴、グループディスカッション・プレゼンテーションなどを行い現代の子どもと家族についての理解を深めていく。

授業の到達目標
　現代の家族の現状や家族関係、養育の問題など、子どもと家族の現状と社会問題、社会的課題を理解する。また、家族社会学の諸理論や基本的な対人支援技術等をグループディスカッションやグループワークを通じて学習することで、家族支援についての見識を得る。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　教科書や参考図書、授業の中で配布する教材プリント等を読み込み、事前学習レポートを作成します。事後学習として、事前学習レポートの添削内容に留意し各回のテーマに即した事後レポートを作成してください。

評価方法
　評価は、理解度評価による60%、グループワークの相互評価30%、ミニコメントシート（毎授業後のまとめ）10%にて行います。

教科書	参考図書
嶋守さやか・廣田貴子『Sheという生き方』新評論	佐々木正美『はじまりは愛着から』福音館書店

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業内容に関する重要な連絡は、授業時間中に適宜行います。オフィスアワーは金曜日の昼休みとします。

01	授業オリエンテーション（授業目的、授業の進め方等についての説明）
02	家族福祉の定義とその機能
03	家族をとりまく社会的状況と家族関係（１）
04	家族をとりまく社会的状況と家族関係（２）
05	第１回　理解度評価および解説
06	家族福祉とは（１）： 家族福祉の定義・対象・重要概念の理解
07	家族福祉とは（２）：家族問題を理解するための基礎理論の理解
08	子どもと家族（１）：映像資料から理解する家族関係における諸問題①
09	子どもと家族（２）：映像資料から理解する家族関係における諸問題①
10	第２回　理解度評価および解説
11	家族支援の技法（１）：回想法の理解
12	家族支援の技法（２）：回想法の実践
13	グループワークによる授業のまとめとふりかえり①
14	グループワークによる授業のまとめとふりかえり②（プレゼンテーション）
15	第３回　理解度評価および解説
16	なし

2018年度シラバス

科目名:地域福祉	担当者:嶋守　さやか	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	2
		必須. 選択	選択

授業概要と方法
　本講義では、地域を基盤としたあらゆる分野の社会福祉を総合的、横断的に捉え、地域子ども福祉実践を理解します。特に、地域子ども福祉サービス提供者と利用児童・者がともに生きる生活の質を向上させるレクリエーションの役割やそのありかたについて考えます。

授業の到達目標
　地域福祉の基本的な考え方、社会的意義や目的を理解することで、地域子どもサービス提供者と利用児童・者がともに生きる生活の質を向上させるレクリエーションを考案できるようになる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　授業で紹介する参考文献を読んでくること。グループワーク実践の際には、そのレクリエーションプランをグループごとに立案・授業時間内に実践すること

評価方法
　評価は、理解度評価による60%、グループワークの総合評価30%、ミニコメントシート（毎授業後のまとめ）10%にて行います。

教科書	参考図書
嶋守さやか『しょうがいしゃの皆サマの、ステキすぎる毎日』新評論、2006年	適宜、指示します適宜、指示します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　この科目に関わる基礎的な知識を有すること。授業内容に関する重要な連絡は、授業時間中に適宜行います。オフィスアワーは、金曜日の昼休みとします。

01	授業オリエンテーション（授業目的、授業の進め方等についての説明）
02	地域福祉の理解①　地域福祉の定義
03	地域福祉の理解②　地域福祉サービス提供者と利用者の現状を事例から考える
04	地域福祉の理解③　事例から考える地域福祉
05	地域福祉の理解④　グループディスカッション
06	第１回　理解度評価および解説
07	地域福祉の実際①　地域福祉と子ども（社会的養護の事例による考察）
08	地域福祉の実際②　地域福祉と子ども（障がい児福祉の事例による考察）
09	地域福祉の実際③　地域福祉と子どもグループディスカッション
10	第２回　理解度評価および解説
11	地域福祉の実践①　地域福祉と音楽の実践（赤ちゃん、障がい児と音楽）
12	地域福祉の実践②　地域福祉と音楽の実践（ドラムサークル）
13	地域福祉の実践③　グループディスカッション
14	地域福祉の実践④　プレゼンテーション
15	第３回　理解度評価および解説
16	なし

2018年度シラバス

科目名:ＮＧＯ・ＮＰＯ論	担当者:成田　弘成	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限:特になし		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
国際援助におけるNPO・NGOの組織と構造と、運営のあり方について学ぶとともに、国際機関や企業などとの連携のあり方などについても理解を深める。更に国際ボランティア活動への参加の方法・運営に関して必要な知識と実践技術を学ぶ。講義においては国際NGO等の活動の事例を取り上げながら、そのあり方や今後の課題等について学び、学生達が将来の選択肢の一つとして国際NGOを認識することを目指す。

授業の到達目標
NGOの勉強は、国際社会への理解度を高めるもので、具体的に以下の目標を達成できるようにしましょう。(1)ODAに対するNGOの存在意義を学ぶ。　(2)NGOの在り方の多様性を知ること。(3)NGOのマネジメントについて理解すること。(4)NGO活動の発展の歴史について学ぶこと。(5)NGO活動への実践的な参加の方法について学ぶこと、等々。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
毎週、予習範囲を指定するので、事前に資料を読み、予備知識を持つこと。授業後は、当日のテーマ内容にそって、出来るだけ多くの関連資料をメディア等で検索し、その成果を発表できるように心掛けること。また機会があれば、地域で開催されるボランティア活動にも参加し、実践的意義を確認してください。期末レポートは、専門的な資料により、現在の学問レベルを確認できる機会なので、挑戦してみてください。

評価方法
配点は、授業への参加態度30%　小テスト30%　期末レポート40%。

教科書 特になし。	参考図書 その都度、指示します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
担当教員の研究室は7号館3階。オフィスアワーは月曜日の昼休み12時30分から13時。

01	NGO・NPOの概念と方法
02	国際ボランティアとNGO
03	バングラデシュのグラミン銀行
04	スリランカのサルボダヤ運動
05	インドのマザーハウス
06	英国のNGO: オックスファム
07	英国のNGO：その他
08	米国のNGO
09	フランスのNGO:国境なき医師団
10	医療NGOと国際赤十字
11	ネパール母の家
12	ハイチにおける医療活動
13	タイにおけるNGO活動
14	アジアにおけるNGO活動
15	今後の国際NGOの役割
16	なし

2018年度シラバス

科目名:保育者論	担当者:上村　晶	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限:特になし		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
社会の変化に伴い、幼稚園教諭・保育教諭・保育士など保育者の役割が変化しつつあることを踏まえ、保育者としての職務、資質、専門性などを理解すると同時に、現代社会における保育者の在り方などについて理解を深める。

授業の到達目標
１．日本における学校教育や教職の社会的意義や今日的課題について理解し、幼稚園教諭・保育教諭・保育士としての役割や資質能力・多様な職務について理解する。２．教師の全体的な職務内容を把握すると同時に、教師としての資質や専門性・義務や職業倫理について理解する。３．地域・家庭・社会的ニーズを踏まえた上で、多様な人材や専門家との協働・連携を通じて組織的に諸課題に対応する必要性について理解する。４．保育者としての資質や専門性を理解する中で、現代に求められる保育者像を明確化する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
毎回の授業で、課題（テキスト予習及び次回のテーマ）を発表します。次回の授業までに、事前に教科書を熟読するなどして、テーマについて自身の考えを明確にして授業に臨んでください。

評価方法
理想の保育者像シート（25%）・最終筆記試験（60%）・授業への取組（授業シート含む15%）

教科書 特になし	参考図書 平成29年度告示版　幼稚園教育要領解説（文科省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（内閣府）、保育所保育指針解説書（厚労省）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
近年の保育者に求められる資質は多岐に渡っています。このような社会的背景を踏まえながら「保育者になるとはどういうことか」「どのような保育者に自分はなりたいのか」という自身の考えを深め、常に課題意識を持って授業に臨むことを期待します（OHや連絡手段等は初回に開示します）。

01	オリエンテーション、ナショナルカリキュラムにみる保育者の役割
02	保育者として働く目的と意義　―保育者になるということとは―
03	現代社会と保育者　―社会の変化と保育者に求められる今日的課題―
04	保育者の制度的な位置づけと職業倫理　―責務と倫理―
05	多様な保育者の仕事内容　―幼稚園教諭・保育士・保育教諭の職務とは―
06	保育者に求められる資質とは（１）―3歳児のビデオカンファレンス―
07	保育者に求められる資質とは（２）―4歳児のビデオカンファレンス―
08	保育者に求められる資質とは（３）―5歳児のビデオカンファレンス―
09	保護者・地域社会と保育者の役割（１）―子育ち・子育ての支援者として―
10	保護者・地域社会と保育者の役割（２）―行事の在り方と地域社会とのかかわり―
11	国内外の保育の現状と課題（１）―諸外国の保育の現状に目を向けて―
12	国内外の保育の現状と課題（２）―国内の保育の現状や保育制度の変遷に目を向けて―
13	国内外の保育の現状と課題（３）―H29年トリプル改訂を踏まえた保育・教育実践について―
14	保護者の専門職的成長　―保育者のキャリア発達・チーム学校（園）と組織的な連携―
15	理想の保育者像プレゼンテーションとまとめ
16	定期試験

2018年度シラバス

科目名:教育職論	担当者:青山　佳代	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
教育職の専門性、仕事の具体的内容、教育職集団のあり方、他領域との協働について具体的事例を示しながら解説する。

授業の到達目標
教師の仕事の本質と実際について学ぶ（チーム学校運営への対応も含む）。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
テキストを読んで事前学習をしておくことが望ましい。教育職を取り巻く社会情勢について、日ごろから新聞やインターネットから情報を得ておくことが望ましい。どのような教育者になるべきか、自分の教育者像について語れるようになっておくことが望ましい（教育者像は学習や実習によって変化するので、アップデートしておくこと）。

評価方法
ノートテーキング20%、授業内レポート50％、最終レポート30%

教科書	参考図書
広岡義之編著（2017）『はじめて学ぶ教職論』、ミネルヴァ書房	小学校学習指導要領、幼稚園教育要領（平成29年告示）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
特にありませんが、他人が不愉快になる態度は控えましょう。

01	教職の意義と教師に求められる資質・能力
02	教員養成と教員免許状制度
03	教員の研修および教員の任免の服務
04	保育者・教師集団のあり方①保育者の集団
05	保育者・教師集団のあり方②小学校教師の集団
06	中学校教師の実際・高等学校教師の実際
07	管理職・主任の役割
08	教師の仕事
09	学級担任の仕事
10	教師の職場環境
11	教職の歴史①古代から太平洋戦争前後における学校と教師
12	教職の歴史②戦後から現代にかけての学校と教師
13	現代社会の諸問題と学校・教師
14	先人の教えに学ぶ教育実践の知恵
15	学校教師の役割としての進路指導
16	

2018年度シラバス

科目名:保育内容総論	担当者:市野　繁子,加藤　信子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園における保育内容を通して、自身の保育・幼児教育に関する知識の修得を確認していきます。子どもの生活や遊びについて具体的な保育者の援助や配慮を考えます。「豊かな学びの共同体」の成員としてグループ活動を通して、参加・共同・創造する力を更に養います。グループ討議や課題作成を通して、読む・聞く・書く・考える・話す力のスキルアップを目指します。

授業の到達目標
本授業では、以下の点を目標に授業を進めていきます。①保育内容を「保育のプロセス」として展開していくために、保育者はどのような保育観や援助技術が必要なのかを理解する。②常に子どもを中心として、家庭、地域、小学校等へのつながりや連携を考えながら「開かれた園」としての具体的な保育内容を理解していきます。③5領域のねらいと内容とのつながりを理解し、生活や遊びの中で、環境を通して行う保育について理解を深めます。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
授業に望む際に、必ず教科書を読み、学修のポイントを確認しておきましょう。授業の際に授業内容・学習のポイントを記入したプリントを配布します。その内容に関する予習を行い、課題プリントに示された内容を記入し、授業に参加します。授業後には、授業で行った内容を課題プリントにまとめ、各自振り返りを行います。毎回の授業の初めに、前回の授業ポイントの確認をしていきますので、しっかり復習をしましょう。復習を必ず行ってから授業に臨みましょう。

評価方法
授業への参加・学習態度20%、小テスト及び授業内課題・グループ活動への取り組み50%、レポート試験30%を総合的に評価する。

教科書	参考図書
豊田和子編著『演習　実践を創造する　保育内容総論』㈱みらい	幼稚園教育要領及び解説、保育所保育指針及び解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び解説

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業内のマナーをしっかり守って円滑に授業が進められる様に楽しい授業を一緒に作り出していきましょう。連絡先は授業内で伝えます。

01	オリエンテーション・授業の概要と目的
02	子どもを取り巻く社会環境の変化と保育内容
03	幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園の役割と保育内容（１）幼児教育の基本
04	幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園の役割と保育内容（２）領域のねらいと内容とは
05	保育内容を展開するプロセス（全体的な計画と指導計画）
06	０～2歳児の保育内容とその展開
07	3・4・5歳児の保育内容とその展開（１）保育マップから見る子どもの遊びと環境構成
08	3・4・5歳児の保育内容とその展開（２）グループ発表とプレゼンテーション
09	異年齢児の保育内容とその展開
10	保幼小の接続と連携を創造する保育内容
11	子育て支援と地域に開かれた園を創造する保育内容（１）おたよりの作成
12	子育て支援と地域に開かれた園を創造する保育内容（２）グループ発表とプレゼンテーション
13	わが国における保育内容の変遷
14	諸外国の保育所・幼稚園の保育内容
15	これからの保育内容の課題とまとめ
16	

2018年度シラバス

科目名:家庭	担当者:辻岡　和代	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	
免許･資格:小学校教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
１．小学校家庭科で取り扱う「衣・食・住」の分野における基礎知識の学習　（全4回）２．調理実習、縫製実習などの実習　（全9回）３．家庭科における教材研究とプレゼンテーション　（全2回）

授業の到達目標
・学習指導要領における小学校家庭科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。・小学校家庭科の「衣・食・住」分野の内容について指導上の留意点を理解している。・小学校家庭科の評価の考え方を理解している。・小学校家庭科と背景となる領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
生活のあらゆる場面で家庭科の内容をふり返り、住まい方への関心をもつとともに、生活に役立つ物の製作や調理を積極的に行って実践力を磨くこと。準備学修として、事前学習や事前課題を提示することがある。事後学修として、各回で設定する制作物や課題が完成していない場合は家庭で完成させる。模擬授業の準備を行う（指導案作成・教具の作成・授業時に使用する教材や食材の購入・模擬授業のための直前準備）

評価方法
プレゼンテーションを含む授業態度40%、提出課題60%で評価する。

教科書	参考図書 小学校学習指導要領解説　家庭編

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
質問等は、Moodleまたはオフィスアワーで受け付ける。詳細については授業で開示する。

01	ガイダンス　学習指導要領における「小学校家庭」の目標および主な内容
02	小学校家庭科衣生活分野の概要および指導上の留意点
03	衣服の表示・管理　（衣服への関心より）
04	手縫いの基礎　（生活に役立つ物の製作より）
05	ミシン実習①　ミシンの使い方　マスクの制作（生活に役立つ物の製作より）
06	ミシン実習②　巾着袋の制作（生活に役立つ物の製作より）
07	ミシン実習③　個別制作（生活に役立つ物の製作より）
08	小学校家庭科食生活分野の概要および指導上の留意点
09	栄養素のはたらき（食事への関心より）
10	調理の基礎①　切る・茹でる・焼く・炒めるを踏まえた一斉調理（簡単な調理より）
11	調理の基礎②　切る・茹でる・焼く・炒めるを踏まえたグループ別調理（簡単な調理より）
12	小学校家庭科住生活分野の概要および指導上の留意点
13	居心地のよい住まい方　（住まい方への関心、家庭生活のくふうより）
14	模擬授業
15	小学校家庭科における効果的な発問、授業の工夫
16	

2018年度シラバス

科目名:保育相談支援	担当者:小嶋　玲子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許・資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法 演習科目ですので、保育相談支援についての演習をしっかり行い、保育現場で求められている相談支援の実践力をつけていきたいと考えています。
授業の到達目標 １．前期に保育所実習を経験するので、その内容を思い出し、実際の保育所での保育相談支援について理解を深める２．教科書にある様々な支援の実際事例を学びながら、保育相談支援の技術力を高める３．親子の関係改善と親の養育力の向上をめざした保育相談支援について理解を深めること４．保護者の精神疾患について理解する
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修 保育実習での保育相談支援の実例報告、環境を通して保育相談支援、その他教科書の演習問題への取り組み等、授業に関係したいくつかの課題を毎回課します。また、事例を検討した後の事後学修を深めてください。身近な親子をよく観察して、親子の関係性理解に努めてください。地域の子育て支援センター等へボランティアに行くことを勧めます。
評価方法 演習科目は演習に参加することが必要です。毎回の課題の提出　50%　試験50%　ただし、合計点ではなく、どちらにおいても60%以上の得点が必要です。

教科書	参考図書
青木紀久代編(2015)「実践　保育相談支援」（株）みらい 実青木紀久代編(2015)「実践　保育相談支援」青木紀久代編　実践保育相談支援　みらい　＆　保育所保育指針	白幡久美子編著(2017) 改訂『保育士をめざす人の家庭支援』（株）みらい、　柏女霊峰・橋本真記編著 (2011)『保育相談支援』ミネルヴァ書房、

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) オフィスアワー・連絡先は、授業で開示します。保育相談支援を実践するためには、保護者対応のための社会人としてのマナーや言葉遣い、人間性が問われます。大学4年生としての自覚をもって授業に臨んでください。

01	保育者が行う保育相談支援、保育指導の意味を理解する
02	保育相談支援の方法を学ぶ
03	環境構成の技術に基づいた保護相談支援について理解する
04	実習中に経験した保育相談支援の交流（特に環境を通した支援について）
05	お便りや連絡帳を通しての相談
06	保護者との関係づくり
07	地域資源の活用と関係諸機関との連携
08	地域子育て支援における保育相談支援
09	養育力向上を目指した保育相談支援
10	保護者同士の関係を改善するための保育相談支援
11	苦情対応から始まる保育相談支援
12	障がいのある子どもをもつ保護者への支援
13	要保護児童の家庭に対する支援と精神疾患のある保護者への対応
14	乳児院・母子生活支援施設等における支援の実際
15	親子の関係性向上をめざす保育相談支援
16	試験

科目名:教職実践演習（幼・小）	担当者:金子　晃之、堀　由里、北島　信子、小嶋　玲子、寺田　泰人、浅野　卓司、勝浦　眞仁、小柳津　和博	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	2
		必須. 選択	選択必須

授業概要と方法
　教職（小免・幼免）に関する学修の集大成としての演習である。教職履修カルテで教職課程の学びを振り返り、講師の講話を聞き、教師として求められる知識、技術、指導力、政策の流れを再確認する。それらを通じて教職生活の出発点としての教師像を明確に描き、学び続ける教師としての今後の展望を明確にする。

授業の到達目標
　本学科が目標とする教職課程教員像の到達すべき目標から自分を常に振り返る。①教員の使命や責任を自覚し、自主的・積極的に自己課題を立て学び続ける姿勢を養う。②他の教員との協力や保護者・地域住民との連携の重要性を理解し対人関係能力を養う。③子どもの発達状況に応じた適切な指導を行うことができる学級経営の基礎を習得する。④「小学校学習指導要領」や「幼稚園教育要領」に対応した教職と教科の的確な指導力・実践的なマネージメント力を身につける。⑤自己の教師像を明確にする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　授業外に行うべき課題（授業時に発表し討論する課題）を複数課すので、それを丁寧に考察して行うこと。

評価方法
　提出課題（発表シート、講義ノート等）が70点、参加態度・発表態度が30点で、合計100点満点で評価する。欠席回については、欠席課題を課す。その詳細については初回に指示する。

教科書	参考図書
特に設定しない。毎回、資料と課題を配布する。	授業の中で指示する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　教員としての責任や姿勢、必要な資質能力が形成されたかについて最終的に確認する授業である。

01	今日の教員養成の課題と教職実践演習の目的について
02	「教職履修カルテ　　振り返りシート」の検討
03	外部講師講義①　幼稚園教諭①　　グループ討論、講義ノート作成・提出
04	外部講師講義②　養護教諭　　グループ討論、講義ノート作成・提出
05	外部講師講義③　小学校教諭　　グループ討論、講義ノート作成・提出
06	外部講師講義④　幼稚園教諭②　　グループ討論、講義ノート作成・提出
07	外部講師講義⑤　特別支援学校教諭　　グループ討論、講義ノート作成・提出
08	「桜花学園大学・教職課程　まとめシート」の検討①　前半課題
09	「桜花学園大学・教職課程　まとめシート」の検討②　後半課題
10	教職・教科内容の補足①　　オムニバス形式の演習
11	教職・教科内容の補足②　　オムニバス形式の演習
12	教職・教科内容の補足③　　オムニバス形式の演習
13	「自分が目指したい教員像シート」の検討①　前半課題
14	「自分が目指したい教員像シート」の検討②　後半課題
15	「教職履修カルテ」の最終検討。　　教職課程の学びの振り返り。
16	なし

科目名:保育実践演習	担当者:布施　佐代子、嶋守　さやか、基村　昌代、藤田　公和、太田　早津美、古畑　淳、田端　智美	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
グループ討議、ロールプレイング等を通して、保育に関するこれまでの自らの学びを保育実習等における体験と結びつけながら振り返り、保育士として必要な専門的知識・技術・資質が十分に習得、形成されたか確認する。また保育に関する現代的課題について、グループワークや研究発表、討論等により、自ら問いを立ててその要因や背景、課題解決の方向性及びその具体的内容・方法を考えていく。それらをふまえて自己の課題を明確に把握する。

授業の到達目標
①指定保育士養成施設での教育課程全体を通して、保育士として必要な保育に関する専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等が身についたか、自らの学びを振り返り把握する。②保育実習等を通じた自らの体験や収集情報に基づき、保育に関する現代的課題について現状分析し、保育士として求められることを多様な視点から考察する力を習得する。③自己の課題を明確化し保育実践に必要な基礎が定着する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
①　学生各自で、保育実習に関わる準備や事後の振り返り及び保育関係科目の復習を自主的に十分に行うようにしてください。まだ十分ではないと感じたことがあれば、どんな小さなことでもすぐに自覚的に補う努力を惜しまないこと。　②　グループワークには主体的に参加し、互いに協力して学び合うように努めること。③　保育に関するさまざまな現代的課題に対して、常に関心を持ち調べてみたり、友だちと話し合ったりして、自分なりの考えをしっかりと持てるようにしましょう。

評価方法
定期試験　50%、提出物・課題レポート　20%、授業への参加態度　30%により総合的に評価します。

教科書 使用しない。　（資料配布）	参考図書 保育所保育指針＜平成29年告示＞（フレーベル館）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞（フレーベル館）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
健康や時間等、社会人として必要な自己管理をしっかり行い、保育士として必要な専門的な学びの総まとめをしていきましょう。　連絡手段等については、授業時に指示します。

01	ガイダンス（本教科の意義、授業の進め方等についての説明、学びの振り返りレポート作成）
02	保育実践のための教材研究（１）　グループワーク（絵本・制作等の造形実技研究）
03	保育実践のための教材研究（２）グループワーク（歌遊び・手遊び等の音楽実技研究）
04	保育実践のための教材研究（３）実技研究のグループ発表　（模擬保育実践）
05	保育に関わる現代的課題についてのグループ討論と発表（１）保育における安全管理と環境整備
06	保育に関わる現代的課題についてのグループ討論と発表（２）虐待への対応や保護者支援
07	保育に関わる現代的課題についてのグループ討論と発表（３）特別な支援が必要な子への対応
08	保育に関わる現代的課題についてのグループ討論と発表（４）保育士として働くとは
09	学びの振り返り（１）保育士という仕事（意義・役割、職務内容、子どもに対する責任、倫理）
10	学びの振り返り（２）社会性、対人関係能力
11	学びの振り返り（３）子どもやその家庭の理解、職員間の連携、関係機関との連携
12	学びの振り返り（４）保育や子育て家庭に対する支援の展開
13	保育実践のための教材研究（４）保育のための表現力を磨き、発表し合う
14	保育実践者との交流から学ぶ（保育現場の現状を聞く、実習体験での疑問や課題についての討論
15	まとめ　（これまでの学びや保育実習等での体験から、自己の課題を記述し明確化する）
16	定期試験

科目名:保育実習Ⅱ（保育所）	担当者:布施　佐代子,小嶋　玲子,金子　晃之	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	
免許･資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限:① 保育実習Ⅰの単位を修得していること。 ②原則、当該年度の保育実習指導Ⅱ を履修すること。（未履修者は、本実習に参加することはできない。）		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
保育実習Ⅰで学んだことを踏まえて、本教科ではさらに保育所での実習を通して、保育・養護・地域福祉・子育て支援、保育士としての職業倫理等に関するより発展的な知識・技術・態度の体験的な習得をめざす。より多くの有意義な学びができるよう、実習前には保育の現状や子どもの見方についての理解を深め、指導案の作成・発表等を行うことで準備を進め、実習後はグループ討議等を通して実習を振り返り、自己の課題を明確化する。

授業の到達目標
１．保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。２．子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深める。３．既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援について総合的に理解する。４．保育の計画・実践・記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。５．保育士の業務内容や職業倫理について具体的実践に結びつけ理解する。６．自己の課題を明確化する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
実習での実践に向けて、心身の健康を中心とした自己管理や、保育に必要な知識・技術・態度等の力量を磨き高める努力を、学生各自が自覚して日頃から意識的に行うようにしてください。実習実施に先立ち、保育実習指導Ⅱで学んだことをよく確認すること。また事前訪問時に実習園からいただいた資料やご指導をよく理解して入念な準備を行うこと。実習後は、自身が実習を通して学んだことをよく振り返り整理して、今後の自己の課題を明らかにし、その達成に向けて計画的に取り組み、実践力を高めましょう。大学生活最後の実習であることの重要な意味を各自よく胸に刻み、真摯に実習に取り組みましょう。

評価方法
実習園からの評価　60%、実習日誌　20%、実習事後レポート　10%、その他（実習への意欲・実習状況等）　10%を総合して評価する。

教科書	参考図書
保育実習Ⅱハンドブック（大学より配布）	平成29年告示の「保育所保育指針」及び「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（フレーベル館）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
受講要件は①保育実習Ⅰの単位を修得していること、②原則、当該年度の保育実習指導Ⅱを履修することです。これらの科目の未履修者は、本実習に参加することはできません。連絡手段等については、授業時に指示します。

01	学生自らの課題意識に基づき、学外の保育所で、以下の内容について、5月末～6月にかけての2週間
02	２週間（88時間）の実習を実施予定である。
03	（１）観察・参加実習
04	①　保育の概要の理解　　②　当該施設の人的・物的・地域的環境についての理解
05	③　入所児童の行動や姿の観察・理解　④　保育士の職務内容と役割についての概要の理解
06	⑤　家庭や地域社会との関係についての概要の理解
07	（２）　参加・指導実習
08	①　保育の全般についての参加による子どもの生活や発達、ニーズについての体験的な学習
09	とくに、子どもの個人差についての理解と対応、発達の遅れや生活環境に伴う子どもの
10	ニーズについての理解と対応についての学習
11	②　保育の全般についての参加による方法・技術についての体験的な学習
12	③　指導計画についての立案・実践を通しての体験的な学習
13	④　職員間の役割分担とチームワークについての体験的な学習
14	⑤　子どもの最善の利益を具体化する方法についての体験的な学習
15	⑥　保育士としての倫理、使命、責任等についての体験的な学習
16	

科目名:保育実習Ⅲ（施設）	担当者:小柳津 和博,嶋守　さやか	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	
免許･資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限:原則、当該年度の保育実習指導Ⅲを履修すること（未履修者は本実習に参加することはできない）　保育実習Ⅰの単位を修得していること		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　保育実習Ⅰで学んだことをもとに、保育実習Ⅲではさらに保育所以外の児童福祉施設での実習を通して、保育・養護・地域福祉・子育て支援、保育士としての職業倫理等に関する発展的な知識・技術・態度の体験的な履修を目指します。

授業の到達目標
①保育所以外の児童福祉施設の養護の実際を実践し、養護に必要な知識・技術・態度を修得する。②家庭と地域の生活実態にふれて、家庭や地域の福祉ニーズや特別な養護ニーズに対する理解力・判断力を養うとともに、子育て支援に必要な知識・技術・態度を修得する。③養護や子育て支援の体験的な学修を通して、保育士として必要とされる資質や能力、あり方について深く洞察し、自己の課題を確認し、各自の目標を設定・追及する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
実習での実践に向けて、心身の健康管理や養護に必要な知識・技術・態度等の力量を磨き高める努力を日頃から自覚して行うこと。実習実施に先立ち、保育実習指導Ⅲで学んだことをよく確認し、事前・事後訪問時に実習施設からいただいた資料やご指導をよく確認して準備すること。

評価方法
実習施設からの評価60%、実習日誌20%、実習事後レポート10%、その他（実習への意欲・実習状況等）10%を総合して評価する。

教科書	参考図書
保育実習Ⅲハンドブック（大学より配布）	随時紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
実習前から健康管理に気を付けること。実習中は遅刻、早退、欠席をせず、充実した実習ができるように心がけること（急病などで欠席する場合は、実習園には8時30分までに、大学には9時30分までに電話連絡すること。許可なく遅刻、早退、欠席をしないこと）。大学の受付は教務課実習担当（0562-97-5503）である。保育実習Ⅲを再履修する学生においても、保育実習指導Ⅲを再受講することが原則で、実習の履修資格になる。保育実習Ⅰの反省を踏まえて、自己の課題をしっかり持って取り組み、責任ある行動をとるようにしてください。

01	自らの課題意識に基づき、保育所以外の児童福祉施設にて以下の内容で２週間実習実施予定。
02	（１）観察・参加実習
03	①養護の概要の理解
04	②当該施設の人的・物的・地域的環境の理解
05	③入所児童の行動や姿の観察・理解
06	④保育士の職務内容と役割の理解
07	⑤家庭や地域社会との関係についての理解
08	（２）参加・指導実習
09	①養護全般についての参加による子どもの生活や発達、ニーズについて体験的な学修
10	特に個人差についての理解と対応、発達の遅れや生活環境に伴うニーズの理解と対応
11	②養護全般について参加による養護の方法・技術の体験的な学修
12	③援助計画について立案・実践を通しての体験的な学修
13	④職員間の役割分担とチームワークについての体験的な学修
14	⑤子どもの最善の利益を具体化する方法についての体験的な学修
15	⑥保育士としての倫理、使命、責任等についての体験的な学修
16	

科目名:保育実習指導Ⅱ	担当者:布施佐代子, 小嶋玲子, 金子晃之, 堀由里, 野口啓子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	実技
免許・資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限:当該年度の保育実習Ⅱの履修を希望していること。		単位数	1
		必須. 選択	選択必須

授業概要と方法
保育実習Ⅱを充実したものにするための事前事後指導としての本授業では、実習前に実習のあり方や指導案の作成、実習への心構え等について学び、実習後は振り返りを通して自己の課題を明確にし、各自今後に活かしていくという流れの中で、保育実践力を培うことをめざす。基本的にクラスごとに演習形式で行う。

授業の到達目標
１．保育実習Ⅰや既習教科で学んだことを関連づけて理解し、保育実習Ⅱでの実践に活かすことができる。２．実習のために必要な知識・技術・態度を修得し、事前の準備課題、留意事項等をよく理解している。３．自己の実習体験を整理し、振り返りと自己評価を通して、以後の学習課題を明確にすることができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
日頃から自己を振り返り、実習で何を学びたいのか、今すべきことは何かをよく考えて行動するように努めること。実習に必要な知識・技術・態度は、自主的に修得し磨いていくこと。

評価方法
事前課題（課題レポートの提出、指導案や提出物の提出、発表等）50%、事後課題（実習日誌、実習レポート、事後振り返りシート、体験発表等）40%、授業への参加状況10%で総合的に評価する。

教科書 保育実習Ⅱ手引き、実習ハンドブック（大学より配布）	参考図書 新保育所保育指針

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
無断欠席は厳禁です。実習そのものの履修資格を失います。やむを得ず欠席や遅刻をする場合は、教務課実習担当に必ず自分で連絡してください。欠席者には課題を課しますので、必ず担当教員まで来て指導を受けてください。保育実習Ⅱを再履修する学生においても、保育実習指導Ⅱを再受講することが原則で、実習の履修資格になります。連絡手段等については授業時に指示します。

01	オリエンテーション（保育実習の位置づけ・目標・課題、事前訪問の指導も含む）
02	ＤＶＤで子ども（１～6歳）の遊びの発達について、復習・確認
03	保育実習実施に向けて①保育現場のお話を聴き現状と実習生の心構えを学ぶ　②保育実習Ⅱで子育て支援について学ぶ視点を深める　③事前訪問の諸注意
04	3歳未満児の指導案演習（１）2歳児クラスの指導案の書き方を学ぶ
05	3歳未満児の指導案演習（２）2歳児クラスの指導案作成（グループ討議）
06	3歳未満児の指導案演習（３）2歳児クラスの指導案グループ発表
07	実習直前指導（実習中の諸注意・確認）
08	実習事後指導（１）各自およびグループ討議による実習の振り返り・体験発表
09	実習事後指導（２）実習のまとめ（グループ討議による実習のふり返りをさらに深めて学び合う）

2018年度シラバス

科目名:保育実習指導Ⅲ	担当者:小柳津 和博,嶋守　さやか	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	実技
免許・資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限:当該年度の保育実習Ⅲの履修を希望していること。保育実習Ⅰ（保育所・施設）を履修済であること。		単位数	1
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
保育実習Ⅲを充実したものにするための事前事後指導として演習形式で授業を行います。事前指導では、実習のあり方、援助案の作成、実習の心構え等について学びます。事後指導では振り返りを通して自己の課題を明確にし、今後に活かしていくことで保育実践力を培うことを目指します。

授業の到達目標
①保育実習Ⅰや既習科目で学んだことを関連付けて理解し、保育実習Ⅲでの実践に活かすことができる。②実習のために必要な知識・技術・態度を修得し、事前の準備課題、留意事項等をよく理解することができる。③自己の実習体験を整理し、振り返りと自己評価を通して、以後の学習課題を明確にすることができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
日頃から自己を振り返り、実習で何を学びたいのか、今すべきことは何かをよく考えて行動するように努めること。実習に必要な知識・技術・態度は自主的に修得し、磨いていくこと。

評価方法
事前課題（授業課題シート、援助案、発表、提出物等）50%、事後課題（実習日誌、実習レポート、実習振り返りシート、体験発表等）40%、授業への参加態度10%で総合的に評価する。

教科書	参考図書
保育実習Ⅲハンドブック（大学より配布）	随時紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
無断欠席は実習そのものの履修資格を失います。やむを得ず遅刻や欠席をする場合は、必ず実習担当教員または教務課実習担当に自分で連絡すること。保育実習Ⅲを再履修する学生においても、保育実習指導Ⅲも再受講することが原則で、実習履修資格となります。

01	オリエンテーション（保育実習Ⅲの位置づけ・目標・課題）、事前訪問についての説明
02	子どもの遊びの発達について復習・確認（視聴覚教材を活用）
03	児童福祉施設での援助案演習①　援助案の書き方説明、案の作成
04	施設長先生から施設での保育現場のお話を聞き、現状を学ぶ
05	児童福祉施設での援助案演習②　各自作成した援助案の発表・交流
06	事前訪問指導（諸注意等）、障害のある子どもとのコミュニケーション（視聴覚教材を活用）
07	実習直前指導（諸注意、各自の課題整理・確認）
08	実習事後指導（各自の振り返り及び実習体験を通して学んだことの発表・交流）
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2018年度シラバス

科目名:卒業研究演習Ⅰ	担当者:浅野　卓司、加藤　あや美、石山　英明、五十嵐　睦美、上村　晶、太田　早津美、小嶋　玲子、小柳津　和博、勝浦　眞仁、金子　晃之、北島　信子、基村　昌代、嶋守　さやか、寺田　泰人、辻岡　和代、藤田　公和、古畑　淳、堀　由里、松永　康史、森川　拓也、木村　達志、田端　智美、布施　佐代子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	

免許・資格:	開講時期	前期
	配当学年	4
受講者制限:履修対象者は、原則的に１年ゼミから３年ゼミを修了した者とする。	単位数	2
	必須.選択	必須

授業概要と方法
　卒業研究演習は、教育・保育に関わる特定の課題について、個人またはグループで研究し、創作し、「卒業研究」としてまとめることを課題とする。形式は「論文」と「創作」の二つがある。「論文」の場合、地域研究、人物研究、理論研究、歴史研究、比較研究、ケーススタディといった研究方法があり、テーマに則して多様な形態がある。「創作」の場合も、その分野により方法は多様な形態がある。指導方法は、主に個別指導とゼミ全体の集団指導となる。

授業の到達目標
　上記の指導方法を通して「論文」や「創作」が、桜花学園大学保育学部のディプロマポリシーである、教育・保育専門職として課題を発見し、その内容を深く理解し、課題の解決を創造する力を養うレベルになること、また「論文」と「創作」を適切にプレゼンテーションできることを到達目標とする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　　自分の研究テーマを考察する作業は、授業外での膨大な学習時間を自主的に費やさなければならない。

評価方法
　課題提出物（70点）、参加態度（30点）を合計して100点満点で評価する。卒業研究報告会への参加・発表は、単位修得の際の前提条件とする。

教科書 　各教員が指示する。	参考図書 　各教員が指示する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　卒業要件　４年ゼミ（卒業研究演習）の履修対象者は、原則的に１年ゼミから３年ゼミを修了した者とする。但し３年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、４年ゼミと３年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。オフィスアワー　各教員へ尋ねること。

01	卒業研究指導について
02	教職履修カルテの振り返り
03	卒業研究についての個別指導＆集団指導①
04	卒業研究についての個別指導＆集団指導②
05	卒業研究についての個別指導＆集団指導③
06	卒業研究についての個別指導＆集団指導④
07	卒業研究についての個別指導＆集団指導⑤
08	卒業研究についての個別指導＆集団指導⑥
09	卒業研究についての個別指導＆集団指導⑦
10	卒業研究についての個別指導＆集団指導⑧
11	卒業研究についての個別指導＆集団指導⑨
12	卒業研究についての個別指導＆集団指導⑩
13	卒業研究についての個別ゼミ中間報告①
14	卒業研究についての個別ゼミ中間報告②
15	卒業研究についての個別ゼミ中間報告③
16	なし

科目名:卒業研究演習Ⅱ	担当者:浅野　卓司、加藤　あや美、石山　英明、五十嵐　睦美、上村　晶、太田　早津美、小嶋　玲子、小柳津　和博、勝浦　眞仁、金子　晃之、北島　信子、基村　昌代、嶋守　さやか、寺田　泰人、辻岡　和代、藤田　公和、古畑　淳、堀　由里、松永　康史、森川　拓也、木村　達志、田端　智美、布施　佐代子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	

免許・資格:	開講時期	後期
	配当学年	4
受講者制限:履修対象者は、原則的に１年ゼミから３年ゼミを修了した者とする。	単位数	2
	必須.選択	必須

授業概要と方法
　卒業研究演習は、教育・保育に関わる特定の課題について、個人またはグループで研究し、創作し、「卒業研究」としてまとめることを課題とする。形式は「論文」と「創作」の二つがある。「論文」の場合、地域研究、人物研究、理論研究、歴史研究、比較研究、ケーススタディといった研究方法があり、テーマに則して多様な形態がある。「創作」の場合も、その分野により方法は多様な形態がある。指導方法は、主に個別指導とゼミ全体の集団指導となる。

授業の到達目標
　　上記の指導方法を通して「論文」や「創作」が、桜花学園大学保育学部のディプロマポリシーである、教育・保育専門職として課題を発見し、その内容を深く理解し、課題の解決を創造する力を養うレベルになること、また「論文」と「創作」を適切にプレゼンテーションできることを到達目標とする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　　自分の研究テーマを考察する作業は、授業外での膨大な学習時間を自主的に費やさなければならない。

評価方法
　課題提出物（70点）、参加態度（30点）を合計して100点満点で評価する。卒業研究報告会への参加・発表は、単位修得の際の前提条件とする。

教科書 　各教員が指示する。	参考図書 　各教員が指示する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　卒業要件　４年ゼミ（卒業研究演習）の履修対象者は、原則的に１年ゼミから３年ゼミを修了した者とする。但し３年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、４年ゼミと３年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。オフィスアワー　各教員へ尋ねること。

01	卒業研究についての個別指導＆集団指導
02	卒業研究についての個別指導＆集団指導②
03	卒業研究についての個別指導＆集団指導③
04	卒業研究についての個別指導＆集団指導④
05	卒業研究についての個別指導＆集団指導⑤
06	卒業研究についての個別指導＆集団指導⑥
07	卒業研究についての個別指導＆集団指導⑦
08	卒業研究についての個別指導＆集団指導⑧
09	卒業研究についての個別指導＆集団指導⑨
10	卒業研究についての個別指導＆集団指導⑩
11	卒業研究についての個別指導＆集団指導⑪
12	卒業研究抄録集の指導
13	個別ゼミでの卒業研究プレゼンテーション
14	個別ゼミでの卒業研究プレゼンテーション
15	個別ゼミでの卒業研究プレゼンテーション
16	なし

科目名:卒業研究	担当者:浅野　卓司、加藤　あや美、石山　英明、五十嵐　睦美、上村　晶、太田　早津美、小嶋　玲子、小柳津　和博、勝浦　眞仁、金子　晃之、北島　信子、基村　昌代、嶋守　さやか、寺田　泰人、辻岡　和代、藤田　公和、古畑　淳、堀　由里、松永　康史、森川　拓也、木村　達志、田端　智美、布施　佐代子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	

免許・資格:	開講時期	前期・後期
	配当学年	4
受講者制限:履修対象者は、原則的に１年ゼミから３年ゼミを修了した者とする。	単位数	2
	必須. 選択	必須

授業概要と方法
　卒業研究は、教育・保育に関わる特定の課題について、個人またはグループで研究し、創作し、「卒業研究」としてまとめるものである。形式は「論文」と「創作」の二つがある。「論文」の場合、地域研究、人物研究、理論研究、歴史研究、比較研究、ケーススタディといった研究方法があり、テーマに則して多様な形態がある。「創作」の場合も、その分野により方法は多様な形態がある。

授業の到達目標
　上記の指導方法を通して「論文」や「創作」が、桜花学園大学保育学部のディプロマポリシーである、教育・保育専門職として課題を発見し、その内容を深く理解し、課題の解決を創造する力を養うレベルになること、また「論文」と「創作」を適切にプレゼンテーションできることを到達目標とする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　自分の研究テーマを考察する作業は、授業外での膨大な学習時間を自主的に費やさなければならない。

評価方法
　卒業研究の論文もしくは創作を100点満点で評価する。卒業研究報告会への参加・発表は、単位修得の際の前提条件とする。

教科書 　各教員が指示する。	参考図書 　各教員が指示する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　卒業要件　４年ゼミ（卒業研究）の履修対象者は、原則的に１年ゼミから３年ゼミを修了した者とする。但し３年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、４年ゼミと３年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。

01	
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2018年度シラバス

科目名:発達心理学Ⅱ	担当者:布施　佐代子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
本授業では、発達心理学Ⅰで学んだ乳幼児の一般的な発達の特徴と過程についての基礎の上に、さらに保育場面で子どもが生活や遊びを通してどんなことをどのように学びながら発達していくのかを考える。さまざまな実践事例から、子どものとらえ方や発達援助のあり方について、より具体的に学ぶ。グループディスカッションや課題解決学習等を通して、発達と保育・教育のかかわりについて、理解・考察を深めていく。

授業の到達目標
１．子どもの心身発達をふまえた生活や遊びの指導・援助について理解し、具体的に考えることができる。２．保育場面で出会うさまざまな子どもの姿について、発達とのかかわりで心の内面にも注目して深く理解し、的　　確な対応を考えることができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業で学ぶ内容は、実習を初めとする自身のこれからの実践にも積極的に活かしていけるよう、徹底理解をめざしたい。そのために、準備学修として、該当範囲の資料をよく読み込んで、要点をつかみ、自分なりの考えをまとめておくこと。事後学修としては、学習範囲の要点を整理し、理解と考察を深めるよう努めること。　より実践的な理解を深めるために、さまざまな年齢の子どもやより丁寧な支援を必要とする子どもとかかわる機会を進んで持つよう努めましょう。

評価方法
定期試験　60%、レポート・課題提出　20%、授業への参加態度（毎回のワークシートへの記入内容、グループディスカッションへの取り組み状況等）20%　から総合的に評価します。

教科書 使用しない　（　資料配布　）	参考図書 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年告示）フレーベル館

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
保育実践事例を読むときは、発達との関連で実践を考える姿勢を大切に、もし自分がこの実践の担当者ならどう対応するか考え、学びましょう。連絡手段は授業時にお伝えします。オフィスアワーは月曜・金曜のお昼休みです。

01	子どもの発達と保育実践（１）一人ひとりに合った働きかけとは　―個人差や発達状況と保育―
02	子どもの発達と保育実践（２）子どもが安心して自分を出せる保育とは
03	子どもの発達と保育実践（３）身体全体を使った多様な経験と発達とのかかわりを考える
04	子どもの発達と保育実践（４）子ども相互のかかわりと集団づくり
05	子どもの発達と保育実践（５）環境としての保育者と子どもの発達
06	生活や遊びを通した学びの過程（１）生涯にわたる生きる力の基礎をどう築くか
07	生活や遊びを通した学びの過程（２）0・1・2歳児が生活の中で学ぶこと
08	生活や遊びを通した学びの過程（３）0・1・2歳児が遊びの中で学ぶこと
09	生活や遊びを通した学びの過程（４）3・4・5歳児が生活の中で学ぶこと
10	生活や遊びを通した学びの過程（５）3・4・5歳児が遊びの中で学ぶこと
11	保育における発達援助（１）基本的生活習慣の獲得をめざして
12	保育における発達援助（２）自主性・主体性を育むために
13	保育における発達援助（３）発達の連続性と就学への支援を考える
14	保育における発達援助（４）異年齢保育の中で育つもの
15	保育における発達援助（５）子どもの発達の現状と保育の課題
16	定期試験

科目名:障害児の発達理解(各論)Ⅱ	担当者:小柳津 和博	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法 障害とは何かについて考えることをはじめ、障害のある子どもや特別な支援を必要とする子どもの発達の様相や特性について学ぶ。授業の中で、グループによる検討を中心とした体験的な学び合いを展開する。体験的な学習を通して、子どもを支援する際に必要な情報収集力、調整力、説明力、行動力を養う。
授業の到達目標 ①障害種別による発達の様相や特性について理解する。②障害のある子ども達、特別な支援を必要とする子ども達の支援のあり方について理解する。③支援を必要とする子ども達を支える環境作りとして、連携のあり方について理解する。
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修 障害児・者に係る文献、ニュース、映画などに普段から着目しておくこと。実習等でかかわった障害のある子や障害の疑いのある子等について、自分のかかわり方をまとめ、考えを整理しておくこと。
評価方法 授業への参加態度（40%）、授業内での課題・発表（30%）、レポート（30%）により総合的に評価する。

教科書 プリント資料	参考図書 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、小学校学習指導要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 障害のある子どもや特別な支援を必要とする子どもの発達の様相や特性を理解し、支援方法を検討することで、全ての子ども達を支援できる力を身につけていきましょう。初回授業時にオフィスアワーや連絡先を伝えます。

01	オリエンテーション　授業概要および目標、障害とは、障害の捉え方（ICF）
02	障害のある子どもを理解する（聴く・話す・観る）
03	障害を理解する疑似体験
04	障害を理解するための教材作り（計画）
05	障害を理解するための教材作り（作成・発表準備）
06	障害を理解するための教材作り（グループ発表・交流）
07	知的障害児・発達障害児の理解と発達支援の検討（子どもへの支援）
08	知的障害児・発達障害児の理解と発達支援の検討（保護者への支援・職員間での連携）
09	知的障害児・発達障害児の支援方法　グループ発表・交流
10	知的障害児・発達障害児の特性および支援方法に関する解説
11	肢体不自由児・病弱児の障害理解と発達支援の検討（子どもへの支援）
12	肢体不自由児・病弱児の障害理解と発達支援の検討（保護者への支援・関係機関との連携）
13	肢体不自由児・病弱児の支援方法　グループ発表・交流
14	肢体不自由児・病弱児の特性および支援方法に関する解説
15	障害児者の生活を支える道具、本講義のまとめ
16	なし

2018年度シラバス

科目名:教育制度	担当者:金子　晃之	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　学校教育制度の問題を理解する為、毎回、記入式のプリント、参考資料を配布し講義を行う。映像を用いて説明し映像を用いた事例検討を行う。また、受講者がグループ学習で意見交換した後、自分の考えたことを配布プリントに書き込みプレゼンテーションする作業を行う（全5回）。また小テストを行う（全2回）。

授業の到達目標
　この授業の目標は、①現代の学校教育に関する制度的な事項について、基礎的な知識を身に付け、そこにある課題を理解すること、②学校と地域との連携の問題について理解すること、③学校安全への対応に関する基礎的知識も身に付けることにある。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　毎回指示するが、基本的に、次回の資料やプリントをあらかじめ配布する際は、次回までに与えられた課題について学習しておくこと。授業後は、配布資料や書き込んだプリントを読み直し、ポイントを振り返りながら、内容の理解を深めておくこと。

評価方法
　受講態度（20点）、授業時の小テスト（10点）、期末の筆記試験（70点）を合計して100点満点で評価する。

教科書	参考図書
毎回、資料とプリントを配布する。	「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」、「小学校学習指導要領」

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　オフィスアワー　月曜日昼休み　研究室

01	公教育制度の原理と理念①　教育基本法、改正教育基本法、教育振興基本計画
02	公教育制度の原理と理念②　学校教育法及び学校教育法施行規則
03	公教育制度の原理と理念③　地方教育行政の組織及び運営に関する法律
04	公教育制度の原理と理念④　学校評議員、コミュニティスクール、学校評価、学校選択制
05	公教育制度の原理と理念⑤　教育職員免許法、教育公務員特例法
06	学校施設整備指針と学校づくり
07	家庭教育の支援政策
08	幼保一元化の問題
09	小中一貫校と義務教育
10	学校・子どもの生活の変化と近年の教育政策の動向
11	地域学校協働本部と学校づくり
12	地域と学校の安全への取り組み
13	学校保健安全法と事件・事故・災害への取り組み
14	学校安全といじめ問題
15	公教育制度の課題
16	学期末試験

2018年度シラバス

科目名:家庭の教育	担当者:金子　晃之	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園論1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:他学科からの履修を認めない		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　家庭教育とは何かを、乳幼児から青年期までの発達という点から機能的に捉えて考えていく。授業方法は第4回講義以降、毎回、４～６人で１グループとなり、「教科書を順番に音読」して、提示された課題を皆で考えて取り組んでいく。　常に各自が意見を述べながら思考することが求められる能動的な授業形態となる。

授業の到達目標
　アタッチメント、母性・父性の役割、自立というものについて理解し、親・教師・保育者として次世代とかかわる際、何を成長の軸に据えなければならないのかを理解する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　次回の資料やプリントをあらかじめ配布するので、与えられた課題について学習しておくこと。　授業後は、配布資料や書き込んだプリントを読み直し、ポイントを振り返りながら、内容の理解を深めておくこと。

評価方法
　授業への参加態度（30点）、授業内提出物（50点）、学期末レポート（20点）を合計して100点満点で評価する。

教科書	参考図書
Moodleに資料を添付するので、それを各自がプリントアウトして授業に臨むこと。	授業時に指示する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　アクティブラーニングの形態を採った、４～６人１グループの「協働学習」となりますので、その分、学びが深まります。ぜひ体験して下さい。　オフィスアワー　月曜日　昼休み

01	家庭での母性と父性
02	日本社会での家庭のしつけ・学校教育・社会化について考える①西洋型
03	日本社会での家庭のしつけ・学校教育・社会化について考える②日本型
04	物語を失った若者たち
05	子どもを取り巻く社会的環境
06	現代の母子関係の問題
07	分離個体化
08	葛藤モデルと欠損モデル
09	母子関係の距離感
10	アタッチメント
11	アタッチメント研究
12	自分化と物語化
13	社会図式の構造
14	社会図式の形成
15	家庭教育のポイントをまとめる
16	

2018年度シラバス

科目名:家庭支援論	担当者:太田　早津美	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須. 選択	必須

授業概要と方法 少子高齢化、核家族化、経済不況による共働き家庭の増加などの社会的環境の変化により、子育て家庭を取り巻く状況は様々な問題や課題を抱えている。授業では、そうした子育て家庭の現状把握とこれまでの行政や企業の支援策を学びながら、保育所や地域で子育て家庭のニーズや社会的課題を踏まえて考え、子育て支援、家族支援ができるよう理解を深めていく。事例研究などで、積極的に子育て家庭の支援の在り方を学び理解を深めるようにする。
授業の到達目標 子育て家庭を取り巻く現状を把握し、家庭の意義と機能について理解する。子育て家庭の支援体制について理解する。子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と保育所や地域との連携について理解する。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 授業の予習復習をして、教科書に記された大切な用語等を理解し覚えておく事。居住地の子育て家庭の状況や支援対策を知っておくこと。子育て支援センター等に出向き、親子のかかわり方を観察したり、保護者の子育て観や子育ての悩みを聞き、子育て支援についての学びを深めること。
評価方法 筆記試験（８０%）、授業への参加態度・レポート・提出物（２０%）

教科書	参考図書
学ぶ、わかる、みえる　保育と家庭支援　第2版　　（編）上田衛　（みらい）	保育所保育指針　幼稚園教育要領　幼保連携型認定子ども園教育・保育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 新聞や報道による子育て家庭に関連した記事に関心を持ち、子育て家庭の現状をより理解するよう努めましょう。自分のワークライフバランスを考えた時にどのような支援が必要か考えてみましょう。　研究室74２

01	授業ガイダンス　・　家庭支援とは
02	家庭支援の意義と役割
03	家庭支援の必要性
04	保育士等が行う家庭支援の原理
05	子育て家庭を取り巻く社会的状況
06	地域社会の変容と子育て家庭
07	子育て家庭の支援体制
08	子育て支援事業
09	多様な子育て家庭の支援と関係機関との連携
10	地域の子育て家庭への支援状況
11	保育所・幼稚園・幼保連携型認定子ども園における子育て家庭への支援
12	要保護児童及びその家族に対する支援
13	家庭支援を行う保育士の基本姿勢
14	家庭支援の課題とまとめ　①　事例研究と支援方法の考え方
15	家庭支援の課題とまとめ　②　今後の課題と保育者としての支援の在り方
16	定期試験

2018年度シラバス

科目名:保育学特講	担当者:森下　京子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　モンテソーリ教育の歴史、教育内容とその方法論を学びます。教科書「現代に生きるマリア・モンテッソーリの教育思想と実践」を元にモンテッソーリ教育の全体像を捉え、胎児から幼児期の発達と、「生命の援助としての教育」について学びます。具体的には、保育に必要な子どもの見方、捉え方、援助の仕方についての実践のDVDやモンテッソーリ教具に実際に触れて、体験的に学びます。

授業の到達目標
　保育に必要な「子どもの観察」「具体的援助」「環境設定」の方法を、理論的な裏付けとともに体得することを目標とします。そのためには、子どもに必要なことを理解し、環境をどのように準備したらよいかを学ばなければなりません。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　教科書、参考図書、配布資料を予習、復習に活用すること。モンテッソーリ学会HP、世界のモンテッソーリ教育の現況をHP等で紹介するので、活用すること。（２時間）　主催する「瑞穂子どもの家」の見学、もしくはモンテッソーリ教育実践園の見学（２時間）

評価方法
授業への参加態度３０％、DVD視聴のレポート、意見交換２０％、確認テスト５０％（資料持ち込み可）

教科書	参考図書
現代に生きるマリア・モンテッソーリの教育思想と実践　著者　早田由美子、森下京子、野原由利子他KTC中央出版	子どもの発見　著者マリア・モンテッソーリ　いのちのひみつ　シルバーナQ.モンタナーロ

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業と、教具紹介の教室が異なります。初日に、詳しくお知らせします。毎時間、一回は授業について意見、内容についての考えを発表して頂く機会、モンテッソーリ教育に対する率直な意見を求めます。連絡方法、配布資料に明記

01	今日の保育課題とモンテッソーリ教育
02	マリア・モンテッソーリの生きた時代、歴史と子ども観
03	現代の幼児教育・保育の課題＝求められる保育の質 現代の幼児教育・保育の課題＝求められる保育の質
04	人間の発達　①生命の誕生　DVD視聴
05	人間の発達　②新生児の特徴DVD視聴
06	人間の発達　③精神的胎児、発達の四段階
07	モンテッソーリ教育の児童観
08	モンテッソーリ教育の環境構成
09	モンテッソーリ教育における教具とは
10	教具と事例紹介・教具体験
11	教具と事例紹介・教具体験
12	発達の要求とは？
13	子どもの観察　子どもの家での事例紹介
14	生命の援助者としての保育
15	確認テスト、まとめ
16	なし

2018年度シラバス

科目名:教育心理学	担当者:堀　由里	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種		開講時期	前期･後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
発達や学習の概念や理論についてスライドを使用して紹介する。発達については、認知発達や関係性の心理発達を中心に考える。その他、学習のメカニズムや集団のメカニズム、適応や評価について、乳幼児・児童を対象とした教育に資する基本的な知識を扱う。

授業の到達目標
1）幼児、児童の心身の発達および学習の過程について、基礎的な知識を説明することができる。2）各発達段階における心理的特性を踏まえた子どもたちの学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解できる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修：発達心理学で学んだ知識を復習しておく。事後学修：配布プリントを自分なりにまとめ直す。

評価方法
授業への取り組み（30%）、授業内の確認テスト（70%）

教科書 適宜、資料配布	参考図書 授業中に指示する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
常に疑問を持ちながら受講し、保育や教育にどのように活かせるのかを考え続けましょう。オフィス・アワーや連絡手段については授業内で伝えます。

01	教育心理学とは何か
02	幼児・児童の心身の発達に対する概念や理論
03	身体・運動、言語・認知、社会性、関係性の発達について
04	知的発達のメカニズム
05	学習のメカニズムとしての条件づけ、観察・洞察学習
06	記憶や忘却のメカニズム、知識の構造と問題解決の仕組み
07	期待と価値モデル、統制感、原因帰属の考え方
08	教授－学習過程と教育評価
09	人格発達のメカニズム
10	学級集団の特性と集団づくり
11	仲間関係、教師の影響力
12	自閉症スペクトラム障害、ADHD、LDの子どもと共に学ぶ
13	不登校、いじめ、暴力行為への対応
14	適正処遇交互作用、カウンセリング・マインドをもつこと
15	学習内容の確認
16	なし

2018年度シラバス

科目名:教育課程論	担当者:北島　信子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:小学校教諭1種		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法 教育課程の意義について、教育課程改革の史的展開、カリキュラム編成の主体、子どもの発達と教課程のあり方等より講義する。授業の方法は、プリント資料や視聴覚教材を使用する。
授業の到達目標 教育課程の意義について、教育課程改革の史的展開、カリキュラム編成の主体、子どもの発達と教課程のあり方を理解し、教育課程編成の力量を形成することを目標とする。
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修 原則、毎時次週以降の課題を配布するため、必ず資料を読んで授業に臨むこと（準備学修）。また、教育課程に関わる時事問題に関心をもち、新聞や文部科学省のホームページなどを閲覧しておくこと（準備学修）。教育課程を実際にどのように編成していくか、自己の実践課題などとともに考える（事後学修）。
評価方法 原則毎回の授業内レポート（30%）、授業での発表・討論への参加（10%）、試験（60%）により評価する。

教科書	参考図書
使用しない	小学校学習指導要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 原則、毎授業のレポートがありますので、積極的な学習をしてください。オフィスアワーは火曜・水曜の昼休みです。

01	教育課程とは何か
02	カリキュラム編成の原理
03	教育課程改革の歴史（１）デューイ
04	教育課程改革の歴史（２）プロジェクト・メソッドとドルトン・プラン
05	教育課程改革の歴史（３）大正新教育
06	教育課程改革の歴史（４）戦後の新教育（１）
07	教育課程改革の歴史（５）戦後の新教育（２）
08	学習指導要領の変遷（１）1947年版～1989年改訂まで
09	学習指導要領の変遷（２）1998年改訂～現行まで
10	諸外国の教育課程について
11	総合的学習の教育課程について
12	教育課程の構造
13	教科書のあり方について
14	教育評価の方法と課題
15	まとめ
16	定期試験

2018年度シラバス

科目名:保育課程論	担当者:上村　晶	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:特になし		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
幼児教育及び保育現場における教育課程や、教育・保育の内容に関する全体的な計画の意義を理解した上で、園の指導計画と実践の系統性・往還性を認識しながら、指導計画と評価の在り方について理解を深める。また、学生自身が幼児教育・保育のグランドデザインを編成する中で、カリキュラム・マネジメントについて理解を深める。

授業の到達目標
１．幼児教育・保育カリキュラムの意義、教育課程及び教育・保育に関する全体的な計画の編成や指導計画の役割や機能について理解する。２．子どもの発達過程を踏まえた教育課程や指導計画の意義、作成方法について理解する。３．さまざまな教育・保育の実際と内容、記録の在り方・評価の意義と方法を踏まえ、カリキュラム・マネジメントやカリキュラム評価の基本的な考え方を理解する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
毎回の授業で、課題（テキスト予習及び次回のテーマ）を発表します。次回の授業までに、事前に教科書を熟読するなどして、テーマについて自身の考えを明確にして授業に臨んでください。また、課題を作ながら成し、発表・提出に備えてください。

評価方法
最終筆記試験（60%）、私の理想園（指導計画）ファイル及びプレゼンテーション（25%）、授業への取組（授業シート含む15%）で総合評価を行う。

教科書	参考図書
「保育カリキュラム論」豊田和子・新井美保子編著　建帛社	平成29年度告示版 幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、保育所保育指針解説書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
指導計画の作成は保育現場で必要な力量の1つです。どのような幼児教育や保育をデザインしていきたいかなど、常に課題意識を持ちながら授業に臨んでください（OH等は初回開示）

01	オリエンテーション、幼児教育・保育の基本とカリキュラムーカリキュラムの考え方と展望
02	幼児教育・保育の実践とカリキュラムの関係－社会に開かれた教育課程・全体的な計画の意義
03	幼稚園教育要領における教育課程及び全体的な計画と指導計画の基礎理解
04	保育所保育指針における全体的な計画と指導計画の基礎理解
05	幼保連携型認定こども園教育・保育要領における全体的な計画と指導計画の基礎理解
06	子どもの発達理解の長期及び短期指導計画のデザインと実践展開（１）ー3歳未満児
07	子どもの発達理解の長期及び短期指導計画のデザインと実践展開（２）ー3歳以上児
08	多様な保育・幼児教育の「指導計画」のデザイン（１）－預かり保育・長時間保育
09	多様な保育・幼児教育の「指導計画」のデザイン（２）－保幼小連携・食育
10	保育のカリキュラム・マネジメント　－PDCA サイクル、記録・反省・評価の意義
11	私の理想園作成（１）－教育及び保育に関する理念・方針・目指す子ども像
12	私の理想園作成（２）－教育課程・全体的な計画、教育・保育の内容に関する全体的な計画
13	指導計画のデザインと実践展開　－長期指導計画と短期指導計画の系統性と往還性
14	私の理想園発表（１）－グループプレゼンテーションと質疑応答
15	私の理想園発表（２）－全体プレゼンテーションとカリキュラムの評価
16	定期試験

2018年度シラバス

科目名:算数科教育法	担当者:小林　美記代	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:小学校教諭1種		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法 ・学習指導要領に基づいて、算数科の目標や各領域の内容を具体的に解説する。・指導方法や指導技術に関して、体得する。
授業の到達目標 ・学習指導要領の算数科の目標や各領域の内容について理解する。・子どもが「わかる」「できる」算数の授業が実践できるような授業力を身に付ける。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 ・次時の内容を予告し、課題を指示するので、教材研究をする。
評価方法 毎回の講義への参加態度及びレポート（プリントへの記入）６０%、確認テスト４０%

教科書	参考図書
毎回、プリントを配布する	小学校学習指導要領解説・算数編（東洋館出版社）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) ペアやグループで行うことがあるので、積極的に参加するように。連絡方法は、授業内にて開示。

01	算数科の目標と内容
02	授業力向上のための手だて（教材把握・指導技術など）
03	演習１：１年　おおきさくらべ
04	演習２：１年　たしざん
05	演習３：２年　長さ
06	演習４：２年　１０００までの数
07	演習５：３年　円と球
08	演習６：３年　たし算とひき算の筆算
09	演習７：４年　角の大きさ
10	演習８：４年　小数×整数、小数÷整数
11	演習９：５年　分数
12	演習10：５年　面積
13	演習11：６年　比とその利用
14	演習12：６年　図形の拡大と縮小
15	まとめと確認テスト
16	定期試験

2018年度シラバス

科目名:理科教育法	担当者:木村　幸泰	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:小学校教諭1種		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法 小学校の理科教育の目標や内容、授業づくりについて、新学習指導要領や具体的な事例をもとに講義を行います。
授業の到達目標 児童の資質・能力を高める問題解決的な授業ができるよう、「理科教育の基礎知識」や「授業づくりの方策」を獲得する。
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修 「子どもたちがどんな疑問をもち、どんな考えをもつか」という視点を大切にしながら、毎時の小レポートの作成をする。
評価方法 ①授業への積極的参加度：３０％　②毎時の小レポート：５０％　③課題レポート：３０％

教科書	参考図書
小学校学習指導要領の解説　理科編	小学校学習指導要領の解説　理科編

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・「何を目標に授業を組織するか」「子どもたちがどう考えるか」「どんな手立てが有効か」を考えながら理科の授業づくりを学んでください。・質問は、Mooddleで受け付けます。・連絡方法は、授業内に開示します。

01	オリエンテーション、講義の導入：達人の理科授業から
02	理科の教育目標と新学習指導要領
03	子どもたちの問題意識を高める教材と授業
04	学習問題や発問と子どもたちの考え方
05	国立教育政策研究所等の授業アイデア例を使った模擬授業の試行（グループ発表）
06	「動物」や「植物」の不思議を感じる授業の教材研究
07	「音」や「磁石」などのおもしろさが分かる授業の教材研究
08	「物の燃え方」や「太陽と月の動き」などの見えないものが見えてくる授業の教材研究
09	基本的な観察・実験の指導と失敗あるある
10	子どもたちの問題意識を高める授業の指導案づくり（グループ活動）
11	子どもたちの問題意識を高める授業の指導案と模擬授業づくり（グループ活動）
12	模擬授業による授業研究（グループ発表）
13	達人の授業と指導のノウハウ
14	学習の評価とつまずきへの対応
15	これからの理科教育と授業づくり
16	なし

2018年度シラバス

科目名:音楽科教育法	担当者:丹羽　裕子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:小学校教諭1種		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法	
授業の到達目標	
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修	
評価方法	
教科書	参考図書
その他(学生へのアドバイス、連絡手段)	

01	
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2018年度シラバス

科目名:家庭科教育法	担当者:栗田　舞	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:小学校教諭1種		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法 講義で小学校における家庭科に必要な知識と具体的な指導方法を身に付け、家庭科の教科として概要と指導内容、そして様々な指導法を修得する。そして家庭科の様々な分野について教材研究を行なう。また、最終的には各自で学習指導案を作成、発表し全体検討を行ない高め合う。
授業の到達目標 ①学習指導要領における家庭科の内容を修得する。②教育問題意識を持ち、教材研究や学習指導案を作成することができる。③家庭科の授業を成立させることができる。
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修 日々の生活を送るなかで、疑問に思ったことや気になったことをそのままにせず、調べて実践することにより自分なりの解釈を広げていくこと。生活のあらゆることが、家庭科の学習の糧になるので、常にアンテナを広げて生活してほしい。
評価方法 学習指導案　４５％　　教材研究発表　３０％　　グループ討議、自己評価シート　１５％　　参加態度　１０％

教科書	参考図書
小学校家庭科の指導　㈱建帛社・新編　新しい家庭５，６　東京書籍	小学校学習指導要領家庭科編

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 質問等は講師控室まで

01	ガイダンス　学習指導要領における家庭科の概要と展開
02	家庭科の学習指導と評価
03	家族分野における教材研究、学習指導案の構成と全体検討
04	住生活分野における教材研究、学習指導案の構成と全体検討
05	食生活分野、調理における教材研究、学習指導案の構成と全体検討
06	衣生活分野、製作における教材研究、学習指導案の構成と全体検討
07	環境、消費生活分野における教材研究、学習指導案の構成と全体検討
08	家庭科の授業づくりと学習指導案
09	学習指導案の構成
10	家族分野における模擬授業と全体検討
11	住生活分野における模擬授業と全体検討
12	食生活分野、調理における模擬授業と全体検討
13	衣生活分野、製作における模擬授業と全体検討
14	環境、消費生活分野における模擬授業と全体検討
15	まとめと総括　家庭科の授業と学習指導案
16	なし

2018年度シラバス

科目名:体育科教育法	担当者:渡邉　弘義	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:小学校教諭1種		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法 　小学校学習指導要領「体育」の主旨を理解する。そして、現在抱える体育科教育の課題を勘案しながら、実際の学校教育の場において実践できるための体育授業づくりを中心に、小学校の体育教育全般を通して指導者としてどうあるべきかを学ぶ。
授業の到達目標 　「運動に親しむ資質や能力の育成」「健康の保持増進」「体力の向上」という体育科の目標を理解する。そして、学校体育全般において安全に配慮した指導や、体育施設・器具用具等の安全管理を基盤に、児童一人一人に着眼しながら全体を指導する体育授業等の計画や実践ができるようにする。
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修 　愛知県内外の小学校の公開授業や研究発表会等へ参加する。また、現場を体験する意味で、母校や近隣の学校の行事・部活動・授業後活動等（名古屋市のふれあいフレンド活動やトワイライトスクールの学生ボランティア活動等）へ積極的に参加・体験・見学を行う。
評価方法 　授業に対する参加意欲や態度（毎時の授業の振り返り感想。グループでの話し合い、司会進行・発言・発表等）４５％、レポート５５％（レポート提出２回以上、確認テストを含む）

教科書	参考図書
小学校学習指導要領の解説　体育編	小学校学習指導要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 　授業形態としては、グループでの話し合いや話し合ってまとめた内容を発表し合うなど参加型の学習活動を重視する。連絡手段は授業内で開示する。

01	オリエンテーション　講義の進め方と受講の評価について
02	体育科教育の課題１　①体力の現状と将来への影響　②安全を優先する体育科教育
03	体育科教育の目標と実際　体育科教育の必要性について
04	体育科教育の内容１　体つくり運動　器械運動系　陸上運動系　水泳系　ボール運動系
05	体育科教育の内容２　表現運動系　集団行動　保健領域と健康教育
06	各学年の目標及び内容と実際　第１学年及び２学年から６学年
07	体育科教育の課題２　体育の意義と新しい学習指導要領の方向
08	授業の進め方と実際１　年間指導計画と単元指導計画の作成
09	授業の進め方と実際２　指導案の作成
10	授業の進め方と実際３　指導と評価
11	授業の進め方と実際４　施設設備の安全管理と授業経営
12	体育的行事（校外学習や部活動を含む）の計画立案と運営の実際
13	児童一人一人の個性を配慮したグループ編成と授業経営
14	体育的活動中の事故の予防と安全管理 学校管理下での事故と危機管理１
15	学校管理下での事故と危機管理
16	

2018年度シラバス

科目名:児童英語教育法	担当者:加藤　あや美	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:J-SHINE		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
小学校における外国語活動及び外国語指導法の理論と実践の両面について学びながら、児童に対する外国語の指導法についての知識を深めていきます。授業は講義及び実践の形を取り、小学校における外国語教育についての概要を学ぶとともに、教材研究や指導案の作成の方法も学び、実際に模擬授業を行うことで実践的なトレーニングも行っていく予定をしています。

授業の到達目標
小学校における外国語活動と外国語の学習・指導に関する知識および授業における指導と学習評価の基礎を身につける。また、児童の年齢に応じた基礎的な指導案を作成することができ、適切な教材選択ができる力を養う。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
模擬授業等に取り組む際には、指導案の準備を怠らないようにしましょう。また、指導法だけでなく英語それ自体の知識やスキルも必要となるため、日常的な英語の学習を行うようにして下さい。授業中はグループワーク等も取り入れていく予定をしているため、グループごとにコミュニケーションを取りながら進めるようにしましょう。

評価方法
期末レポート　50%　ミニレポート　30%　　模擬授業の発表内容　20%

教科書	参考図書
小川隆夫他（2017）小学校英語はじめる教科書	小学校学習指導要領解説　外国語編・外国語活動編（平成29年3月告示）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
科目の特性上、多くの発言を求めますので積極的に授業に参加して下さい。（オフィスアワー：火曜昼休み）

01	学習指導要領から見る外国語活動と外国語
02	小中高と小学校の役割
03	児童や学校の多様性への対応
04	言語使用を通した言語習得・音声によるインプット
05	コミュニケーションも目的や場面、状況等に明確にした言語活動
06	受信から発信、音声から文字へ
07	国語教育との連携
08	児童の発話の引き出し方、児童とのやり取りの進め方
09	文字言語との出会わせ方、読む活動から書く活動への導き方
10	題材の選定と教材研究
11	学習到達目標、指導計画（カリキュラムマネジメント）
12	学習指導案の作成
13	模擬授業（TTによる授業）・ALT等とのティーム・ティーチングによる指導の在り方
14	模擬授業（ICTによる授業）・ICT等の活用の仕方
15	学習状況の評価（パフォーマンス評価）
16	なし

2018年度シラバス

科目名:保育内容指導法「生活と表現Ⅱ」	担当者:田中　義和, 脇　志津子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種・保育士資格		開講時期	前期･後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須. 選択	選択

授業概要と方法
幼稚園教育要領・保育所保育指針「表現」領域の中の造形・表現活動の分野について学習します。実際の保育実践に即して実技と理論の両面から学習します。

授業の到達目標
現場の保育者となったときに、造形・表現活動に意識的に取組むことができる、保育者としての基礎的な力量の形成を目指します。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業時に出される課題・レポートに取り組む。

評価方法
授業への参加態度（３０%）　レポート（３５%）　定期試験（３５%）授業への参加態度には、授業時に課される小課題の評価も含まれます。

教科書 特に使用しない。	参考図書 「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「幼稚園教育要領」

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業で学んだことを積極的に実習やボランティア活動で実践してみよう。教員への連絡方法については初回授業で説明します。

01	オリエンテーション　授業の概要と授業計画の説明
02	感触あそび
03	乳児クラスの描画表現活動の発達
04	手づくりタンポ
05	絵具遊び（お好み焼き）
06	乳児クラスの描画表現活動の指導・援助
07	幼児クラスの描画表現活動の発達
08	幼児クラスの描画表現活動の指導・援助
09	技法遊び
10	絵具指導
11	絵の苦手な子への指導
12	いろいろな画材を使った描画表現活動
13	子どもの描画と対話活動
14	障害を持つ子の描画表現活動
15	プロジェクト活動と描画表現活動
16	試験

2018年度シラバス

科目名:障害児保育	担当者:勝浦　眞仁,小柳津 和博	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法 １．障害児保育を支える理念、２． 障害児等の理解と保育における発達の援助、３．障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育の実際、４．家庭及び自治体・関係機関との連携 、５．障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関わる現状 と課題 、これらについてDVD等の映像や事例を活用しながら学ぶ。
授業の到達目標 ①障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について理解する。 ②個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解する。③障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する。 ④障害児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関 係機関との連携・協働について理解する。⑤障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状 と課題について理解する。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 毎回の授業後にmoodleによる課題を出し、理解度を確認する。また教科書を読み、授業内容の発表を学生が行う。オリエンテーションでグループ分けを行う。事例検討についてもグループ分けし、支援の方法を学び合う。障がいのある子どもに係わるテレビや新聞・ネットの記事などに普段から着目するようにしていくこと。
評価方法 ２名の教員の評価点を合計して、成績評価を行う。小テスト（60%）、発表（25%）、授業への参加態度（15%）により総合的に評価する。

教科書	参考図書
特別の支援を必要とする子どもの理解―共に育つ保育を目指して―（勝浦眞仁編著、ナカニシヤ出版）	保育所保育指針及び解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び解説

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 保育者を目指す学生にとって、障がいのある子どもたちとの出会いは貴重な機会であり、自身の保育観・障がい観を見つめ直す機会となる。２年生での学びやこれまでの実習での体験を基に、さらに理解を深めてほしい。連絡先： katuura@ohkagakuen-u.ac.jp;oyaizu@ohkagakuen-u.ac.jp

01	オリエンテーション
02	「障害」の概念と障害児保育の歴史的変遷
03	インクルージョンおよび合理的配慮の理解
04	特別の配慮を要する子どもの理解と援助（外国籍、貧困）
05	特別の配慮を要する子どもの理解と援助（気になる子、医療的ケア児等）
06	乳幼児健康診査と就学時健康診断
07	障害児保育の基本―共に育つということ―
08	発達を支援する環境作り（職員間の協働、支援チーム作り）
09	発達を支援する環境作り（生活、遊び）
10	発達を支援する環境作り（子ども同士の関わり合い、育ち合い）
11	保護者との連携
12	地域専門機関（小学校含む）との連携
13	指導計画、個別の支援計画の作成と活用、ケース会議
14	事例検討会の準備
15	事例検討会（発表）
16	なし

2018年度シラバス

科目名:乳児保育Ⅱ	担当者:太田　早津美	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:乳児保育Ⅰを修得したもの		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
乳児保育の重要性を自覚し、保育士としての専門性を高める為に、乳児の生活と保育について講義と演習により具体的に学ぶ。事例検討やグループ討議により学びを深める。プレゼンテーションなどを行い能動的に学ぶ。

授業の到達目標
乳児保育1を踏まえ、乳児保育に必要な知識や技術をさらに習得し、保育士としての自覚をもち、専門性を高める。乳児保育をするために必要な教材研究を行い、実際にそれを活用した保育実践を考える。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
乳幼児の発達の理解が深まるよう乳幼児と接触する機会を積極的に作る。　乳児保育に役立つ手作りおもちゃ・教材を研究し制作する。

評価方法
筆記試験（６０％）、授業態度・課題・提出物（４０％）を総合的に判断する。

教科書	参考図書
理論と実践に学ぶ「乳児保育」太田早津美（編）青踏社 ２９年告示保育所保育指針　フレーベル	授業時に適宜紹介

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
子どもに関するニュースや社会の動きについて関心を持ち、積極的に情報収集する。日頃から乳幼児と触れ合う機会を多く作り乳幼児の理解に努める。子育て支援センターなどで、子育て支援について理解を深める。研究室742

01	授業概要および評価方法等の説明
02	乳児保育の現場
03	保育所保育指針が示す３歳未満児の保育内容 ０．１．２
04	0歳児の発達と保育
05	1.2歳児の発達と保育
06	保育の計画と記録
07	３歳未満児の遊びと環境（演習　教材づくり）教材作りの説明と制作活動
08	３歳未満児の遊びと環境（演習　教材づくり）教材作りの続き
09	３歳未満児の遊びと環境（演習　教材づくり）仕上げのための制作活動
10	３歳未満児の記録、家庭との連絡
11	乳児保育と連携
12	子育て支援　・保護者との対応
13	実践例から見る援助の実際（連絡帳・保育記録の書き方　散歩　危機管理）
14	実践例から見る援助の実際（授乳　おむつ替え　沐浴　着替え）
15	まとめ
16	定期試験

科目名:社会的養護内容	担当者:上田　一稔	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許・資格:保育士資格		開講時期	前期・後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　本授業は保育学部の教育・保育の内容・方法に関する領域に配置された専門教育科目であり、子どもを社会的に養護していくための知識や技術について学修する。具体的には個々の子どもに応じた支援計画の作成、日常生活支援・自立支援等の方法と技術を理解するとともに、保育者としての支援力を習得する。授業は演習方式で少人数のグループを作り、各事例に関するグループワークを行う。

授業の到達目標
１．社会的養護における子どもの権利擁護について理解する。２．施設養護および家庭養護の役割や機能について理解する。３．個々の子どもに応じた自立支援計画書、児童発達支援計画書等の作成の意味と留意点を理解する。４．児童福祉施設での保育士の役割を学び、支援者としての援助実践力を身につける。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　社会的に養護を必要とする子どもを支援する保育者は、適切な支援および技術を習得する必要がある。したがって、社会的養護に関連する文献(虐待・障害・貧困等)を読み、児童福祉施設でのボランティア活動および見学を行うなどして研鑽することを推奨する。

評価方法
定期試験(40%)、授業への参加態度(30%)、レポート(30%)により総合的に評価する。

教科書	参考図書
「よくわかる社会的養護内容」(第3版)　　小木曽宏・宮本秀樹・鈴木崇之編　ミネルヴァ書房	授業の中で適宜紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　保育者を志す学生にとって、問題を抱える子どもについて学ぶことは必要である。日頃から子どもを取り巻く報道に関心を寄せ、自分の見解を持ち、授業時に発表できるように心がける。授業後30分をオフィスアワーとする。

01	オリエンテーション・社会的養護の概要
02	子どもの権利擁護と保育士等の倫理および責務
03	施設養護の特性および実際①(乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設)
04	施設養護の特性および実際②(障害児施設・情緒障害児短期治療施設・児童自立支援施設)
05	家庭養護の特性および実際
06	支援計画の作成(自立支援計画書・児童発達支援計画書)
07	日常生活支援に関する事例分析
08	心理的支援に関する事例分析
09	自立支援に関する事例分析
10	記録および自己評価
11	社会的養護における保育士の専門性および多職種連携支援
12	社会的養護におけるソーシャルワーク
13	被虐待児への対応および虐待防止
14	施設の小規模化と地域福祉との連携
15	社会的養護の課題と展望・授業のまとめ
16	定期試験

科目名:特別支援教育論	担当者:小柳津 和博	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:小学校教諭1種		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
特別支援教育の理念や課題を踏まえ、特別支援教育の対象となる子ども達への支援・指導のあり方を検討する。体験的な学習を中心にして、主体的に仲間と協力して学び合うことで、特別支援教育に携わる際に必要な知識・技能・態度を培う。

授業の到達目標
①特別支援教育の理念や課題について理解する。②特別支援教育の対象となる子ども達への支援・指導のあり方について仲間と協働して検討できる。③特別支援教育を支える個別の教育支援計画、個別の指導計画、連携のあり方について理解する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
障害児・者に係る文献、ニュース、映画などに普段から着目しておくこと。実習等でかかわった障害のある子、障害の疑いのある子等について、自分のかかわり方をまとめ、考えを整理しておくこと。

評価方法
授業への参加態度（40%）、授業内での発表（30%）、定期試験（30%）により総合的に評価する。

教科書 プリント資料	参考図書 小学校学習指導要領、特別支援学校教育要領・学習指導要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
特別支援教育を進める上で大切となる視点にチームワークがあります。授業外の場面でも仲間を尊重し、互いに協力しあえる関係作りを深めることで、保育・教育の現場で「協働できる」力を高めていきましょう。授業初回時にオフィスアワーや連絡先を伝えます。

01	オリエンテーション　授業概要および目標、特別支援教育の理念、現状と課題
02	特別支援教育を支える上での関係作り
03	特別支援教育を展開する場、教育課程
04	特別支援教育における授業作りの視点
05	特別支援教育における教科の学習指導
06	特別支援教育における国語・算数の授業作り　※グループでの検討
07	特別支援教育における国語・算数の授業作り　※発表・解説
08	個別の指導計画、個別の教育支援計画の作成と活用
09	全ての子どもたちが理解しやすい伝え方の工夫
10	特別支援教育における自立活動の学習指導
11	特別支援教育における自立活動の授業作り　※グループ演習
12	特別支援教育における自立活動の授業作り　※発表・解説
13	身体の動きを通した自立活動の学習指導
14	肢体不自由児の「食べる・飲む」ことを通した学習指導
15	障害のある子どもの余暇活動支援「ユニバーサルスポーツ」、本講義のまとめ
16	定期試験

科目名:音楽ⅢＡ	担当者:基村　昌代, 五十嵐　睦美, 赤松　みどり, 佐藤　恭子, 手嶋　麻利, 田辺　美砂子, 藤本　圭子, 高橋　恵理, 竹井　史, 谷田　育代, 野々山　雅子, 玉護　眞理子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種・小学校教諭1種		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須. 選択	選択

授業概要と方法
　クラシック、童謡、ジャズ、ポピュラーなど様々なジャンルをピアノ演奏・弾き歌い曲・コード譜にて扱い、教育・保育における子どもの音楽活動のための音楽技術の向上と専門知識を学ぶ。任意のピアノ曲と弾き歌いを課題とし、譜読み宿題をオンラインにて課す。

授業の到達目標
　学生自身が音楽をより好きになること、弾き歌いは歌詞や曲の構成を理解し、表現豊かな演奏を目指す。また幼・保・小での実践に活かせる音楽能力の育成と実践力と共に幅広い創造力及び感性の育成を目標とする。年間を通してピアノ曲５曲、弾き歌い曲10曲、コード譜５曲（すべて任意曲）以上を習得する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　毎日少しの時間でもピアノに触れ、歌うことが上達への近道です。

評価方法
　試演会評価100点、平常点100点、オンライン課題提出状況100点の合計300点を100点に平均して算出する。平常点は半期を通して担当教員が到達度、学修意欲、出欠状況、学習態度を総合して評価する。なお、試演会は複数の教員が個々に審査し、合議した上で評価する。

教科書 テキストは担当教員が随時提示	参考図書 幼稚園教育要領解説・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説・保育所保育指針解説書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　与えられた課題をこなすだけではなく、自分で様々な曲にチャレンジしましょう。そして音楽の楽しさを味わって下さい。音楽の魅力や奥深さを感じることが出来ると思います。沢山の曲に触れることで、皆さんのレパートリーを増やして下さい。

01	オリエンテーション・任意曲実践(ピアノ演奏・弾き歌い)、譜読課題
02	任意曲実践(ピアノ演奏・弾き歌い・コード譜)、ピアノ奏法(記譜の基本確認)、譜読課題
03	任意曲実践(ピアノ演奏・弾き歌い・コード譜)、ピアノ奏法(打鍵・ペダルの踏み方確認)、譜読課題
04	任意曲実践(ピアノ演奏・弾き歌い・コード譜)、ピアノ奏法(テンポについて)、譜読課題
05	任意曲実践(ピアノ演奏・弾き歌い・コード譜)、ピアノ奏法(強弱と抑揚)、譜読課題
06	任意曲実践(ピアノ演奏・弾き歌い・コード譜)、コード進行の定型、譜読課題
07	任意曲実践(ピアノ演奏・弾き歌い・コード譜)、コード進行の定型、譜読課題
08	任意曲実践(ピアノ演奏・弾き歌い・コード譜)、コードの転回形、譜読課題
09	任意曲実践(ピアノ演奏・弾き歌い・コード譜)、コードの転回形、譜読課題
10	任意曲実践(ピアノ演奏・弾き歌い・コード譜)、様々な伴奏パターン、譜読課題
11	任意曲実践(ピアノ演奏・弾き歌い・コード譜)、様々な伴奏パターン、譜読課題
12	任意曲実践(ピアノ演奏・弾き歌い・コード譜)、楽曲の内容解釈と表現方法、譜読課題
13	任意曲実践(ピアノ演奏・弾き歌い・コード譜)、楽曲の内容解釈と表現方法、譜読課題
14	任意曲実践(ピアノ演奏・弾き歌い・コード譜)、楽曲の内容解釈と表現方法、譜読課題
15	試演会、総括
16	

2018年度シラバス

科目名:音楽ⅢＢ	担当者:基村　昌代, 五十嵐　睦美, 赤松　みどり, 佐藤　恭子, 手嶋　麻利, 田辺　美砂子, 藤本　圭子, 高橋　恵理, 竹井　史, 谷田　育代, 野々山　雅子, 玉護　眞理子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習

免許･資格:幼稚園教諭1種・小学校教諭1種免許状	開講時期	後期
	配当学年	3
受講者制限:	単位数	1
	必須. 選択	選択

授業概要と方法
　クラシック、童謡、ジャズ、ポピュラーなど様々なジャンルをピアノ演奏・弾き歌い曲・コード譜にて扱い、教育・保育における子どもの音楽活動のための音楽技術の向上と専門知識を学ぶ。任意のピアノ曲と弾き歌いを課題とし、譜読み宿題をオンラインにて課す。

授業の到達目標
　学生自身が音楽をより好きになること、弾き歌いは歌詞や曲の構成を理解し、表現豊かな演奏を目指す。また幼・保・小での実践に活かせる音楽能力の育成と実践力と共に幅広い創造力及び感性の育成を目標とする。年間を通してピアノ曲５曲、弾き歌い曲10曲、コード譜５曲（すべて任意曲）以上を習得する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　毎日少しの時間でもピアノに触れ、歌うことが上達への近道です。

評価方法
　試演会評価100点、平常点100点、オンライン課題提出状況100点の合計300点を100点に平均して算出する。平常点は半期を通して担当教員が到達度、学修意欲、出欠状況、学習態度を総合して評価する。なお、試演会は複数の教員が個々に審査し、合議した上で評価する。

教科書 担当教員が随時提示	参考図書 幼稚園教育要領解説・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説・保育所保育指針解説書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　与えられた課題をこなすだけではなく、自分で様々な曲にチャレンジしましょう。そして音楽の楽しさを味わって下さい。音楽の魅力や奥深さを感じることが出来ると思います。沢山の曲に触れることで、皆さんのレパートリーを増やして下さい。

01	オリエンテーション・任意曲実践(ピアノ演奏・弾き歌い)、譜読課題
02	任意曲実践(ピアノ演奏・弾き歌い・コード譜)、ピアノ奏法(記譜の基本確認)、譜読課題
03	任意曲実践(ピアノ演奏・弾き歌い・コード譜)、ピアノ奏法(打鍵・ペダルの踏み方確認)、譜読課題
04	任意曲実践(ピアノ演奏・弾き歌い・コード譜)、子どもの声の発達１、譜読課題
05	任意曲実践(ピアノ演奏・弾き歌い・コード譜)、子どもの声の発達２、譜読課題
06	任意曲実践(ピアノ演奏・弾き歌い・コード譜)、歌詞の読解、譜読課題
07	任意曲実践(ピアノ演奏・弾き歌い・コード譜)、歌詞の読解、、歌詞に基づいた表現方法、譜読課題
08	任意曲実践(ピアノ演奏・弾き歌い・コード譜)、歌詞の読解、、歌詞に基づいた表現方法、譜読課題
09	任意曲実践(ピアノ演奏・弾き歌い・コード譜)、歌詞の読解、、歌詞に基づいた表現方法、譜読課題
10	任意曲実践(ピアノ演奏・弾き歌い・コード譜)、楽曲の内容解釈と表現方法、譜読課題
11	任意曲実践(ピアノ演奏・弾き歌い・コード譜)、楽曲の内容解釈と表現方法、譜読課題
12	任意曲実践(ピアノ演奏・弾き歌い・コード譜)、楽曲の内容解釈と表現方法、譜読課題
13	任意曲実践(ピアノ演奏・弾き歌い・コード譜)、楽曲の内容解釈と表現方法、譜読課題
14	任意曲実践(ピアノ演奏・弾き歌い・コード譜)、楽曲の内容解釈と表現方法、譜読課題
15	試演会、総括
16	

2018年度シラバス

科目名:体育Ａ	担当者:藤田　公和,佐藤　桃子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	実技
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法 この授業では幼稚園・保育所で子どもたちが実施している様々な運動遊びと小学校の体育との関連・系統性を理解し、自ら運動遊びを経験することによって、子どもの発育・発達段階に応じた運動遊びを提供できたり、運動動作の習得に対する適切な援助・指導ができるように実践的に学んでいきます。遊びの内容によってグループ学習やプレゼンテーションを取り入れます。
授業の到達目標 １、自分の体力水準に応じた可能な範囲で、体力・運動能力の向上と各種の運動動作の習得を目指す。２、子どもの運動動作の習得に対して、適切な補助や働きかけができる。３、保育現場で展開できる様々な運動遊びの種類を知り、その応用や発展形を工夫できる。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 実習やボランティアなどで子ども達とできるだけ関わり、子どもの体力・運動能力の水準や運動遊びの内容を知り、年齢と関連付けて理解すること。子ども達の運動動作習得に対して、自分なりに工夫した指導方法を試してみること。
評価方法 運動遊びの創作と発表内容（20%）、運動遊びの指導・援助に関するレポート（20%）、マット・跳び箱・鉄棒遊びの到達度(30%）、出席回数（20%）、授業態度（10%）

教科書	参考図書 幼児期運動指針　幼稚園教育要領解説書　幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説書　保育所保育指針解説書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) この授業は体育館での実技が中心になります。教員の指示に従って、てきぱきと行動してください。勝手な動きや中途半端な行動は他人の迷惑になるだけでなく、けがや事故につながります。　fujita-k@ohkagakuen-u.ac.jp

01	オリエンテーション、運動遊びの教育的意義 オリエンテーション　運動遊びの教育的意義
02	マットを使った遊び①　基本的な遊び
03	マットを使った遊び②　前回り、後ろ回り
04	マットを使った遊び③　側転
05	マットを使った遊び④　後ろ回りおよび側転の指導、評価
06	跳び箱を使った遊び①　基本的な遊び
07	跳び箱を使った遊び②　開脚飛び越し
08	跳び箱を使った遊び③　台上前転
09	鉄棒を使った遊び①　　基本的な遊び
10	鉄棒を使った遊び②　　ひざかけ上がり、前・後回り、逆上がり
11	マット、跳び箱、鉄棒遊びの総合練習と指導方法の工夫
12	新聞紙を使った遊びの創作と発表
13	袋、箱、空き箱などを使った遊びの創作と発表
14	パラバルーン遊びの創作と発表
15	マット、跳び箱、鉄棒遊びの到達度の確認
16	なし

2018年度シラバス

科目名:体育Ｂ	担当者:藤田　公和	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	実技
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法 この授業では幼稚園・保育所で子どもたちが実施している様々な運動遊びの系統性を理解し、自ら運動遊びを経験することによって、子どもの発育・発達段階に応じた運動遊びを提供できたり、運動動作の習得に対する適切な援助・指導ができるように実践的に学んでいきます。遊びの内容によってグループ学習やプレゼンテーションを取り入れます。
授業の到達目標 １、自分の体力水準に応じた可能な範囲で、体力・運動能力の向上と各種の運動動作の習得を目指す。２、子どもの運動動作の習得に対して、適切な補助や働きかけができる。３、保育現場で展開できる様々な運動遊びの種類を知り、その応用や発展形を工夫できる。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 習やボランティアなどで子ども達とできるだけ関わり、子どもの体力・運動能力の水準や運動遊びの内容を知り、年齢と関連付けて理解すること。子ども達の運動動作習得に対して、自分なりに工夫した指導方法を試してみること。
評価方法 ミニレポート（30%）　授業のまとめ（40%）　出席回数（20%）　授業態度（10%）

教科書	参考図書 幼児期運動指針 幼稚園教育要領解説書　幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説　保育所保育指針解説書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) この授業は5回の講義を除いて、体育館での実技が中心になります。教員の指示に従って、てきぱきと行動してください。勝手な動きや中途半端な行動は自分や他人のけがや事故につながります。fujita-k@ohkagakuen-u.ac.jp

01	オリエンテーション
02	輪・フープ・平均台を使った運動遊び
03	外遊び、伝承遊び、昔の遊び
04	ボール遊び①　基本的な遊び
05	ボール遊び②　投げる遊び　ボールゲーム
06	ボール遊び③　足でける遊び　ボールゲーム
07	ボール遊び④　小学校体育で取り上げられているボールゲーム
08	道具を使わない遊び　集団での遊び、組体操
09	縄を使った遊び
10	鬼遊び
11	講義①　子どもの体格、体力・運動能力、健康
12	講義②　保育現場における体力・健康作りの内容と生理学・医学的な意義１
13	講義③　保育現場における体力・健康作りの内容と生理学・医学的な意義２
14	講義④　保育所保育指針、幼稚園教育要領、認定こども園教育・保育要領、幼児期運動指針
15	授業のまとめ
16	なし

2018年度シラバス

科目名:子どもの食と栄養Ⅰ	担当者:辻岡　和代,鈴村　昌子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
１．健康な生活の基本として食生活の意義や栄養に関する基礎知識を学ぶための講義（6回）２．子どもの発育・発達と食生活、特別な配慮を要する子どもの食についての理解を深める為の演習（6回）３．グループ学習とプレゼンテーション（3回）

授業の到達目標
１．食と健康がどのように関わっているかを理解する２．保育者として必要な栄養についての基礎知識や、食育、食生活に関する諸問題について理解する３．保育園、幼稚園、小学校における食育を実践するための基礎的なスキルを身につけることができる

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
自分自身の食生活についての振り返りを常に行うこと。また、食と栄養に関する情報の真偽が自分で判断できるように授業内での学習をもとに積極的に調べる力を養うこと。さらに、子どもの食について理解を深めるため、ボランティア活動や実習の際には、園での取り組みをしっかり学ぶこと。

評価方法
授業への参加態度30%、確認テスト40%、プレゼンテーション30%の割合で評価する

教科書	参考図書
子どもの食と栄養　建帛社	保育所保育指針　等

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡先は授業で開示する

01	子どもの健康と食生活の意義　　（辻岡・鈴村）
02	栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能（１）炭水化物　（鈴村）
03	栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能（２）タンパク質　（鈴村）
04	栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能（３）脂質　（鈴村）
05	栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能（４）ビタミン・ミネラル　（鈴村）
06	食事摂取基準と献立作成・調理の基本　（鈴村）
07	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活（１）母乳・育児用ミルク　（辻岡）
08	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活（２）冷凍母乳・離乳食　（辻岡）
09	幼児期の心身の発達と食生活・家庭や児童福祉施設における食事と栄養　（辻岡）
10	学童期の心身の発達と食生活・生涯発達と食生活　（辻岡）
11	特別な配慮を要する子どもの食と栄養　（辻岡）
12	食育の基本と内容　（辻岡・鈴村）
13	総括と確認テスト　（辻岡・鈴村）
14	プレゼンテーション（１）食育　（辻岡・鈴村）
15	プレゼンテーション（２）栄養・アレルギー　（辻岡・鈴村）
16	

2018年度シラバス

科目名:子どもの食と栄養Ⅱ	担当者:辻岡　和代,鈴村　昌子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:「子どもの食と栄養Ⅰ」を履修していることを受講要件とする		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
１．子どもの食と栄養Ⅰで学んだ基礎知識をさらに深める為の講義と演習（各回）２．乳児期から学童期までの発達の特徴を踏まえた調理実習（各回）３．食育の組み立てと実習（各回：幼児弁当実習および食育実習は学生主体で行う）

授業の到達目標
１．保育者として子どもの精神的な満足や個々の体質に配慮した食生活の支援について考える事ができる。２．子どもの食を想定した食材の選択、献立作成、調理方法、衛生管理について実践的に学ぶ。３．保育園、幼稚園、小学校における食育を実践するためのスキルを身につける

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
自分自身の食生活についての振り返りを常に行いながら自宅でも積極的に調理を行うこと。また、授業内で意見交換するためのレシピや調理法について準備学修を行うこと。さらに、子どもの食について理解を深めるため、ボランティア活動や実習の際には、園での取り組みをしっかり学んでくること

評価方法
授業態度50%、レポート試験50%の割合で評価する

教科書
子どもの食と栄養実習書　　医歯薬出版

参考図書
教科書☐どもの食と栄養実習書　　医歯薬出版☒考図書☒育所保育指針　等　授業態度50%、レポート試験50%の割合で評価する教科書☐どもの食と栄養実習書　　医歯薬出版☐参考図書☒育所保育指針　等保育所保育指針　等

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・質問等は、Moodleまたはオフィスアワーで受け付ける。詳細については授業で開示する。

01	オリエンテーション、簡単な調理の基礎　（辻岡・鈴村）
02	乳児栄養実習　　（辻岡）
03	離乳食実習①　講義・実習準備　（辻岡）
04	離乳食実習②　実習・試食・評価・振り返り　　（辻岡）
05	幼児食実習①　講義・実習準備　　（鈴村）
06	幼児食実習②　実習・試食・評価・振り返り　　（鈴村）
07	アレルギー食実習①　講義・実習準備（鈴村）
08	アレルギー食実習②　実習・試食・評価・振り返り　（鈴村）
09	食育実習①　講義・実習準備　　（辻岡）
10	食育実習②　実習・試食・評価・振り返り　　（辻岡）
11	行事食実習①　講義・実習準備　　（鈴村）
12	行事食実習②　実習・試食・評価・振り返り　　（鈴村）
13	幼児弁当実習①　講義・実習準備　（辻岡）
14	幼児弁当実習②　実習・試食・評価・振り返り　　（辻岡）
15	総合実習　　（鈴村）
16	

2018年度シラバス

科目名:相談援助	担当者:近藤　日出夫	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法 少子高齢化が進むなか、家族形態、社会構造にも大きな変化が生じている。地域社会全体で子どもを守り育てるシステムの構築が急務の課題とされる。家族を含め社会全体で子どもを育むことが強く求められる現代社会いおいて、保育士としての視点からソーシャルワークとは何かを学ぶ。
授業の到達目標 長年児童福祉施設の現場で培ったケースワーク、グループワークの実際と演習を通して家族支援の在り方について、児童の健全育成に活かせる相談援助技術向上の場とする。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 普段から多様な年齢層の人たちとのコミュ二ケーション力を磨く努力が必要であり、自分の価値観だけで物事を推し量るのではなく、相手の立場を尊重する姿勢と考えかたを大切にする。
評価方法 ケアプランの作成、VTRなどの映像を通して、見立てる力とグループ討議のレポートなどを評価のポイントとして位置付ける。併せて定期試験の結果と出席率などを総合的に判断して評価の基準とする。

教科書	参考図書
相談援助　保育相談支援（笠師　知恵・小橋　明子）著　中山書店　刊行	授業の中で知らせる。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 授業終了後に時間の許す限り受け付ける。

01	ガイダンス（相談援助の意義と目的）
02	相談援助の目的と原理・原則
03	ソーシャルワークの構成要素
04	相談援助が求められる背景と目的、家族支援の在り方について考える
05	社会福祉の援助を必要とする人たちの課題と地域支援に繋げるためのケアワーカーの役割
06	インテークの基本と支援目標（ケアプラン）の作成を基にしたグループ討議
07	被虐待児に対するケアワーカーとしての援助技術をVTRなどで具体的に学ぶ
08	タイムアウト、セラピューティックホールドなど感情爆発を起こした児童への援助方法を学ぶ
09	バイスティックの7原則について演習を通してより具体的に学ぶ
10	相談援助の過程　アセスメントされた内容から援助方法を探る
11	相談援助の技法　面接技法、観察の技法
12	ジェノグラム、エコマップなどを活用してクライエントの家族を含めた包括的支援を考える
13	事例を通して考える相談援助　児童虐待への適切な対応について学ぶ
14	事例を通して考える相談援助　障害のある子どもとその家族支援への支援
15	相談援助のまとめ
16	定期試験実施

2018年度シラバス

科目名:教育相談	担当者:小嶋　玲子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
幼稚園や小学校の教員には、子どもたちや保護者・地域からの相談に適切に応じることが出来る資質が求められている。教育相談の意義や目的を解説し、コミュニケーション力を高め自己理解や他者理解を深めるためにアクティブラーニングを毎回取り入れ、カウンセリングの理論と諸技法の修得を図る。さらに、毎回異なる学生とコミュニケーションをとることを通して様々な子どもや保護者とのコミュニケーション力の向上を図る。

授業の到達目標
1. 教育相談の知識と態度を理解し、自己理解・他者理解を深めることを通して、教育相談を実践するために必要な人間関係形成力やコミュニケーション力をつける。2. 学校教育との関わりの中での幼児・児童の理解を深め、幼児・児童、そしてその保護者を支援する具体的な方法としてのカウンセリングの基礎的な知識・技術を習得する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
学んだカウンセリングの諸技法やアクティブラーニングによる体験活動を、日常のコミュニケーションに活用し、交友関係や家族との会話が円滑になった実感がもてるようになるまで使ってみることが大切です。

評価方法
授業中のミニレポート（40%）　課題についての提出物（10%）　　教育相談及びカウンセリング理論と方法についてのレポートとテスト（25%×2=50%）

教科書
藤田哲也監修　「絶対に役立つ教育相談」ミネルヴァ書房
なお、幼児期の子どもや保護者への教育相談については、別に資料は配布する。

参考図書
幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「小学校学習指導要領」

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡方法・オフィスアワーは授業で開示します。　幼稚園や小学校の実習を通して子どもたちの会話や遊びなどを観察し、子どもの想いや行動を理解する力量を養ってください。新聞やニュースから、子どもや保護者の置かれている生活実態に関心をもってください。

01	教育相談が求められる背景と意義
02	教育相談における基本的態度
03	観察（みる）・面接（きく）の基本
04	心理テストへの理解
05	子ども理解の方法
06	教師が行うカウンセリングの利点
07	子どもたちのストレスについての理解と対応
08	予防的・開発的教育相談　（ソーシャルスキル教育・ストレスマネジメント教育）
09	問題行動への対応―幼児期・児童期の心の問題の捉え方
10	ピアサポート・アドラー心理学に基づく勇気づけの理論と技法
11	学習集団のアセスメント（ＱＵ）理論・いじめや不登校等から考える教育相談
12	コンサルテーションやカンファレンスの理解
13	チーム学校としての教育相談　学校の危機管理
14	保護者との相談の留意点
15	教育相談活動における地域関係機関との連携
16	試験

科目名:教育実習Ⅱ	担当者:松永　康史, 辻岡　和代, 上村　晶, 森川　拓也,	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	実習
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:教育実習指導Ⅱの授業欠席が3回未満の学生・実習契約書の内容を遵守できる学生		単位数	1
		必須. 選択	選択

授業概要と方法
　教育実習Ⅰの学びや体験を活かして、自ら課題を持ちながら幼児・児童と関わる中で、初等教育の基本・教師としての職業倫理などの理解を深め、発展的な知識・技術・態度の実践的な履修をめざす。　同様に、修得した理論を自ら応用しながら実践することを通して、教師としての専門性や資質を理解し、自らの保育観・教育観をもつようにする。

授業の到達目標
①幼稚園の役割や機能について実際に即して学ぶ、②幼稚園に就園している幼児の実際の姿や活動を通して幼児の理解を深める、③観察、参加、指導実習（部分・全体）等を通して、幼稚園の教育・保育の実際に体験的に学ぶ、④幼稚園教諭の職務内容について実際に即して学ぶ、⑤地域の幼児教育センターとしての幼稚園の役割について実際に即して学ぶことを通して、幼稚園と家庭・地域等との関係について理解を深める、⑥幼小の連携について理解を深める。⑦幼児及び児童の教育・保育に関する自らの問題意識や課題意識を実際に即して検証し深める。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
①実習の実施に先立って、教育実習指導Ⅱで学んだことをよく確認すること。②事前訪問時に実習園からいただいた指導をよく確認して、実習の事前準備をすること。

評価方法
実習園からの評価60%、実習日誌20%、実習事後レポート10%その他（実習への意欲・実習状況・巡回指導報告書など）10%を総合して評価する。

教科書	参考図書
教育実習Ⅱハンドブック	幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
①本実習を行うに当たり、原則、当該年度の「教育実習指導Ⅱ」を履修することが条件となります。（未履修者は本実習にさんかすることはできません。）②実習期間中の遅刻・早退・欠席等については、事前にその旨を申し出、許可を受けること。特に欠席の場合は大学にも連絡すること。（急病などで欠席する場合は、実習園には午前8時30分までに、大学には午前9時30分までに電話連絡すること。大学の受付は教務課実習担当：0562－97－5503）③合計実習時間が120時間に満たない場合は、必ず延長実習を行うこと。

01	【教育実習Ⅱ】実習実施期間：2018年11月19日（月）～12月10日（月）15日間【実習概要】幼稚園における120時間（計15日間）の実習を通して、観察・参加・指導実習（部分・全体）を体験する。【主なねらい】①観察・参加を通して、幼稚園での子どもの姿、幼稚園教諭の教育や園務の実際、家庭や地域との関係、施設・整備・環境構成等、幼稚園教育のあり方全体について、体験を通した理解を課題とする。②参加・指導実習（部分・全体）を通しては、子どもの発達の姿、教育の実際、幼稚園教諭の職務の実際、幼稚園の役割や機能、家庭や地域との関係等を踏まえ、子どもへの援助・指導計画立案・教育実践の展開・実践の評価など、体験を通した実践的な理解を深めることを課題とする。③将来の幼稚園教諭としての専門性を自覚し、幼稚園教諭職に対する自覚を高めることを課題とする。
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:教育実習Ⅲ	担当者:辻岡　和代, 上村　晶, 森川　拓也, 松永　康史, 吉田　眞砂	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	実習
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種		開講時期	後期
		配当学年	4
受講者制限:教育実習指導Ⅲを履修していること・実習誓約書の内容を遵守できること		単位数	3
		必須. 選択	選択

授業概要と方法 小学校における4週間の教育実習を行う。教育実習Ⅰの学びや体験を活かして、自ら課題を持ちながら児童と関わる中、初等教育の基本・教師としての職業倫理などの理解を深め、発展的な知識・技術・態度の実践的な履修をめざす。 同様に、修得した理論を自ら応用しながら実践することを通して、教師としての専門性や資質を理解し、自らの教育観を形成していく。
授業の到達目標 ①幼稚園・小学校の役割や機能について実際に即して学ぶ、②児童の実際の姿や活動を通して子ども理解を深める、③実践・授業の観察、参加、（指導）実習等を通して、各教科・道徳・外国語活動・総合的な学習の時間、特別活動、生徒指導等の実際について理解する、④特別支援教育について理解する、⑤外国語活動について理解する、⑥幼稚園・小学校と家庭・地域との関係について理解する。①～⑥から、自らの問題意識や課題意識を実際に即して検証し深める。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 ①実習の実施に先立って、教育実習指導Ⅲで学んだことをよく確認すること。 ②事前訪問時に実習校からいただいた指導をよく確認して、実習の事前準備をすること。
評価方法 実習校からの評価 50%、実習日誌 20%、実習事後レポート 10%、 その他（実習への意欲・実習状況・巡回指導報告書など）20%を総合して評価する。

教科書	参考図書
教育実習Ⅲハンドブック（大学から配布）	教育実習Ⅱ・Ⅲハンドブック（小学校）、小学校学習指導要領、幼稚園教育要領解説・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書　愛知県教員研修の手びき

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) ①本実習を行うにあたり、原則、当該年度の「教育実習指導Ⅲ」を履修し、小学校教員を志す強い意志があることが条件となります。②実習期間中の遅刻・早退・欠席等については、事前にその旨を申し出、許可を受けること。特に欠席の場合は大学にも連絡すること。（急病などで急に欠席する場合は、実習校には午前7時30分までに、大学には午前9時30分までに電話連絡すること。大学の受付は教務課実習担当：0562－97－5503）です。

01	実習実施期間：2017年年6月1日（水）を含む4週間 小学校における実習で、観察、参加、実習を通して、教育の実際を体験的に理解する。 ①　幼稚園・小学校の役割や機能についての理解　② 小学校における子どもの実際についての理解　③ 観察、参加、実習等を通して小学校の教育（教科・道徳・外国語活動・総合 的な学習の時間、特別活動、生徒指導等）の実際についての理解　④ 特別支援保育・教育についての理解　⑤　外国語活動についての理解 ⑥ 幼稚園・小学校と家庭、地域との関係についての理解
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:教育実習指導Ⅱ	担当者:松永　康史, 辻岡　和代, 上村　晶, 森川　拓也, 五十嵐　睦美, 吉田　眞砂	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種		開講時期	通年
		配当学年	3
受講者制限:当該年度の教育実習Ⅱ・Ⅲの履修を希望していること・教育実習Ⅰ（1年後期）を履修済みであること		単位数	1
		必須. 選択	選択

授業概要と方法
教育実習Ⅱのための事前事後指導としての本授業では、実習のあり方、指導案の作成、実習への心構えを学び、実習後の振り返り、自己課題を明らかにし、今後の課題に活かしていく。

授業の到達目標
①小学校・幼稚園教育実習の意義や目標を理解する、②実習の心構えを学び、実践に必要な準備に自ら取り組む、③観察実習、参加実習、責任実習の内容について理解し、準備、実践、振り返りに意欲的に取り組む、④実習終了後、実習への取り組みを振り返り、自己課題を把握し、今後の学習や就職に活かしていく。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
1・2年の実習を踏まえて、本実習ではさらに何を学びたいのか自己課題を明確に持てるよう自ら進んで事前学習をすること。そのために、各自で「実習ノート（実習ファイル）」を作成すること。

評価方法
事前課題（ワークシート・指導案発表）50%、事後課題（実習ノート・事後課題発表ワークシート）40%、授業への意欲10%を総合的に評価する。

教科書	参考図書
教育実習Ⅱハンドブック（大学から配布）	小学校学習指導要領、幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
公欠以外の理由で事前指導を3回以上欠席した学生は、実習を実施することができなくなります。授業を欠席する場合は、その前後に必ず、教務課または授業担当教員に直接連絡をしてください（要課題）。

01	１教育実習Ⅱの課題と事前事後指導の計画の理解
02	幼稚園・小学校における授業や保育の理解ー幼児教育の実際ー
03	幼稚園・小学校における授業や保育の理解－小学校教育の実際ー
04	幼稚園・小学校における授業や保育の理解ー特別な支援を要する幼児・児童への支援（１）－
05	幼稚園・小学校における授業や保育の理解ー特別な支援を要する幼児・児童への支援（２）－
06	学年別の発達過程に関する理解（１）
07	学年別の発達過程に関する理解（２）
08	学年別の発達過程に関する理解（３）
09	事前訪問のための学内指導
10	教育実習における教育指導案の書き方
11	学年別の指導案の作成と発表（１）
12	学年別の指導案の作成と発表（２）
13	学年別の指導案の作成と発表（３）
14	教育実習に向けての幼児理解と記録
15	教育実習事前指導（教師としての心構え）
16	教育実習事後指導（１）学びの振り返り
17	教育実習事後指導（２）自己課題の明確化
18	
19	
20	
21	
22	
23	
24	
25	
26	
27	
28	
29	
30	
31	

科目名:教育実習指導Ⅲ	担当者:辻岡　和代, 上村　晶, 森川　拓也, 松永　康史, 五十嵐　睦美, 吉田　眞砂	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種		開講時期	通年
		配当学年	3
受講者制限:当該年度の教育実習Ⅱ・Ⅲの履修を希望していること・教育実習Ⅰ（1年後期）を履修済みであること		単位数	1
		必須. 選択	選択

授業概要と方法
教育実習Ⅲのための事前事後指導として、実習のあり方、指導案の作成、実習への心構えを学び、実習後の振り返り、自己課題を明らかにし、今後の課題に活かしていく。

授業の到達目標
①小学校・幼稚園教育実習の意義や目標を理解する、②実習の心構えを学び、実践に必要な準備に自ら取り組む、③観察実習、参加実習、責任実習の内容について理解し、準備、実践、振り返りに意欲的に取り組む、④実習終了後、実習への取り組みを振り返り、自己課題を把握し、今後の学習や就職に活かしていく。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
1・2年の実習を踏まえて、本実習ではさらに何を学びたいのか自己課題を明確にもてるよう自ら進んで事前学修をすること。そのために、各自で「実習ノート（実習ファイル）」を作成すること。

評価方法
事前課題（ワークシート・指導案発表）50%、事後課題（実習ノート・事後課題発表ワークシート）40%、授業への意欲10%を総合的に評価する。

教科書	参考図書
教育実習Ⅲハンドブック（大学から配布）	小学校学習指導要領、幼稚園教育要領解説・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書　愛知県教員研修の手引き

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
本授業を受講する学生は、小学校教員を志すこと連絡手段は、授業内に開示する

01	教育実習Ⅲの課題と事前事後指導の計画の理解
02	幼稚園・小学校における保育や授業の実際　―幼児教育に着目して―
03	幼稚園・小学校における保育や授業の実際　―小学校教育に着目して―
04	幼稚園・小学校における保育や授業の理解　―特別な支援を要する幼児・児童への支援（1）講義－
05	幼稚園・小学校における保育や授業の理解　―特別な支援を要する幼児・児童への支援（2）演習－
06	学習指導案の書き方（１）道徳
07	学習指導案の書き方（２）教科
08	観察・参加・実習　について
09	事前訪問のための学内指導
10	児童理解
11	模擬授業（１）道徳
12	模擬授業（２）教科
13	教育実習直前指導（教師としての心構え）
14	教育実習事後指導（１）学びの振り返り
15	教育実習事後指導（２）自己課題の明確化
16	
17	
18	
19	
20	
21	
22	
23	
24	
25	
26	
27	
28	
29	
30	
31	

2018年度シラバス

科目名:総合演習ⅡＡ	担当者:小嶋　玲子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:小学校教諭1種		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:基礎演習AB・総合演習ＩA・ＩBの単位取得者		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
次の項にある到達目標を達成するための授業を行いますが、少人数の演習科目ですから構成員の発表を基に全員での討論を中心の授業を行います。授業参加者同士が学び合う関係をめざします。

授業の到達目標
1，2年生での学びを振りかえり、自分の関心あるテーマについての書物や論文を読み、その分野でどのような研究がなされているかについて理解し、レジメを作成し、発表できる。研究論文の書き方について理解する。他者の発表を聴き、それについて質問・意見等が言え、討論に参加できる。保育に関する小論文を書き、自分の保育観や教育観を考える。対人援助職としての自己理解・他者理解に努める。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
小論文をいくつか書きます。それを書くことで自分の職業選択意識を明確にしていきます。自分が取り組む卒業研究論文テーマを絞り込むために関心あるテーマの書籍や論文を多読してください。子育て支援実習（含む事前指導）に複数回参加します。保育に関する課題図書を読みます。充電されたPCを持参すること。

評価方法
提出されたレジメ・レポート・小論文50%　授業時の意見交換・討論への参加度・ゼミ活動への参加度50%

教科書 特にない	参考図書 授業時に適宜紹介します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　授業に出席して，活動や討論に参加することで実践力がついてきます。出された課題に真面目に取り組み，期限内に提出することが保育者・教育者としての実力の基礎になります。連絡方法は授業時に伝えます。３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがあります。

01	ガイダンス
02	対人援助職としての自己理解・他者理解の重要性について理解する
03	対人援助職としての自己理解・他者理解の方法を学ぶ
04	キッズステーションでの子育て支援実習のオリエンテーション
05	論文検索の方法・図書館の利用法の復習
06	各人の研究を進めたい内容についての意見交換
07	保育・教育実践論文を読んでの発表・意見交換
08	保育・教育実践論文を読んでの発表・意見交換
09	保育・教育実践論文を読んでの発表・意見交換
10	保育・教育研究論文を読んでの発表・意見交換
11	保育・教育研究論文を読んでの発表・意見交換
12	保育・教育研究論文を読んでの発表・意見交換
13	キッズステーションでの子育て支援実習の準備
14	キッズステーションでの子育て支援実習学外発表
15	キッズステーションでの子育て支援実習反省会・及び夏休みの課題についての説明
16	学外研修

2018年度シラバス

科目名:総合演習ⅡＡ	担当者:藤田　公和	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許・資格:小学校教諭1種		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法	
授業の到達目標	
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修	
評価方法	
教科書	参考図書
その他(学生へのアドバイス、連絡手段)	

01	
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:総合演習ⅡＡ	担当者:淺野　卓司	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:小学校教諭1種		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
子どもの造形表現の発達やそれを踏まえた実践について理解し、教材体験・調査を通して問題解決能力の育成を目的とする。実践者としての専門的視座の形成と自己課題の探求に必要となる基礎的な研究能力の育成を目的とする。

授業の到達目標
　教育に関する自らの課題を「卒業研究」としてまとめるために、教育現場での造形実践へ観察を行い、指導援助技術や実践を分析する力を養うことを目標とする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
特になし

評価方法
・欠席・遅刻が半期で5回を超えた場合に受講資格を失うこととする。・学外のワークショップ、ボランティア活動等（それぞれ5日以上）への参加を、評価の60点分としてカウントする。・ゼミにおける発表、リフレクションは試験と同様に扱い、40点分とする。

教科書	参考図書
特になし	特になし

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
他の学生と協力し、積極的に活動に参加をすること。連絡先は、asano-t@ohkagakuen-u.ac.jpまで。

01	ガイダンス・活動計画について
02	ゼミ間学修交流会
03	2年後期の教職履修カルテの振り返り
04	キッズステーション説明会
05	研究テーマの検討と情報検索について
06	実践的研究の進め方①
07	実践的研究の進め方①
08	先行研究の発表（グループ①）
09	先行研究の発表（グループ②）
10	先行研究の発表（グループ③）
11	造形活動と子どもの発達に関する理解
12	造形表現と教材・指導計画
13	造形表現とカリキュラムマネジメント
14	研究テーマのプレゼンテーション（グループ①）
15	研究テーマのプレゼンテーション（グループ②）
16	研究テーマのプレゼンテーション（グループ③）

科目名:総合演習ⅡＡ	担当者:北島　信子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:小学校教諭1種		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　本授業では、次年度卒業研究に取り組むにあたって、論文作成の技法の研究、先行研究の検討、実践への参加などにより、自身の研究目的を深め、研究計画を組み立てていく。

授業の到達目標
論文作成の技法の研究、先行研究の検討、実践への参加などにより、自身の研究目的を深め、研究計画を組み立てられることを到達目標とする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
先行研究の検討、研究計画の作成、実践報告会など、受講にあたって準備してくること（準備学修）。討議や指導後、自己の研究計画を見直し、より研究目的に応じた計画で研究をすすめていくこと（事後学修）。

評価方法
　研究計画や先行研究の検討、実践報告の発表（60%）、学外研修の準備・反省（20%）、討議への参加状況（20%）において総合評価する。

教科書 使用しない	参考図書 授業中に紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
受講要件として３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。オフィスアワーは火・水の昼休みです。

01	ガイダンス、履修カルテ振り返り
02	論文の書き方（１）-卒論作成の手順-
03	研究計画の作成、学外研修についての計画・討議
04	キッズステーション説明会
05	論文の書き方（２）-学術論文の技法-
06	先行研究の検討（１）幼児教育方法論の検討
07	先行研究の検討（２）初等教育方法論の検討
08	先行研究の検討（３）諸外国におけるプロジェクト型活動の検討
09	先行研究の検討（４）日本におけるプロジェクト型活動の検討
10	研究計画の発表（１）
11	研究計画の発表（２）
12	先行研究の検討（５）幼小連携の実践検討
13	先行研究の検討（６）幼小連携の教育課程づくり
14	先行研究の検討（７）子ども主体の授業（実践）づくり
15	まとめ
16	なし

2018年度シラバス

科目名:総合演習ⅡＡ	担当者:辻岡　和代	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:小学校教諭1種		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
１．卒業論文のテーマの検討、研究手法の検討（9回） ２．学外研修に関する準備・実践・反省（3回） ３．その他　ガイダンスなど（3回）

授業の到達目標
１．保育・教育の現場で取り組まれる「食育」について、ゼミ内において発表・考察することができる２．先行研究を読み、研究テーマ・研究手法を検討することができる３．食育講座における準備と実践を仲間と協力して行う事ができる

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
討論や研究に主体的に参加出来る様に、授業外でも沢山の文献を読み、調理体験や保育実践を積み重ねる努力をすること

評価方法
各課題の取り組み40％（授業計画の各項目に課題を設定します）・ゼミ活動への参加態度60%とし評価する

教科書 使用しない	参考図書 適宜紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
総合演習ⅡＡの履修対象者は、原則的に総合演習ＩA・ＩBを修了した者とする。但し総合演習ＩA・ＩBが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、総合演習ⅡＡと総合演習ＩAの同時履修について、特別に認められることがある。質問等は、Moodleまたはオフィスアワーで受け付ける。詳細については授業で開示する。

01	ガイダンス
02	教職履修カルテの振り返り
03	学外研修：キッズステーションについて
04	先行研究の紹介と討議
05	先行論文の調べ方
06	卒業論文について
07	研究手法について
08	卒業研究課題の検討①　調理学研究
09	卒業研究課題の検討②　栄養学研究
10	卒業研究課題の検討③　食育研究
11	卒業研究課題の検討④　食物アレルギー研究
12	卒業研究課題の検討⑤　その他の研究
13	学外研修：食育講座に関する準備
14	学外研修：食育講座
15	学外研修反省会
16	

2018年度シラバス

科目名:総合演習ⅡＡ	担当者:古畑　淳	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:小学校教諭1種		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　児童（及び生徒）の「成長と発達の権利」を保障するための「制度・法システム」について学び、児童をめぐる教育・福祉に関する知識、理解を深めるというのがこのゼミの内容であり目標です。　ゼミの進行ですが、ゼミでは、ゼミ生各自の関心に基づいた個別報告を中心に進めていくことにします。また、ゼミ全体の共通テーマを決め、議論、検討を行うこともしたいと思います。演習の性格から、ゼミへの皆さんの積極的な関わりを期待します。

授業の到達目標
　資料検索の方法を習得する。レジュメの作成方法、報告・司会の方法を習得する。　卒業研究のテーマを確定し、卒業研究の執筆の準備をする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　報告者はレジュメを作成し、人数分の印刷をして授業に出席すること。　ゼミ討論などを通じて学んだことを確実に記録して、次の報告に生かすこと。

評価方法
　レポート課題の評価（50%）、日常的なゼミへの参加態度や主体的な課題解決の取り組み(50%)を総合的に評価する。遅刻・無断欠席はしないこと。

教科書	参考図書
とくに指定しません。	授業において適宜紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。　日頃からニュース・新聞などの報道に注意すること。新聞などの切り抜き（スクラップ）を作ることを勧めます。　質問等のある学生は、オフィスアワーの時間に訪ねてください。

01	研究テーマの探し方について
02	資料の検索方法について
03	レジュメの作成方法と報告司会の仕方について
04	ゼミ共通テーマの決定について
05	ゼミ生個別報告と共通テーマの追求
06	ゼミ生個別報告と共通テーマの追求
07	ゼミ生個別報告と共通テーマの追求
08	ゼミ生個別報告と共通テーマの追求
09	ゼミ生個別報告と共通テーマの追求
10	ゼミ生個別報告と共通テーマの追求
11	ゼミ生個別報告と共通テーマの追求
12	ゼミ生個別報告と共通テーマの追求
13	ゼミ生個別報告と共通テーマの追求
14	ゼミ生個別報告と共通テーマの追求
15	前期活動のまとめ
16	

2018年度シラバス

科目名:総合演習ⅡＡ	担当者:基村　昌代	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:小学校教諭1種		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　この授業ではアートマネジメント能力を高め、パフォーミングアーツ（ここでは音楽を中心にオペレッタ、創作劇、楽器演奏、歌など）を地域に密着したアウトリーチ活動において実施し、音楽表現、舞台上での表現の基礎、演奏法、実践力、アンサンブル力などを養うことを目標とします。アートマネジメント能力を養うことによって、幼・保・小での発表会など舞台制作活動に活かせます。実施する内容は各年度によって話し合いで決め、実践した内容を分析し、次の実践に繋げていきます。

授業の到達目標
　アートマネジメント能力、音楽表現、舞台上での表現の基礎、演奏法、実践力、アンサンブル力などを養うことを目標とし、学内外にて２回以上実践を行います。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　ボランティア活動などを行ない、実践力を養うよう努力して下さい。積極的に研究テーマの先行研究を行って下さい。

評価方法
　レポート提出100点、平常点200点の合計300点を100点に平均して算出する。平常点は半期を通して到達度、学修意欲、出欠状況、授業態度を総合して評価します。

教科書 テキストは担当教員が随時提示	参考図書 幼稚園教育要領解説・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説・保育所保育指針解説書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがあります。

01	ガイダンス、自己紹介等相互交流と役割分担、卒業研究に向けての構想
02	事例研究（１）子供向け舞台公演鑑賞VTR
03	事例研究（２）子供向け舞台公演鑑賞VTR
04	プロジェクト・オリエンテーション及びプランニング（１）
05	プロジェクト・プランニング（２）
06	プロジェクト実施のための練習及び制作（１）
07	プロジェクト実施のための練習及び制作（２）
08	プロジェクト実施のための練習及び制作（３）
09	プロジェクト実施のための練習及び制作（４）
10	プロジェクト実施のための練習及び制作（５）
11	プロジェクト実施のための練習及び制作（６）
12	実践（１）
13	実践の反省会
14	実践（２）
15	実践の反省会、総括
16	

2018年度シラバス

科目名:総合演習ⅡＡ	担当者:田端　智美	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許・資格:小学校教諭1種		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法 現代の教育・保育の諸事情について文献や討論によって知識を深め,卒業研究のテーマを決める。季節の工作・壁面制作・教材制作等を介して卒業研究にむけての造形技術を磨く。保育実践力を身につけ、保育者としての資質を磨く。
授業の到達目標 ①共同で造形表現を深める活動を行い、保育技術を身につける。②教材研究を行い実習・子育支援室などで実践し、保育技術を身につける。③卒業研究に向けての企画・準備・制作を行い、総合的に造形技術を身につける。
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修 授業外でも積極的にゼミに参加して、よりよいものを皆で作り上げることができるようにする。また、日ごろから絵を描いたり、工作をしたりして、造形技術を磨く努力をする。
評価方法 受講参加態度（50%）課題評価（50%）で総合的に評価を行う

教科書 特になし	参考図書 小学校学習指導要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) ３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。連絡手段　tabata@ohkagakuen-u.ac.jp

01	ガイダンス・オリエンテーション
02	討論　保育における諸事情1（現代的課題）
03	討論　保育における諸事情2（子どもの諸問題）
04	壁面の制作　春夏の壁面
05	壁面の制作　秋冬の壁面
06	パネルシアターの制作１　パネル作成
07	パネルシアターの制作２　パネル布作成
08	パネルシアターの練習
09	パネルシアターの実践
10	夏祭りワークショップ企画１　企画書作成
11	夏祭りワークショップの企画２　指導案の作成
12	夏祭りワークショップの企画３　試作品の作成
13	夏祭りワークショップの企画4　準備
14	夏祭りワークショップの企画５　実践
15	ドキュメントの作成
16	

科目名:総合演習ⅡＡ	担当者:太田　早津美	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許・資格:小学校教諭1種		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習）を修了した者。		単位数	1
		必須. 選択	必須

授業概要と方法
子どもの生活実態や社会の変化にも目を向けながら、子どもの遊びや活動の中での絵本や童話の役割を考えるとともに、保育者としての実践力に繋がるような学習を行う。理論的な学習とともに、実際に子どもへの読み聞かせや保育体験を行う。各自が卒業研究のテーマを見つけ主体的に取り組めるような授業を目指す。

授業の到達目標
ゼミ活動の企画や各自オリジナルの絵本の作成に積極的に取り組み、大学祭に作品を発表する。ゼミ活動全般を通し、保育に必要な感性や創造力を高める。子どもや子育てに関する様々な状況をヒントに卒業研究のテーマを考え、研究に取り組む。絵本ワークショップの企画や実践を通し、保育者に必要な企画力・協調性や実践力を高める。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
様々なジャンルの絵本や、童話をできるだけ多く読み、保育実践での教材として活用できるようにする。子どもと関わって遊んだり、読み聞かせをする機会を積極的に作り、子どもの興味や関心がどんなところにあるかを実体験で学ぶ。卒業研究に取り組むために、各自が関心のあるテーマの文献や論文をできるだけ多く読み学習する。

評価方法
授業への参加態度（８０％）、課題・レポート等の提出物（２０％）を総合的に判断する。

教科書	参考図書
必要に応じ適宜紹介する	マザリーズの理論と実践　内山伊知郎（監修）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
乳幼児の教育や保育、子どもの生活に関すること、子育てに関することについて多面的に情報収集し、視野を広げること。（研究室7402）受講要件として３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。

01	ガイダンス（ゼミの進め方、予定、係り決め）2年後期履修カルテの振り返り
02	キッズステーション説明会（合同ゼミ）
03	研究の進め方について
04	ゼミ活動（キッズステーション）の企画、計画
05	ゼミ活動の（キッズステーション）準備
06	絵本や童話についての資料研究について
07	絵本や童話についての資料研究の成果発表
08	絵本の読み聞かせについての演習
09	保育所（幼稚園）訪問　読み聞かせの実践
10	絵本ワークショップの企画
11	絵本ワークショップの準備
12	絵本ワークショップ準備と最終確認
13	絵本製作の進め方について
14	絵本の下絵づくり
15	卒業研究の取り組みに関する指導（夏休み課題）
16	なし

2018年度シラバス

科目名:総合演習ⅡＡ	担当者:上村　晶	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:小学校教諭1種		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:保育現場へのフィールドワークによる卒業研究を視野に入れていること		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
・幼児教育学・保育学を基づく保育方法や保育者の在り方について、学びを深めるよう展開する。・研究の在り方を学ぶと同時に、卒業論文執筆の土台作りをしていく。（保育トピックや研究方法・自身の関心テーマに関するレジュメ発表とディスカッション：1人につき計2回）

授業の到達目標
・保育実践に関連したテーマについて語り合う中で、自ら考えを深めるようになる。・幼児教育・保育学の多様な考え方を理解し、自ら関心のあるテーマについて探究し、研究に取り組む。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
・各自のレポートは、文献を読んだり配布資料を作成したりするなど、事前準備をします。また、発表やディスカッション・指導後には、再度見つめ直して各自レポートを作成してもらいます。・保育学・幼児教育学の学びをより実践的に深めるために、可能な限りボランティア活動などを通じて保育現場に出向き、保育現場に秘められた問いを発見してほしいと願っています。

評価方法
授業への取り組み（20%）と2種類の課題発表（80%）の割合で評価する。

教科書 なし	参考図書 適宜紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・前期は、選定図書の輪読とレジュメ発表を通して、卒論テーマ選定と研究デザインの素案作りをします。仲間と共に学ぶ意識をもち主体的な参加を希望します（連絡先・OH等は初回に提示します）。・３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とします。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがあります。

01	オリエンテーション
02	2年間の教職に関する学びの省察（教職履修カルテの振り返り）
03	子育て支援体験に関する概要（合同ゼミ）
04	卒業研究の進め方と研究方法（１）先行研究・検索の方法
05	卒業研究の進め方と研究方法（２）レビューの仕方
06	卒業研究の進め方と研究方法（３）レジュメの作成方法
07	保育学について考える（１）課題A発表とディスカッション
08	保育学について考える（２）課題A発表とディスカッション
09	各自の研究テーマを考える（１）関心トピックの選定
10	各自の研究テーマを考える（２）先行研究の引用方法
11	各自の研究テーマを考える（３）研究倫理について
12	研究計画と先行研究発表（１）課題B発表とディスカッション
13	研究計画と先行研究発表（２）課題B発表とディスカッション
14	学外体験（ボランティア活動）と保育実践研究におけるフィールドワーク
15	前期のまとめ
16	

科目名:総合演習ⅡＡ	担当者:金子　晃之	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:小学校教諭1種		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:１年ゼミ（基礎演習）と２年ゼミ（総合演習Ⅰ）の修了者。		単位数	1
		必須. 選択	必須

授業概要と方法
　①文献の輪読を行ない、教育・保育の問題点や到達点について皆で考察する。②教育・保育・福祉の世界の偉人の考え（思想書、理論書）や自叙伝（その人自身がどのように育ったか、人が育つ上での大切なものを記載したもの）、かつての日本社会での人の育ち方、教育・保育での事件（当事者や関係者が書いた本）、教育・保育の今日の問題点などを、各自が文献・資料を通して考察する。これらの作業を織り交ぜながら、皆で共有して考えて行く作業を行いつつ、各自の卒業論文テーマを浮き上がらせていく。

授業の到達目標
①文献・資料を読解し、報告する力を養う。②教育・保育の「現場の現実」を把握できるような聞き取り調査や観察の準備を行い、相手方と交渉し、調査を実施する力を養う。③学外実習や学外体験（ボランティア活動参加）を振り返りながら、文献・資料と「現場の現実」とをつなげて考察する力を養う。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
次回の準備学修、および毎回の振り返り（事後学修）は、随時必要となる。各自がそれらの作業を行って参加しないと、総合演習は成り立たないので、強く自覚して参加すること。

評価方法
　参加態度（20点）、発言内容（20点）、報告・発表の内容（60点）を合計して100点満点で評価する。

教科書	参考図書
特に設定しない。	適宜、指示する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　受講要件は、３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。オフィスアワー　月昼休み　研究室

01	演習のテーマと方法について
02	各自の問題関心の報告①
03	各自の問題関心の報告②
04	各自の問題関心の報告③
05	キッズステーションの指導案作成①
06	キッズステーションの指導案作成②
07	キッズステーションの指導案作成③
08	卒研についての検討①
09	卒研についての検討②
10	先行研究検討会／第１回①
11	先行研究検討会／第１回②
12	先行研究検討会／第１回③
13	先行研究検討会／第２回①
14	先行研究検討会／第２回②
15	先行研究検討会／第２回③
16	

2018年度シラバス

科目名:総合演習ⅡＡ	担当者:勝浦　眞仁	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許・資格:小学校教諭1種		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
前期はフィールドワークを行う。観察、インタビュー、アンケートなど卒業研究を書くために必要な方法論を身につける。また論文執筆の基本的な作法を学ぶ。

授業の到達目標
①㋐理学的方法論について理解する。②㋑自の興味・関心から「問い」を立て、それを深めることを通して卒業研究のテーマを見つける。③㋒業論文執筆に向けて論文の体裁や書き方を身に付ける。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
卒業研究のために、個別指導を行う。発表の順番が回ってきたときには、各自十分に準備し、責任をもって行うこと。また課題の提出期限を守ること。障がいのある子どもや「気になる」子ども、病気の子どもの保育・教育を中心に、「子どもを育てる」という営みの面白さや難しさを共に考えていきたい。

評価方法
ゼミでの発表および対話への参加態度（50%）、各学期の課題レポート（50%）により総合的に評価する。

教科書 なし	参考図書 随時紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。連絡先：katuura@ohkagakuen-u.ac.jp

01	ガイダンス（自己紹介・ゼミの方向性）
02	本ゼミの年間計画の検討・役割分担
03	キッズステーション説明会
04	教職履修カルテの振り返り
05	観察という方法
06	観察してみよう（こども園見学）
07	観察してみよう（フィールドワーク）
08	観察結果の発表会
09	インタビューという方法
10	インタビューしてみよう
11	インタビュー結果の発表会
12	キッズステーションの準備・実施
13	アンケート・実験という方法
14	アンケート・実験をしてみよう
15	アンケート・実験結果の発表会
16	なし

2018年度シラバス

科目名:総合演習ⅡＡ	担当者:森川　拓也	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:小学校教諭1種		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
教育・保育の実践者として「どんな教育・保育者になりたいのか、どんな実践をしたいのか」を具体的に描きながら、自身の成長を目的とした研究をするための基礎的知識・能力を高めるために行う。それぞれが積極的に調査・分析し、ディスカッションを重ねることを大切にし、卒業研究への道筋を見つける。

授業の到達目標
教育・保育の方法と実践に関する自身の問題意識を明確にもつ。主体的に調査・考察し、発表やディスカッションをする。

論文作成の技法を学び、研究計画を立案する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
主体的に様々な文献や資料にあたり、報告レポートや配付資料の作成など十分な準備をしておく。学んだことをしっかりと事後学修し、次の報告に生かすようにする。

評価方法
授業に参加する姿勢・活動（40%）　レポート・課題・提出物・発表（40%）　ゼミへの協力（20%）以上を総合して評価する。

教科書	参考図書
適宜紹介する。	適宜紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
受講要件として３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。連絡はメール（t-morikawa@ohkagakuen-u.ac.jp）を使用する。

01	卒業研究に向けてのガイダンス
02	履修カルテの振り返り
03	キッズステーション参加についての確認（合同ゼミ）
04	レポート・報告書の書き方と討議の進め方について
05	ブックレポート作成について
06	ブックレポート発表・話題提供・討議①
07	ブックレポート発表・話題提供・討議②
08	教育・保育の実践に関する実習（言語的活動）
09	個々の課題意識の発表・交流①
10	個々の課題意識の発表・交流②
11	教育・保育の実践に関する演習（表現的活動）
12	研究構想の立て方と研究方法について
13	個々の研究構想の発表・交流①
14	個々の研究構想の発表・交流②
15	個々の研究構想の発表・交流③
16	夏季休業中の課題について

2018年度シラバス

科目名:総合演習ⅡＡ	担当者:小柳津 和博	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許・資格:小学校教諭1種		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　卒業研究に向けて、先行研究の調べ方、論文のまとめ方など論文執筆に必要な基本的事項について学ぶ。その中で障害児を中心とした特別な支援を必要とする子どもたちへの指導・支援のあり方について検討する。各自の興味・関心を基にした研究活動を通して「子どもから学ぶ姿勢」を身につける。

授業の到達目標
①卒業研究に向けて、論文執筆をする上で必要な知識を身に付ける。②体験的な活動の中から、各自の興味・関心をより具体的なものにして卒業研究のテーマを見つける。③障害のある子どもへのよりよい指導・支援のあり方を検討する中で「子どもから学ぶ姿勢」を身につける。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　卒業研究に向け、必要に応じて個別指導を行う。その際、各自のテーマに沿って提示する課題に沿って取り組むこと。発表時には自分の考えを正しく相手に伝えられるよう、責任をもって準備を進めてほしい。

評価方法
授業への参加態度（50%）、課題（50%）により総合的に評価する。

教科書 プリント資料	参考図書 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、小学校学習指導要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　全ての子どもにとって理解しやすい（ユニバーサルデザイン）指導・支援ができるよう、特別な支援を必要とする子どもたちへの学びのあり方について、ゼミの仲間と共に考えましょう。初回授業時にオフィスアワーや連絡先を伝えます。３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了したものとします。但し、２年ゼミがやむを得ない事由から単位習得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について特別に認められることがあります。

01	ガイダンス（自己紹介、ゼミの進め方、方向性、ゼミの年間計画、役割分担）
02	キッズステーション説明会（合同ゼミ）
03	人間関係作りトレーニング・イニシアティブゲーム
04	４年生の発表から学ぶ・２年後期教職履修カルテ振り返り
05	研究方法の紹介（事例、実験、質問紙、文献等）
06	興味・関心のある内容についての発表・対話（現段階での関心について）
07	障害理解を深めるための体験
08	障害理解を深める教材作り（ペア、対象障害検討）
09	障害理解を深める教材作り（情報収集）
10	障害理解を深める教材作り（製作）
11	教材の発表・体験・交流
12	体の動きを通した発達支援の理解
13	卒業研究に向けたテーマの設定①
14	卒業研究に向けたテーマの設定②
15	夏休みの研究課題（参考文献の収集）
16	なし

2018年度シラバス

科目名:総合演習ⅡＡ	担当者:松永　康史	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:小学校教諭1種		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須. 選択	必須

授業概要と方法 　教育・保育現場に出た時、向き合う子どもの発言や行動をどのように理解し、授業づくりを進めていくのか検討し、学びます。これまでの先行研究や先人の実践記録、資料、文献をもとに議論、考察する中で、各自の卒業論文のテーマを見つけていきます。
授業の到達目標 　自分自身の被教育体験も振り返りながら、資料・文献を読み、報告・議論する力を養う。　議論する中で、事象や手立てなど深く考察する力を養う。　議論する中で、自分自身の問題意識を明確にし、卒論研究テーマを設定していく。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 　資料や文献を読み、議論する際は、事前にレジュメを作成するなど準備が必要なこともあります。　考察、議論後は、自分自身の問題意識と照らし合わせ、研究テーマをけんとうしてください。
評価方法 　授業への参加態度（発言・報告・活動）50%、レポートで50%

教科書	参考図書
適宜紹介します	適宜紹介します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 教育現場への参観が可能な場合は連絡しますので、参加してください。参観について日時未定のため、授業計画が入れ替わることもあります。オフィスアワー金曜昼休み。３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。

01	ガイダンス
02	教職履修カルテの振り返り
03	キッズステーション説明会
04	資料・文献講読とディスカッション
05	資料・文献講読とディスカッション
06	資料・文献講読とディスカッション
07	資料・文献講読とディスカッション
08	教育現場の参観
09	教育現場の参観報告・交流
10	研究の進め方
11	個別の問題意識の発表・交流
12	個別の問題意識の発表・交流
13	個別の問題意識の発表・交流
14	個別の問題意識の発表・交流
15	個別の問題意識の発表・交流
16	

2018年度シラバス

科目名:総合演習ⅡＡ	担当者:木村 達志	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許・資格:小学校教諭1種		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　研究の内容や方法は、文献による研究あるいは調査や実験など、取り組む内容によって様々であるが、学期を通して受講者が積極的かつ主体的に学習するとともに、日常的に研究活動を継続することを期待する。この授業を通して、相手に伝わるプレゼンテーション能力を身につけることが出来ます。

授業の到達目標
①図書館などを利用した文献検索の方法を理解する。②学術論文の読み方や書き方を身につける。③研究仮説を立て、それを検証する手法を身につける。④ゼミのメンバーと協働的に活動できるようになる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
卒業研究のテーマを設定するために、日ごろから保育・幼児教育に関する情報を収集しておく。特に、自分の関心がある事柄や研究テーマについて、学術論文を収集しておく。

評価方法
ゼミでの発表および議論への参加態度（50%）、課題（20%）、中間発表（30%）により総合的に評価する

教科書	参考図書
特に指定しない	授業の中で紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡は、電子メールを中心に行います。３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。

01	ガイダンス（自己紹介・ゼミの進め方）ゼミ年間計画の検討・役割分担
02	キッズステーション説明会（合同ゼミ）
03	教職履修カルテ（振り返り）
04	卒業生・４年生の発表から学ぶ(後半メンバー)
05	研究論文に関わる諸規定と研究の進め方の理解
06	学生各自が希望する研究分野・方法の発表 技術の習得
07	研究内容と研究計画を具体的に立案する
08	中心になる資料・文献の収集方法の理解
09	研究計画を再構成する
10	第1次研究計画案を発表する
11	中間発表に向けた準備(前半メンバー)
12	中間発表に向けた準備(後半メンバー)
13	中間発表に向けたプレゼンテーション
14	中間発表会(第1週目)
15	中間発表会(第2週目)
16	

2018年度シラバス

科目名:総合演習ⅡＡ	担当者:五十嵐　睦美	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:小学校教諭1種		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
卒業研究に向けた基本的な資料収集や執筆方法について学び、音楽を中心とした表現の研究について幅広く見識を深める。その上で、興味・関心のある特定の分野を選定し、さまざまな実践や調査を進めながら考えを深めることを目指す。

授業の到達目標
①卒業研究に向けた基本的な研究方法や執筆の手だてについて理解する。②表現の内容や指導法に関する研究について知識を深める。③表現に関する興味・関心に沿って研究テーマを見つける。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
ディスカッションが中心となるため、各回の話題に沿ってあらかじめ情報収集を行うこと。発表を担当する際は責任を持って事前準備を行い、必要な書類は印刷した上で発表に臨むこと。

評価方法
授業への取り組み（50%）、発表（50%）

教科書	参考図書
特になし	適宜紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
積極的に人とかかわる姿勢を忘れずに取り組むこと。連絡手段については、授業内で開示する。受講要件として３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。

01	ガイダンス（自己紹介、ゼミの進め方、役割分担）
02	ゼミ年間計画の立案
03	自己課題の発表
04	研究方法の紹介（1）
05	研究方法の紹介（2）
06	文献収集と調査の進め方
07	事例研究の分析とディスカッション（1）
08	事例研究の分析とディスカッション（2）
09	事例研究の分析とディスカッション（3）
10	興味関心に沿った先行研究の紹介（1）
11	興味関心に沿った先行研究の紹介（2）
12	興味関心に沿った先行研究の紹介（3）
13	興味関心に沿った先行研究の紹介（4）
14	研究テーマの発表（1）
15	研究テーマの発表（2）
16	なし

2018年度シラバス

科目名:総合演習ⅡＡ	担当者:寺田　泰人	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許・資格:小学校教諭1種		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
この授業では、「子どもの健康」を大きなテーマとして、「子どもの理解」とそれを前提とした「保育者の役割」について具体的な保育現場の事例を用いながら考えて行きます。また卒業研究に向けて、論文の書き方や先行研究の調べ方など、論文執筆の基本的な作法を学びます。

授業の到達目標
１．課題をレジュメにまとめ、発表することで、読む、聞く、話す、書く力についてゼミ活動を通して養っていきます。２．文献を読み、各自の保育・幼児教育に関する問題意識を明確にし、その課題を理論的に検討する方法を学び、卒業研究の論文執筆へ具体的な作業を行っていきます。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
保育現場でのボランティアに積極的に参加し、自分の興味関心に対して調べる習慣を身につける。またゼミ発表に向けて、文献を読んだり、配布資料を作成するなど、事前準備をしっかりすること。

評価方法
ゼミ活動への取り組み状況・授業への参加態度80%、レポート・提出物等20%を総合的に判断する。

教科書	参考図書
適宜、紹介します。	適宜、紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
受講要件として3年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に1年ゼミ(基礎演習)および2年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し2年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、3年ゼミと2年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。オフィスアワーは木曜日３・４限。メールアドレス等の連絡先は初回のゼミ時間に伝達する。

01	ガイダンス（教職履修カルテの振り返りを含む）
02	ゼミの年間計画の検討（キッズステーション説明会）
03	研究の進め方①
04	研究の進め方②
05	研究の進め方③
06	事例研究とディスカッション①
07	事例研究とディスカッション②
08	事例研究とディスカッション③
09	卒業研究について
10	各自の研究テーマを考える①
11	各自の研究テーマを考える②
12	各自の研究テーマを考える③
13	研究計画の作成と先行研究発表①
14	研究計画の作成と先行研究発表②
15	前期のまとめ
16	なし

2018年度シラバス

科目名:総合演習ⅡＡ	担当者:堀　由里	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:小学校教諭1種		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
保育や幼児教育の現場に出てからも絶えず研究と修養が求められています。そのため、自身の探究すべきテーマを見つけ、調べ、分析し、他者に向けて発表するという一連の学びのプロセスを経験する授業にします。研究は心理学をベースとした方法論に則って行い、前期は実際にグループ研究を行います。研究テーマは人（子ども・保護者・保育者）の心が関連していれば、そして社会的に役に立つものであれば、何でも大丈夫です。

授業の到達目標
1）研究をすることの意味が理解できる。2）主体的に問題を発見し、解決するための方法を理解することができる。3）他者との協同において適切な社会的スキルを身につけることができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修：人に伝えることを意識して発表準備をしましょう。事後学修：他者からもらった意見をもとに再考する癖をつけましょう。

評価方法
授業への主体的・協調的な参加状況（50%）、発表・レポート（50%）

教科書 適宜、資料配布	参考図書 適宜、紹介

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
個別指導も多くなると思います。教員・仲間とのコミュニケーションを面倒がらず、楽しんでゼミ活動をしましょう。オフィス・アワーや連絡手段については授業内で伝えます。受講要件として３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。

01	ガイダンス
02	保育・幼児教育に活かす研究とは何か
03	先行研究の調べ方
04	先行研究の紹介
05	研究方法の紹介（1）観察法
06	研究方法の紹介（2）インタビュー
07	研究方法の紹介（3）実験、調査
08	共同研究の目的設定
09	共同研究の方法論の決定
10	共同研究の具体的調査・実験・インタビュー等の実施
11	共同研究の分析
12	共同研究の考察
13	共同研究の発表準備
14	共同研究の成果発表
15	前期のまとめ、夏休み中の課題設定
16	なし なし

2018年度シラバス

科目名:総合演習ⅡＡ	担当者:嶋守　さやか	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:小学校教諭1種		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　総合演習ⅡAの学習テーマは、「子どもの遊びと環境整備の理解」です。障がいや発達から子どもを理解し、音楽遊び（ドラムサークル等の音楽活動を体験）、野外遊び、障がい児・者との運動会を企画・実施します。

授業の到達目標
　子どもの発達と障がい理解、音楽活動（ドラムサークル体験、実際の障がい児への音楽活動現場を視察）、野外遊び、運動会企画・運営・実施の活動成果をまとめてグループ発表をする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　活動ごとに活動内容・ふりかえりレポートをゼミノートに作成することを準備学習・事後学習とします。実際に活動に参加し、ゼミノートに各自記した内容をゼミのメンバーで共有することで理解と学びを深めます。ゼミの学修テーマに則り、基本的な研究方法や文献調査方法を理解します。

評価方法
　授業への参加態度50%　グループワーク・グループディスカッションによるプレゼンテーション50%にて評価を行います。

教科書	参考図書
適宜指示します。	適宜指示します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。オフィスアワーは毎週金曜日のお昼休みとします。

01	一年の目標・予定・係決め・ゼミの決まり等
02	２年後期の教職履修カルテの振り返り
03	キッズステーション説明会（合同ゼミ）
04	障がい児・者との遊び①運動会の企画
05	障がい児・者との遊び②運動会の練習
06	障がい児・者との遊び③運動会の実際
07	障がい児・者との遊び④ふりかえりグループディスカッション
08	卒業研究に向けて①調査方法を理解する（文献調査、社会調査の基礎）
09	卒業研究に向けて②卒業研究テーマについてのグループディスカッション
10	子どもと音楽遊び①障がい児とドラムサークルの理解
11	子どもと音楽遊び②ドラムサークルの実施
12	子どもと音楽遊び③ドラムサークルの参加
13	子どもと音楽遊び③ドラムサークルの参加ふりかえり
14	キッズステーションでの子育て支援実習の準備
15	総合演習ⅡA（前期）のふりかえり
16	なし

2018年度シラバス

科目名:総合演習ⅡＡ	担当者:布施　佐代子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:小学校教諭1種		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
本授業では「子どもの心理発達と保育」を共通テーマに、保育現場で必要な実践的な研究能力を身につけることをめざしていく。ⅡＡでは、各自の卒業研究テーマを決めて、資料収集・分析と文献研究を中心に個別指導を進めながら、保育実践記録や保育に関する文献を読み合い、ディスカッションしながら学び合う共同学習も大切に取り組んでいく。

授業の到達目標
１．文章力を身につけ、研究の進め方、研究論文の書き方・まとめ方を理解・修得する。２．保育実践や保育に関する文献の読み込みから、保育の本質や保育者として大切なことを学び取り、自分の研究　　につなげることができる。３．相手にわかるように自分の考えを伝えたり、仲間の意見を聴きながら自分の考えをまとめたりする力を養う。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修として、①日頃から「子どもの発達と保育」の現状に対して積極的に目を向け考えるよう努めること、②各自の研究を計画的に進め、発表は責任を持ってできるよう資料等の準備を十分に行うこと。事後学修として、討議や指導の後、自己の研究の計画や内容を見直し、学んだことを活かすよう努めること。

評価方法
ゼミ活動への取り組み状況・参加態度50%、発表30%、課題レポート20%で総合的に評価する。

教科書 使用しない	参考図書 随時紹介していきます。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
3年ゼミ（総合演習ⅡＡ・Ｂ）の履修対象者は、原則的に1年ゼミ（基礎演習）および2年ゼミ（総合演習ＩＡ・Ｂ）を修了した者とする。ただし2年ゼミがやむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、3年ゼミと2年ゼミの同時履修について認められることがある。連絡手段等は授業時にお伝えします。

01	ガイダンス（自己紹介、役割分担、ゼミの進め方、ゼミの目標・約束を決める、年間計画立て）
02	研究の進め方を学ぶ
03	研究論文の書き方・まとめ方について学ぶ
04	子どもの発達と保育に関する文献の学習（１）
05	子どもの発達と保育に関する文献の学習（２）
06	学外研修の準備
07	学外研修（子育て支援センター等の見学・参加観察）
08	学外研修で学んだことの振り返り・討論・まとめ
09	卒業研究に向けての各自の問題意識の発表・交流
10	保育実践記録を読み学ぶ（１）0・1・2歳児
11	保育実践記録を読み学ぶ（２）3・4・5歳児
12	保育実践記録を読み学ぶ（３）障害児保育・異年齢保育
13	ゼミ共通テーマについての共同学習・討論
14	前期の学習のまとめ
15	各自の卒業研究経過発表と個別指導
16	なし

2018年度シラバス

科目名:総合演習ⅡＢ	担当者:小嶋　玲子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許・資格:小学校教諭1種		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:総合演習ⅡA単位取得者		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
総合演習ⅡAに続き、次の項目にある到達目標を達成するための授業を行いますが、少人数の演習科目ですから構成員の発表を基に全員での討論を中心の授業を行います。授業参加者同士が学び合う関係を深めます。

授業の到達目標
総合演習ⅡBでは、卒業研究中間発表に向けて、自分の興味ある分野の先行研究をまとめます。また、自分の教育・保育実践を研究物としてまとめる専門的力量の獲得・向上も目標とします。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
小論文をいくつか書きます。小論文を書くことで自分の職業選択意識を明確にしていきます。自分が取り組む卒業研究論文テーマを絞り込むために関心のある書籍や論文を多読してください。子育て支援実習に複数参加します。保育・教育に関する課題図書を読みます。授業外にゼミで行う活動がいくつかありますが、積極的に参加してください。充電されたPCを持参すること

評価方法
提出された課題レポート及び小論文（30%）、卒論中間発表への取り組み（20%）3年生ゼミ活動への参加度と討論への参加度（50%）

教科書	参考図書 授業時に随時紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
卒業研究は個人で執筆しますが、この授業では、構成員全員でそれぞれの卒業研究を検討し、学び合います。全員での共有体験がそれぞれの人のレジリエンスを高めていくと信じています。連絡先は授業時に伝えます。　３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがあります。

01	夏休みの各自の学びについて発表・意見交換（１）
02	夏休みの各自の学びについての発表・意見交換（２）
03	保育・教育の課題に関して（それぞれの小論文を基に）集団討論をする（１）
04	保育・教育の課題に関して（それぞれの小論文を基に）集団討論をする（２）
05	卒業研究執筆に向けての指導（１）
06	卒業研究執筆に受けての指導（２）
07	子育て支援実習への取り組み（１）
08	子育て支援実習への取り組み（２）
09	幼稚園実習に向けて幼稚園での相談事例から幼稚園での子どもとのかかわりについて学ぶ 幼稚園実習に向けて幼稚園での相談事例から幼稚園での子ども支援について学ぶ
10	幼稚園実習に向けて幼稚園での相談事例から幼稚園での保護者支援について学ぶ
11	幼稚園実習での学びの交流
12	卒論中間発表会に向けての意見交換（１）
13	卒論中間発表会に向けての意見交換（２）
14	卒論中間発表会のリハーサル　プレゼンテーションについて考える
15	総合演習Ⅱの振り返り
16	

2018年度シラバス

科目名:総合演習ⅡＢ	担当者:藤田　公和	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許・資格:小学校教諭1種		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法	
授業の到達目標	
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修	
評価方法	
教科書	参考図書
その他(学生へのアドバイス、連絡手段)	

01	
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2018年度シラバス

科目名:総合演習ⅡＢ	担当者:淺野　卓司	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:小学校教諭1種		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
学外ボランティアや実際の教育現場での実践に触れることを通して、造形活動における子どもの発達、環境構成、指導者の配慮事項について具体的に学ぶ。　保育者としての専門的視座の形成と自己課題の探求に必要となる基礎的な研究能力の育成を目的とする。

授業の到達目標
　教育・保育に関する自らの課題を「卒業研究」としてまとめるために、教育・保育活動へ積極的に参加し、指導援助技術や実践を分析する力を養うことを目標とする。具体的な目標として、先行研究のまとめ、研究デザイン・フレーム作成とフィールド研究のための園のボランティア先を決定することとする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修

評価方法
・欠席・遅刻が半期で5回を超えた場合に受講資格を失うこととする。・学外のワークショップ、ボランティア活動等（それぞれ5日以上）への参加を、評価の60点分としてカウントする。・ゼミにおける発表、リフレクションは試験と同様に扱い、40点分とする。

教科書	参考図書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
他の学生と協力し、積極的に活動に参加をすること。連絡先は、asano-t@ohkagakuen-u.ac.jpまで。

01	3年前期の教職履修カルテの振り返り
02	キッズステーションにおける実践の振り返り
03	学外施設における実践・観察の発表（グループ①）
04	学外施設における実践・観察の発表（グループ②）
05	学外施設における実践・観察の発表（グループ③）
06	芸術鑑賞活動
07	造形活動の題材研究と教材体験（乳児期）
08	造形活動の題材研究と教材体験（幼児期）
09	造形活動の題材研究と教材体験（小学校低学年）
10	造形活動の題材研究と教材体験（小学校中学年）
11	造形活動の題材研究と教材体験（小学校高学年）
12	造形実践の観察活動
13	造形実践の観察活動（レポート）
14	学修のまとめ（グループ①）
15	学修のまとめ（グループ②）
16	学修のまとめ（グループ③）

2018年度シラバス

科目名:総合演習ⅡＢ	担当者:北島　信子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:小学校教諭1種		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
本授業では、次年度卒業研究に取り組むにあたって、先行研究の検討、実践への参加などにより、自身の研究目的を深め、研究計画を組み立て、卒業論文を執筆していく。

授業の到達目標
論文作成の技法の研究、先行研究の検討、実践への参加などにより、自身の研究目的を深め、研究計画を具体的に執筆することを到達目標とする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
先行研究の検討、研究計画の作成、実践報告会など、受講にあたって準備してくること（準備学修）。討議や指導後、自己の研究計画を見直し、より研究目的に応じた計画で研究をすすめていくこと（事後学修）。

評価方法
　研究計画や先行研究の検討、実践報告の発表（60%）、学外研修の準備・反省（20%）、討議への参加状況（20%）において総合評価する。

教科書 使用しない	参考図書 授業中に紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
受講要件として３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。オフィスアワーは火・水の昼休みです。

01	ガイダンス、履修カルテ振り返り
02	先行研究まとめの発表（１）
03	先行研究まとめの発表（２）
04	先行研究の検討（１）日本における幼小連携の教育課程づくり
05	先行研究の検討（２）諸外国における幼小連携の教育課程づくり
06	先行研究の検討（３）日本における幼小連携の教育課程づくり
07	先行研究の検討（４）子ども主体の授業づくり（初等教育）
08	先行研究の検討（５）子ども主体の実践づくり（幼児教育）
09	キッズステーション活動の振り返り
10	芸術鑑賞会
11	先行研究まとめの発表（３）
12	先行研究まとめの発表（４）
13	中間発表報告（１）
14	中間発表報告（２）
15	まとめ
16	なし

2018年度シラバス

科目名:総合演習ⅡＢ	担当者:辻岡　和代	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:小学校教諭1種		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法 １．学外研修に関する準備・実践・反省（3回）２．卒業研究課題の検討、研究手法の検討（11回）３．その他　ガイダンスなど（1回）
授業の到達目標 １．食育講座における立案、準備、実践を仲間と協力して行う事ができる２．先行研究を読み、研究テーマ・研究手法を検討しながら研究計画を立案し、卒業研究をすすめることができる
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 討論や研究に主体的に参加出来る様に、授業外でも沢山の文献を読み、調理体験や保育実践を積み重ねる努力をすること
評価方法 各課題の取り組み40％（授業計画の各項目に課題を設定します）・ゼミ活動への参加態度60%とし評価する

教科書 使用しない	参考図書 適宜紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 総合演習ⅡＢの履修対象者は、原則的に総合演習ＩA・ＩBを修了した者とする。但し総合演習ＩA・ＩBが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、総合演習ⅡＢと総合演習ＩＢの同時履修について、特別に認められることがある。質問等は、Moodleまたはオフィスアワーで受け付ける。詳細については授業で開示する。

01	ガイダンス　教職履修カルテの振り返り
02	学外研修に関する準備
03	学外研修
04	学外研修反省会
05	卒業研究課題の検討①　調理学研究
06	卒業研究課題の検討②　栄養学研究
07	卒業研究課題の検討③　食育研究
08	卒業研究課題の検討④　食物アレルギー研究
09	卒業研究課題の検討⑤　その他の研究
10	研究内容のプレゼンテーション①　調理学研究
11	研究内容のプレゼンテーション②　栄養学研究
12	研究内容のプレゼンテーション③　食育研究
13	研究内容のプレゼンテーション④　食物アレルギー研究
14	研究内容のプレゼンテーション⑤　その他の研究
15	総合演習ⅡBの総括と今後の研究の方向性
16	

2018年度シラバス

科目名:総合演習ⅡＢ	担当者:古畑　淳	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:小学校教諭1種		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　児童（及び生徒）の「成長と発達の権利」を保障するための「制度・法システム」について学び、児童をめぐる教育・福祉に関する知識、理解を深めるというのがこのゼミの内容であり目標です。　ゼミの進行ですが、ゼミでは、ゼミ生各自の関心に基づいた個別報告を中心に進めていくことにします。また、ゼミ全体の共通テーマを決め、議論、検討を行うこともしたいと思います。演習の性格から、ゼミへの皆さんの積極的な関わりを期待します。

授業の到達目標
　資料検索の方法を習得する。レジュメの作成方法、報告・司会の方法を習得する。　卒業研究のテーマを確定し、卒業研究の執筆の準備をする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　報告者はレジュメを作成し、人数分の印刷をして授業に出席すること。　ゼミ討論などを通じて学んだことを確実に記録して、次の報告に生かすこと。

評価方法
　レポート課題の評価（50%）、日常的なゼミへの参加態度や主体的な課題解決の取り組み(50%)を総合的に評価する。遅刻・無断欠席はしないこと。

教科書	参考図書
とくに指定しません。	授業において適宜紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。　日頃からニュース・新聞などの報道に注意すること。新聞などの切り抜き（スクラップ）を作ることを勧めます。　質問等のある学生は、オフィスアワーの時間に訪ねてください。

01	最近の児童家庭福祉、社会福祉の話題
02	ゼミ生個別報告と共通テーマの追求
03	ゼミ生個別報告と共通テーマの追求
04	ゼミ生個別報告と共通テーマの追求
05	ゼミ生個別報告と共通テーマの追求
06	ゼミ生個別報告と共通テーマの追求
07	ゼミ生個別報告と共通テーマの追求
08	ゼミ生個別報告と共通テーマの追求
09	ゼミ生個別報告と共通テーマの追求
10	ゼミ生個別報告と共通テーマの追求
11	ゼミ生個別報告と共通テーマの追求
12	ゼミ生個別報告と共通テーマの追求
13	共通テーマのまとめ
14	卒業研究中間報告の準備について
15	後期・年間活動のまとめ
16	

2018年度シラバス

科目名:総合演習ⅡＢ	担当者:基村　昌代	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:小学校教諭1種		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須. 選択	必須

授業概要と方法
　この授業ではアートマネジメント能力を高め、パフォーミングアーツ（ここでは音楽を中心にオペレッタ、創作劇、楽器演奏、歌など）を地域に密着したアウトリーチ活動において実施し、音楽表現、舞台上での表現の基礎、演奏法、実践力、アンサンブル力などを養うことを目標とします。アートマネジメント能力を養うことによって、幼・保・小での発表会など舞台制作活動に活かせます。実施する内容は各年度によって話し合いで決め、実践した内容を分析し、次の実践に繋げていきます。

授業の到達目標
　アートマネジメント能力、音楽表現、舞台上での表現の基礎、演奏法、実践力、アンサンブル力などを養うことを目標とし、学内外にて２回以上実践を行います。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　ボランティア活動などを行ない、実践力を養うよう努力して下さい。積極的に研究テーマの先行研究を行って下さい。

評価方法
　レポート提出100点、平常点200点の合計300点を100点に平均して算出する。平常点は半期を通して到達度、学修意欲、出欠状況、授業態度を総合して評価します。

教科書 テキストは担当教員が随時提示	参考図書 幼稚園教育要領解説・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説・保育所保育指針解説書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがあります。

01	プロジェクト実施のための練習及び制作（１）
02	プロジェクト実施のための練習及び制作（２）
03	プロジェクト実施のための練習及び制作（３）
04	プロジェクト実施のための練習及び制作（４）
05	プロジェクト実施のための練習及び制作（５）
06	プロジェクト実施のための練習及び制作（６）
07	プロジェクト実施のための練習及び制作（７）
08	プロジェクト実施のための練習及び制作（８）
09	プロジェクト実施のための練習及び制作（９）
10	実践（１）
11	実践（２）
12	実践の反省会
13	実践についてのレジュメを作成して発表、意見交換１
14	実践についてのレジュメを作成して発表、意見交換２
15	実践についてのレジュメを作成して発表、意見交換３、総括
16	

2018年度シラバス

科目名:総合演習ⅡＢ	担当者:田端　智美	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許・資格:小学校教諭1種		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法 現代の教育・保育の諸事情について文献や討論によって知識を深め、研究をさらに行う。季節の工作・壁面制作・教材制作等を介してさらに卒業研究にむけての造形技術を磨く。保育実践力をより身につけ、子どもの前で披露する機会を設ける。
授業の到達目標 ①個人で造形表現を深める活動を行い、保育技術を身につける。②教材研究を行い実習・子育支援室などで実践し、保育技術を身につけ、分析する力をつける。③卒業研究に向けての企画・準備・制作を行い、総合的に造形技術を身につける。
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修 授業外でも積極的にゼミに参加して、よりよいものを皆で作り上げることができるようにする。また、日ごろから絵を描いたり、工作をしたりして、造形技術を磨く努力をする。
評価方法 受講参加態度（50%）課題評価（50%）で総合的に評価を行う

教科書 特になし	参考図書 小学校学習指導要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) ３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。連絡手段tabata@ohkagakuen-u.ac.jp

01	ガイダンス・オリエンテーション
02	教材研究　3歳児の制作
03	教材研究　4歳児の制作
04	教材研究　5歳児の制作
05	教材研究　製作の指導案の作成について
06	美術館鑑賞(子どもの目線で)
07	卒業研究の章立て
08	卒業研究の制作１（設計図の作成）
09	卒業研究の制作２（組み立て）
10	卒業研究の制作３（完成）
11	卒業研究の意見交換１（前半）
12	卒業研究の意見交換２（後半）
13	卒業研究の中間まとめ
14	中間発表会（前半）
15	中間発表会（後半）
16	ドキュメントの作成

2018年度シラバス

科目名:総合演習ⅡＢ	担当者:太田　早津美	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許・資格:小学校教諭1種		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習）を修了した者。		単位数	1
		必須. 選択	必須

授業概要と方法 子どもの生活実態や社会の変化にも目を向けながら、子どもの遊びや活動の中での絵本や童話の役割を考えるとともに、保育者としての実践力に繋がるような学習を行う。理論的な学習とともに、実際に子どもへの読み聞かせや保育体験を行う。各自が卒業研究のテーマを見つけ主体的に取り組めるような授業を目指す。
授業の到達目標 ゼミ活動の企画や各自オリジナルの絵本の作成に積極的に取り組み、大学祭に作品を発表する。ゼミ活動全般を通し、保育に必要な感性や創造力を高める。子どもや子育てに関する様々な状況をヒントに卒業研究のテーマを考え、研究に取り組む。絵本ワークショップの企画や実践を通し、保育者に必要な企画力・協調性や実践力を高める。
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修 子どもと関わって遊んだり、読み聞かせをする機会を積極的に作り、子どもの興味や関心がどんなところにあるかを実体験で学ぶ。卒業研究に取り組むために、各自が関心のあるテーマの文献や論文をできるだけ多く読み学習する。テーマ設定に向け、多様な角度から論文や文献を読み知識を広げる。
評価方法 授業への参加態度（８０％）、課題・レポート等の提出物（２０％）を総合的に判断する

教科書	参考図書
必要に応じ適宜紹介する	必要に応じ適宜紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 乳幼児の教育や保育、子どもの生活に関すること、子育てに関することについて多面的に情報収集し、視野を広げること。（研究室7402）受講要件として３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。

01	夏休み課題の確認、3年後期の履修カルテの振り返り
02	絵本製作（製本）
03	絵本製作（表紙をつけ完成）
04	大学祭展示に向けての準備
05	幼稚園実習の準備（教材研究）
06	幼稚園実習の準備（指導計画作成、責任実習の準備）
07	卒業研究の取り組みに関する指導（経過発表と指導）
08	卒業研究の取り組みに関する指導（個別の課題についての指導）
09	芸術鑑賞
10	キッズステーション（2回目）企画
11	キッズステーション準備
12	キッズステーションの振り返り
13	卒論中間発表への準備と発表に向けての個別指導
14	卒論中間発表のプレゼンtーションと指導
15	卒論中間発表のプレゼンテーションと資料作成
16	後期の振り返り

2018年度シラバス

科目名:総合演習ⅡＢ	担当者:上村　晶	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:小学校教諭1種		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:保育現場でのフィールドワークによる卒業研究を視野に入れていること		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
・幼児教育学・保育学を基づく保育方法や保育者の在り方について、学びを深めるよう展開する。・研究の在り方を学ぶと同時に、卒業論文執筆の土台作りをしていく。（保育トピックや研究方法・自身の関心テーマに関するレジュメ発表とディスカッション：1人につき計2回）

授業の到達目標
・保育実践に関連したテーマについて語り合う中で、自ら考えを深めるようになる。・幼児教育・保育学の多様な考え方を理解し、自ら関心のあるテーマについて先行研究を探究しながら、自らの問いを立てて、研究に取り組む。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
・各自のレポートは、文献を読んだり配布資料を作成したりするなど、事前準備をします。また、発表やディスカッション・指導後には、再度見つめ直して各自レポートを作成してもらいます。・保育学・幼児教育学の学びをより実践的に深めるために、可能な限りボランティア活動などを通じて保育現場に出向き、保育現場に秘められた問いを発見してほしいと願っています。

評価方法
授業への取り組み（20%）と2種類の課題発表（80%）の割合で評価する。

教科書 なし	参考図書 適宜紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・後期は、各自の研究の取り組みに関する発表とディスカッション・個別指導が中心となります。仲間と共に学ぶ意識をもち主体的な参加を希望します（連絡先・OH等は初回に提示します）。・３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とします。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがあります。

01	オリエンテーション・夏季学外体験等の振り返り
02	教職に関する学びの省察（教職履修カルテの振り返り）
03	芸術やアートと保育・幼児教育の関連について考える（芸術鑑賞）
04	子育て支援体験の振り返り
05	卒業研究の経過発表と指導（１）課題C発表とディスカッション
06	卒業研究の経過発表と指導（２）課題C発表とディスカッション
07	保育実践研究におけるフィールドワークの方法（１）問いを立てるとは
08	保育実践研究におけるフィールドワークの方法（２）質的研究
09	保育実践研究におけるフィールドワークの方法（２）量的研究
10	教育実習の振り返りを踏まえた保育者の在り方と保育実践研究
11	卒業研究の経過発表と指導（３）課題D発表とディスカッション
12	卒業研究の経過発表と指導（４）課題D発表とディスカッション
13	卒業研究の経過発表と指導（５）課題D発表と中間発表会への準備
14	卒業研究の経過発表と指導（６）課題D発表と中間発表会への準備
15	後期のまとめ
16	

科目名:総合演習ⅡＢ	担当者:金子　晃之	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:小学校教諭1種		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:１年ゼミ（基礎演習）と２年ゼミ（総合演習Ⅰ）の修了者。		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　①文献の輪読を行ない、教育・保育の問題点や到達点について皆で考察する。②教育・保育・福祉の世界の偉人の考え（思想書、理論書）や自叙伝（その人自身がどのように育ったか、人が育つ上での大切なものを記載したもの）、かつての日本社会での人の育ち方、教育・保育での事件（当事者や関係者が書いた本）、教育・保育の今日の問題点などを、各自が文献・資料を通して考察する。これらの作業を織り交ぜながら、皆で共有して考えて行く作業を行いつつ、各自の卒業論文テーマを浮き上がらせていく。

授業の到達目標
①文献・資料を読解し、報告する力を養う。②教育・保育の「現場の現実」を把握できるような聞き取り調査や観察の準備を行い、相手方と交渉し、調査を実施する力を養う。③学外実習や学外体験（ボランティア活動参加）を振り返りながら、文献・資料と「現場の現実」とをつなげて考察する力を養う。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　次回の準備学修、および毎回の振り返り（事後学修）は、随時必要となる。　各自がそれらの作業を行って参加しないと、総合演習は成り立たないので、強く自覚して参加すること。

評価方法
　参加態度（20点）、発言内容（20点）、報告・発表の内容（60点）を合計して100点満点で評価する。

教科書	参考図書
特に設定しない。	適宜、指示する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　受講要件は、３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。オフィスアワー　月昼休み　研究室

01	学外体験の振り返りとレポート課題の報告①
02	学外体験の振り返りとレポート課題の報告②
03	学外体験の振り返りとレポート課題の報告③
04	学外体験の振り返りとレポート課題の報告④
05	卒業研究の構想の検討会①
06	卒業研究の構想の検討会②
07	卒業研究の構想の検討会③
08	卒業研究の構想の検討会④
09	卒業研究の構想の検討会⑤
10	実習体験のカンファレンス①
11	実習体験のカンファレンス②
12	キッズステーションの振り返り
13	卒業研究中間報告会に向けた報告①
14	卒業研究中間報告会に向けた報告②
15	卒業研究中間報告会に向けた報告③
16	なし

2018年度シラバス

科目名:総合演習ⅡＢ	担当者:勝浦　眞仁	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許・資格:小学校教諭1種		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法 後期は卒業論文の問いを立てる。各自の興味・関心を深めることを目指す。そのために、先行研究を読んでみる。また論文執筆の基本的な作法を学ぶ。
授業の到達目標 ①㊀理学的方法論について理解する。②㊁自の興味・関心から「問い」を立て、それを深めることを通して卒業研究のテーマを見つける。③㊂業論文執筆に向けて論文の体裁や書き方を身に付ける。
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修 卒業研究のために、個別指導を行う。発表の順番が回ってきたときには、各自十分に準備し、責任をもって行うこと。また課題の提出期限は守ること。障がいのある子どもや「気になる」子ども、病気の在る子どもの保育・教育を中心に、「子どもを育てる」という営みの面白さや難しさを共に考えていきたい。
評価方法 ゼミでの発表および対話への参加態度（50%）、各学期の課題レポート（50%）により総合的に評価する。

教科書	参考図書
なし	随時紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) ３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。連絡先katuura@ohkagakuen-u.ac.jp

01	教職履修カルテの振り返り
02	児童発達支援の現場見学（児童発達支援センター）
03	私の興味・関心の発表会―問いを立てる（１）
04	私の興味・関心の発表会―問いを立てる（２）
05	先行文献の読み方・考え方
06	先行文献調査
07	先行文献調査発表会
08	医療保育の現場見学（小児保健医療総合センター）
09	キッズステーションの準備・実施
10	キッズステーションの振り返り
11	芸術鑑賞
12	卒業研究の問いを深める（１） 卒業研究の問いを深める（３）
13	卒業研究の問いを深める（２）
14	中間発表に向けた準備（１）
15	中間発表に向けた準備（２）
16	なし

科目名:総合演習ⅡＢ	担当者:森川　拓也	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:小学校教諭1種		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
教育・保育の実践者として「どんな教育・保育者になりたいのか、どんな実践をしたいのか」を具体的に描きながら、自身の成長を目的とした研究をするための基礎的知識・能力を高めるために行う。それぞれが積極的に調査・分析し、ディスカッションを重ねることを大切にし、卒業研究を進める。

授業の到達目標
教育・保育の方法と実践に関する自身の問題意識を明確にもつ。主体的に調査・考察し、発表やディスカッションをする。

論文作成の技法を学び、研究を進める。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
主体的に様々な文献や資料にあたり、報告レポートや配付資料の作成など十分な準備をしておく。学んだことをしっかりと事後学修し、次の報告に生かすようにする。教育・保育の現場において実地調査を行う。

評価方法
授業に参加する姿勢・活動（40%）　レポート・課題・提出物・発表（40%）　ゼミへの協力（20%）以上を総合して評価する。

教科書	参考図書
適宜紹介する。	適宜紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
受講要件として３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。連絡はメール（t-morikawa@ohkagakuen-u.ac.jp）を使用する。

01	履修カルテの振り返り
02	キッズステーションの振り返り
03	夏季休業中の課題の交流と討議①
04	夏季休業中の課題の交流と討議②
05	研究計画提案・検討①
06	研究計画立案・検討②
07	教育・保育における実践的研究（表現的活動）
08	教育・保育における実践的研究（実地見学）
09	芸術鑑賞会
10	研究途中経過報告・分析①
11	研究途中経過報告・分析②
12	中間まとめ作成①
13	中間まとめ作成②
14	個別研究報告・指導①
15	個別研究報告・指導②
16	総括と今後の研究の進め方の確認

2018年度シラバス

科目名:総合演習ⅡＢ	担当者:小柳津 和博	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許・資格:小学校教諭1種		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
卒業研究に向けて、先行研究の調べ方、論文のまとめ方など論文執筆に必要な基本的事項について学ぶ。その中で障害児を中心とした特別な支援を必要とする子どもたちへの指導・支援のあり方について検討する。各自の興味・関心を基にした研究活動を通して「子どもから学ぶ姿勢」を身につける。

授業の到達目標
①卒業研究に向けて、論文執筆をする上で必要な知識を身に付ける。②体験的な活動の中から、各自の興味・関心をより具体的なものにして卒業研究のテーマを見つける。③障害のある子どもへのよりよい指導・支援のあり方を検討する中で「子どもから学ぶ姿勢」を身につける。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
卒業研究に向け、必要に応じて個別指導を行う。その際、各自のテーマに沿って提示する課題に沿って取り組むこと。発表時には自分の考えを正しく相手に伝えられるよう、責任をもって準備を進めてほしい。

評価方法
授業への参加態度（50%）、課題（20%）、中間発表資料（30%）により総合的に評価する。

教科書 プリント資料	参考図書 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、小学校学習指導要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　全ての子どもにとって理解しやすい（ユニバーサルデザイン）指導・支援ができるよう、特別な支援を必要とする子どもたちへの学びのあり方について、ゼミの仲間と共に考えましょう。初回授業時にオフィスアワーや連絡先を伝えます。３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了したものとします。但し、２年ゼミがやむを得ない事由から単位習得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について特別に認められることがあります。

01	ガイダンス、夏休みの研究課題の発表、３年前期教職履修カルテ振り返り
02	障害による困難を軽減・解消する自助具の紹介・体験・制作準備（ペア、対象障害検討）
03	卒業研究のテーマ再検討
04	障害による困難を軽減・解消する自助具の製作（情報収集）
05	障害による困難を軽減・解消する自助具の製作（製作・発表準備）
06	障害による困難を軽減・解消する自助具の発表・体験・交流
07	芸術鑑賞会
08	論文のまとめ方に関する解説（担当教員の論文をもとに構成について学ぶ）
09	卒業研究の目的を深める
10	卒業研究の方法を深める
11	卒業研究の方向性確認（テーマ、目的、方法、参考資料、現段階での進捗状況）
12	中間発表に向けた準備①（資料作成）
13	中間発表に向けた準備②（資料作成）
14	中間発表会の練習①
15	中間発表会の練習②・キッズステーション振り返り
16	なし

2018年度シラバス

科目名:総合演習ⅡＢ	担当者:松永　康史	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:小学校教諭1種		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　教育・保育現場に出た時、向き合う子どもの発言や行動をどのように理解し、授業づくりを進めていくのか検討し、学びます。これまでの先行研究や先人の実践記録、資料、文献をもとに議論、考察する中で、各自の卒業論文のテーマを見つけていきます。見つけたテーマに対して、どのように研究を進めていくのか具体的な計画を立て、進めていく。

授業の到達目標
　自分自身の被教育体験も振り返りながら、資料・文献を読み、報告・議論する力を養う。　議論する中で、事象や手立てなど深く考察する力を養う。　卒業研究中間報告に向けて、テーマを設定し、計画、研究する力を養う。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　資料や文献を読み、議論する際は、事前にレジュメを作成するなど準備が必要なこともあります。　考察、議論後は、自分自身の問題意識と照らし合わせ、研究テーマをけんとうしてください。

評価方法
　授業への参加態度（発言・報告・活動）50%、中間発表に向けての研究で50%

教科書 適宜紹介します。	参考図書 適宜紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。オフィスアワー金曜昼休み。

01	卒業論文に関する進め方
02	教職履修カルテの振り返り
03	資料・文献講読とディスカッション
04	資料・文献講読とディスカッション
05	資料・文献講読とディスカッション
06	個別研究報告と研究・指導
07	個別研究報告と研究・指導
08	個別研究報告と研究・指導
09	個別研究報告と研究・指導
10	個別研究報告と研究・指導
11	芸術鑑賞
12	キッズステーションの振り返り
13	卒業研究中間発表と今後の研究に向けて
14	卒業研究中間発表と今後の研究に向けて
15	卒業研究中間発表と今後の研究に向けて・まとめ
16	

2018年度シラバス

科目名:総合演習ⅡＢ	担当者:木村 達志	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:小学校教諭1種		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　研究の内容や方法は、文献による研究あるいは調査や実験など、取り組む内容によって様々であるが、学期を通して受講者が積極的かつ主体的に学習するとともに、日常的に研究活動を継続することを期待する。この授業を通して、相手に伝わるプレゼンテーション能力を身につけることが出来ます。

授業の到達目標
①図書館などを利用した文献検索の方法を理解する。②学術論文の読み方や書き方を身につける。③研究仮説を立て、それを検証する手法を身につける。④ゼミのメンバーと協働的に活動できるようになる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
卒業研究のテーマを設定するために、日ごろから保育・幼児教育に関する情報を収集しておく。特に、自分の関心がある事柄や研究テーマについて、学術論文を収集しておく。

評価方法
ゼミでの発表および議論への参加態度（50%）、課題（20%）、中間発表（30%）により総合的に評価する

教科書 特に指定しない	参考図書 授業の中で紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡は、電子メールを中心に行います。３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。

01	教職履修カルテ（実習の振り返り）
02	学生各自が希望する研究分野・方法の発表
03	研究内容と研究計画の策定
04	中心になる資料・文献と研究計画の立案
05	研究計画の検討と修正
06	キッズステーションの振り返り
07	芸術鑑賞
08	4年次生との合同セミナーによる学習
09	第1次研究計画の検討と具体化
10	論文の要諦と論文の構成・体裁基本的表記
11	4年次生の研究内容・進歩状況に学ぶ：セミナー3･4　（文献検索、実技・実験基礎技能等の習得）
12	4年次生の研究内容・進捗状況に学ぶ：セミナー5（データ集計、情報活用、論文のまとめ方等）
13	卒業論文発表会の予備学習に学ぶ（4年次生の発表練習をもとに、研究発表の方法・内容・準備等）
14	卒業論文発表の総評と自身が参考にすべき課題
15	まとめ、今後の課題
16	

2018年度シラバス

科目名:総合演習ⅡＢ	担当者:五十嵐　睦美	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:小学校教諭1種		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
卒業研究に向けた基本的な資料収集や執筆方法について学び、音楽を中心とした表現の研究について幅広く見識を深める。その上で、興味・関心のある特定の分野を選定し、さまざまな実践や調査を進めながら考えを深めることを目指す。

授業の到達目標
①卒業研究に向けた基本的な研究方法や執筆の手だてについて理解する。②表現の内容や指導法に関する研究について知識を深める。③研究テーマに沿って実践や調査を進め、考えを深める。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
ディスカッションが中心となるため、各回の話題に沿ってあらかじめ情報収集を行うこと。研究テーマに向けた学修の過程を記録し、ノートにまとめること。発表を担当する際は責任を持って事前準備を行い、必要な書類は印刷した上で発表に臨むこと。

評価方法
授業への取り組み（50%）、発表（50%）

教科書	参考図書
特になし	適宜紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
常に自分の内面と向き合いながら課題を見つけ、研究テーマに対して根気強く取り組む姿勢を大切にすること。連絡手段については、授業内で開示する。受講要件として３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。

01	研究計画の確認
02	夏休み課題の発表（1）
03	夏休み課題の発表（2）
04	先行研究を基にしたディスカッション（表現分野1）
05	先行研究を基にしたディスカッション（表現分野2）
06	先行研究を基にしたディスカッション（表現分野3）
07	研究手法や実践方法の再考（1）
08	研究手法や実践方法の再考（2）
09	中間発表会に向けた個別指導（1）
10	中間発表会に向けた個別指導（2）
11	中間発表会に向けた個別指導（3）
12	卒業研究中間発表会リハーサル（1）
13	卒業研究中間発表会リハーサル（2）
14	卒業研究中間発表会（1）
15	卒業研究中間発表会（2）
16	なし

2018年度シラバス

科目名:総合演習ⅡＢ	担当者:寺田　泰人	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許・資格:小学校教諭1種		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
この授業では、「子どもの健康」を大きなテーマとして、「子どもの理解」とそれを前提とした「保育者の役割」について具体的な保育現場の事例を用いながら考えて行きます。また卒業研究に向けて、論文の書き方や先行研究の調べ方など、論文執筆の基本的な作法を学びます。

授業の到達目標
１．課題をレジュメにまとめ、発表することで、読む、聞く、話す、書く力についてゼミ活動を通して養っていきます。２．文献を読み、各自の保育・幼児教育に関する問題意識を明確にし、その課題を理論的に検討する方法を学び、卒業研究の論文執筆へ具体的な作業を行っていきます。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
保育現場でのボランティアに積極的に参加し、自分の興味関心に対して調べる習慣を身につける。またゼミ発表に向けて、文献を読んだり、配布資料を作成するなど、事前準備をしっかりすること。

評価方法
ゼミ活動への取り組み状況・授業への参加態度80%、レポート・提出物等20%を総合的に判断する。

教科書 適宜、紹介します。	参考図書 適宜、紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
受講要件として3年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に1年ゼミ(基礎演習)および2年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し2年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、3年ゼミと2年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。オフィスアワーは木曜日３・４限。メールアドレス等の連絡先は初回のゼミ時間に伝達する。

01	ガイダンス（教職履修カルテの振り返りを含む）
02	後期のゼミの進め方について
03	研究文献の講読とレジュメ発表①
04	研究文献の講読とレジュメ発表②
05	研究文献の講読とレジュメ発表③
06	研究文献の講読とレジュメ発表④
07	研究文献の講読とレジュメ発表⑤
08	芸術鑑賞
09	卒業研究に向けたテーマの設定①
10	卒業研究に向けたテーマの設定②
11	卒業研究に向けたテーマの設定③
12	卒業研究の取り組みに関する指導①
13	卒業研究の取り組みに関する指導②
14	卒業研究の取り組みに関する指導③
15	後期のまとめ（キッズステーションの振り返りを含む）
16	なし

2018年度シラバス

科目名:総合演習ⅡＢ	担当者:堀　由里	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:小学校教諭1種		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
保育や幼児教育の現場に出てからも絶えず研究と修養が求められています。そのため、自身の探究すべきテーマを見つけ、調べ、分析し、他者に向けて発表するという一連の学びのプロセスを経験する授業にします。後期は卒業研究につながるように論文講読から研究計画の立案を中心に行います。研究テーマは人（子ども・保護者・保育者）の心が関連していれば、そして社会的に役に立つものであれば、何でも大丈夫です。

授業の到達目標
1）研究をすることの意味が理解できる。2）主体的に問題を発見し、解決するための方法を理解することができる。3）他者との協同において適切な社会的スキルを身につけることができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修：人に伝えることを意識して発表準備をしましょう。事後学修：他者からもらった意見をもとに再考する癖をつけましょう。

評価方法
授業への主体的・協調的な参加状況（50%）、発表・レポート（50%）

教科書	参考図書
適宜、資料配布	適宜、紹介

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
個別指導も多くなると思います。教員・仲間とのコミュニケーションを面倒がらず、楽しんでゼミ活動をしましょう。オフィス・アワーや連絡手段については授業内で伝えます。受講要件として３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。

01	後期のゼミ活動計画
02	夏休みの課題発表とディスカッション（1）
03	夏休みの課題発表とディスカッション（2）
04	先行研究紹介（1）
05	先行研究紹介（2）
06	先行研究紹介（3）
07	先行研究をふまえて新たな課題をたてる
08	問題と目的、方法論について検討する（1）
09	問題と目的、方法論について検討する（2）
10	中間発表会に向けた準備（1）
11	中間発表会に向けた準備（2）
12	中間発表会に向けたプレゼンテーション
13	卒業研究中間発表会（1）
14	卒業研究中間発表会（2）
15	後期のまとめ
16	なし

2018年度シラバス

科目名:総合演習ⅡＢ	担当者:嶋守　さやか	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:小学校教諭1種		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　卒業研究内容についてのグループディスカッションを行い、卒業論文執筆方法等を理解する。また、教育実習の事後学習として、てあそびブックと絵本ブックを作成する。子どもと野外遊びの実際を理解する。

授業の到達目標
　卒業研究中間発表レジュメを作成する。てあそびブックと絵本ブックを作成する。子どもと野外遊びの企画・運営をする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　卒業研究中間発表に向けて、各自、文献研究、調査を実施しましょう。わからないところは、積極的に個人的に相談すること。

評価方法
　授業への参加態度50%　グループワーク・グループディスカッションによるプレゼンテーション50%にて評価を行います。

教科書 適宜、指示します。	参考図書 適宜、指示します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　３年ゼミ（総合演習Ⅱ）の履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）および２年ゼミ（総合演習Ⅰ）を修了した者とする。但し２年ゼミが、やむを得ない事由から単位修得に至らなかった場合に限り、３年ゼミと２年ゼミの同時履修について、特別に認められることがある。オフィスアワーは毎週金曜日のお昼休みとします。

01	総合演習ⅡB（後期）の目標・予定の確認
02	３年前期の教職履修カルテの振り返り
03	卒業研究内容についての発表とグループディスカッション①
04	卒業研究内容についての発表とグループディスカッション②
05	卒業研究内容についての発表とグループディスカッション③
06	子どもと野外遊び①企画
07	子どもと野外遊び②実践
08	子どもと野外遊び③ふりかえりのグループディスカッション
09	キッズステーションでの子育て支援実習の準備
10	キッズステーションでの子育て支援実習のふりかえり
11	卒業研究中間発表に向けて、ゼミ内発表とグループディスカッション①
12	卒業研究中間発表に向けて、ゼミ内発表とグループディスカッション②
13	卒業研究中間発表に向けて、ゼミ内発表とグループディスカッション③
14	卒業研究中間発表会①
15	卒業研究中間発表会②
16	なし

2018年度シラバス

科目名:総合演習ⅡＢ	担当者:布施　佐代子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:小学校教諭1種		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
本授業では「子どもの心理発達と保育」を共通テーマに、保育現場で必要な実践的な研究能力を身につけることをめざしていく。ⅡＢでは、各自が決めた卒業研究テーマについて、さらに資料の収集・分析と文献研究を個別学習として進め、個別指導とゼミ内での発表・ディスカッションによる共同学習を通して考察を深めていく。

授業の到達目標
１．各自の研究テーマについての課題意識を深め、分析力や文章表現力を高める。２．研究の視野を広げ、「子どもの心が豊かに育つためにはどんな保育が必要か」について自分の意見を持ち表現できるようになる。３．互いの意見をよく聴き、自分の考えをいろいろな角度から見直し深める柔軟性を養う。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修として、①日頃から「子どもの発達と保育」の現状に対して積極的に目を向け考えるように努めること、②各自の研究を計画的に進め、発表は責任を持ってできるよう資料等の準備を十分に行うこと。事後学修として、討議や指導の後、自己の研究の計画や内容を見直し、学んだことを活かすよう努めること。

評価方法
ゼミ活動への取り組み状況・参加態度50%、発表30%、課題レポート20%で総合的に評価する。

教科書 使用しない	参考図書 随時紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
3年ゼミ（総合演習ⅡＡ・Ｂ）の履修対象者は、原則的に1年ゼミ（基礎演習）および2年ゼミ（総合演習ＩＡ・Ｂ）を終了したものとする。但し2年ゼミがやむを得ない事由から単位取得に至らなかった場合に限り、3年ゼミと2年ゼミの同時履修について特別に認められることがある。連絡手段等については授業時にお伝えします。

01	夏休み課題の報告・討議
02	ゼミ共通テーマについての共同学習・討論
03	各自の卒業研究経過発表と討議及び個別指導（１）
04	幼児教育実践のための教材研究（１）発達に合った遊びを考える
05	幼児教育実践のための教材研究（２）環境構成を考える
06	幼児教育実践の交流・事例研究
07	卒業研究についての個別学習と個別指導（１）
08	卒業研究についての個別学習と個別指導（２）
09	卒業研究についての個別学習と個別指導（３）
10	各自の卒業研究経過発表と討議及び個別指導（２）
11	卒業研究についての個別学習と個別指導（４）
12	卒業研究についての個別学習と個別指導（５）
13	卒業研究中間発表会に向けての準備（ゼミ内での発表と討議及び個別指導）
14	卒業研究中間発表会（１）
15	卒業研究中間発表会（２）
16	なし

科目名:幼児理解とカウンセリング	担当者:橋本　景子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園1種免許状・保育資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
様々な状況にある子どもや保護者支援を行う際に必要となる心理的援助の考え方、方法、技術について、現実に沿った様々な角度から考えていく。そのためには「自分を知る」ことも大切なことで、授業の中ではディスカッションやビデオを通して自分というものを振り返っていく。

授業の到達目標
１．カウンセリングマインドを培う２．保育者としての視野を広げる３．子どもや保護者の背景を理解しようと努めるようになる４．ありのままの「自分」を受け入れることができるようになる

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
日頃からニュースや報道、至る所にあなたの視野を広げる材料はあります。友達と待ち合わせをしている時でも人間観察を心がけることです。それが人間理解やあなたの視野を広げることに繋がります。とにかく、日常の「子どもたちやその家族」に目を向けることを常に心がけてください。ただし、報道されていることが正しいとは限りません。見分ける力をつけることも保育士として大切です。

評価方法
試験50%、授業への取り組み姿勢50%（発言等）

教科書	参考図書
『子ども臨床とカウンセリング』　伊藤健次編　（株）みらい	『臨床心理学』　倉光　修著　岩波書店

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
あなたの視野が広がれば、あなた自身も楽になり、そうすることで他の人に対しても本当の意味で優しくなれるものです。人を育てるために大切なことは、まずあなたの心に”ゆとり”があることです。

01	カウンセリングと相談の違いについて/心の構造を知る
02	第1章　子どもを知る（既習の「発達心理学」の復習）/心の病について
03	「心の傷」「心の病」から引き起こされる症状
04	第2章　子どもの「いま」を知る
05	第3章　子どもと親のかかわりを理解する
06	第4章　子どもと臨床的かかわり
07	第5章　心理療法の基礎理論、第6章　さまざまな心理療法
08	ワークで自分を知る/自己覚知
09	第7章　カウンセリングの基礎
10	第8章　子ども臨床と心理アセスメント
11	ビデオを通して、子ども時代の心が将来にどう結びつくのかを考える(1)/ビデオ視聴
12	ビデオを通して、子ども時代の心が将来にどう結びつくのかを考える(2)/ディスカッション
13	ビデオを通して、子ども時代の心が将来にどう結びつくのかを考える(3)/様々な心理療法を知る
14	ビデオを通して、子ども時代の心が将来にどう結びつくのかを考える(4)/様々な心理療法を知る
15	第9章　相談援助と子育て支援
16	試　験

2018年度シラバス

科目名:障害児の発達理解(総論) I	担当者:勝浦　眞仁	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
障害を巡るこれまでの動向や各種障害の基本的な考え方を学ぶ。またDVD等の映像や事例を活用しながら、様々な障害のある子どもたちがどのように発達していくのか、その具体的な様相を教授する。

授業の到達目標
①障害に対する現在の基本的な考え方、および各種障害の定義を理解すること②各種障害のある子どもたちの発達について基礎的な事項を理解すること

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
回の授業終了後に出席シート（ミニッツペーパー・コメントシート）を課し、理解および意欲を確認する。障害のある子どもに係わるテレビや新聞・ネットの記事などに普段から着目するようにしていくこと。

評価方法
筆記試験（70点）と毎回の出席シート（30点）に基づき、授業への取り組み等も含め総合的に評価する。

教科書	参考図書
特別の支援を必要とする子どもの理解―共に育つ保育を目指して―（勝浦眞仁編著、ナカニシヤ出版）	幼稚園教育要領及び解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び解説、小学校学習指導要領及び解説

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
教員を目指す学生にとって、実習で障害のある子どもたちとの出会うことは貴重な機会であり、視野の拡がりが感じられる体験となる。障害のある子どもと出会うボランティア等に積極的に参加してほしい。連絡先：katuura@ohkagakuen-u.ac.jp

01	オリエンテーション
02	障害を巡る現代の動向
03	知的障害のある子どもたちの発達理解
04	発達障害を巡る現代の動向
05	自閉症のある子どもたちの発達理解
06	ＡＤＨＤのある子どもたちの発達理解
07	視覚障害のある子どもたちの発達理解
08	聴覚障害のある子どもたちの発達理解
09	肢体不自由のある子どもたちの発達理解
10	重度・重複障害のある子どもたちの発達理解
11	言語・コミュニケーションに障害のある子どもたちの発達理解
12	病弱の子どもたちの発達理解
13	ダウン症のある子どもたちの発達理解
14	ＬＤのある子どもたちの発達理解
15	まとめ
16	定期試験

2018年度シラバス

科目名:社会福祉Ⅱ	担当者:古畑　淳	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須. 選択	選択

授業概要と方法 　社会福祉Ⅱでは、社会福祉Ⅰの授業を踏まえて、児童、母子・父子・寡婦、高齢者、障害者など、生活・発達障害を有する人々を対象とする各種の社会福祉制度をはじめ、低所得者に対する所得保障の制度について学習する。　授業は、担当者作成のレジュメに基づき進める。授業内容により、グループワークとグループ発表の方法を取り入れる。
授業の到達目標 　制度の概要を理解するとともに、各種制度の実施体制や運営の現状と課題を理解する。そして、人間らしい生活を確保するための社会福祉のあり方について考える力を養う。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 　配布したレジュメ（学習資料）をよく読んで、知識の定着を図ること。　単元の終わりに、ポイント確認と称するプリントを配布する。問題形式でポイント確認を行うものである。受講者は次の授業までにこのプリントに取り組むことが求められる。
評価方法 　定期試験（85%）、授業態度（15%）で評価する。

教科書	参考図書
担当者作成のレジュメ・資料（各種統計資料、新聞記事、自治体広報記事等）を用いて授業を行う。	保育所保育指針および幼保連携型認定こども園教育・保育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 　社会福祉の現状を知るために、日頃からニュース・新聞などの報道に注意すること。新聞などの切り抜き（スクラップ）を作ることを勧めます。　質問等のある学生は、オフィスアワーの時間に訪ねてください。

01	社会保障、社会福祉の制度体系
02	所得保障制度としての年金保険制度（制度の歴史、意義、仕組み）
03	所得保障制度としての年金保険制度（老齢年金、障害年金、遺族年金）
04	生活保護制度の位置付けと性格
05	生活保護制度の目的と基本原理
06	生活保護制度における保護の実施機関と実施手続
07	生活保護行政の実際と裁判例
08	介護保険制度創設の背景と理念（老人福祉法との関係を含む）
09	介護保険制度における保険関係の当事者と保険給付
10	介護保険制度における利用手続（要支援・要介護認定とケアマネジメント）
11	介護保険制度における利用手続（介護サービス利用契約と成年後見制度）
12	障害者福祉ー一障害と障害者
13	障害者福祉制度の現状と課題
14	ひとり親家庭の現状
15	ひとり親家庭及び寡婦を対象とする福祉制度の現状と課題
16	定期試験

科目名:児童家庭福祉Ⅰ	担当者:古畑　淳	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　児童の成長発達と生活を保障するとともに、家庭・保護者（妊産婦を含む）に対して子育ての支援（保障）を目的として実施する種々の社会的な施策・援助を児童家庭福祉という。講義では以下の５点、すなわち、①現代社会における児童家庭福祉の意義と歴史的変遷についての理解、②児童家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権についての理解、③児童家庭福祉の制度や実施体系等の理解、④児童家庭福祉の現状と課題についての理解、⑤児童家庭福祉の動向と展望の５点について学習する。　授業は、担当者作成のレジュメに基づき進める。授業内容により、グループワークとグループ発表の方法を取り入れる。

授業の到達目標
　①児童家庭福祉の意義と歴史的変遷、②児童家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権、③児童家庭福祉の制度や実施体系、④児童家庭福祉の現状と課題、⑤児童家庭福祉の動向と展望、を理解する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　配布したレジュメ（学習資料）をよく読んで、知識の定着を図ること。　単元の終わりに、ポイント確認と称するプリントを配布する。問題形式でポイント確認を行うものである。受講者は次の授業までにこのプリントに取り組むことが求められる。

評価方法
　定期試験（85%）、授業態度（15%）で評価する。

教科書	参考図書
担当者作成のレジュメ・資料（各種統計資料、新聞記事、自治体広報記事等）を用いて授業を行う。	保育所保育指針および幼保連携型認定こども園教育・保育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　児童家庭福祉の現状を知るために、日頃からニュース・新聞などの報道に注意すること。新聞などの切り抜き（スクラップ）を作ることを勧めます。　質問等のある学生は、オフィスアワーの時間に訪ねてください。

01	児童・家庭を取り巻く現況について
02	児童家庭福祉の意義と歴史的変遷
03	児童の権利と児童育成の責任主体
04	児童家庭福祉サービスの体系
05	児童家庭福祉の実施体制
06	児童家庭福祉の専門機関
07	児童家庭福祉の専門職
08	児童福祉施設等の設置と認可の仕組み
09	児童福祉施設等に対する行政の監督
10	児童の権利の実現のための権利救済システム
11	児童家庭福祉サービスの利用の仕組み　措置による利用の仕組み
12	児童家庭福祉サービスの利用の仕組み　契約による利用の仕組み
13	児童家庭福祉サービスの費用
14	児童家庭福祉の制度改革の動向と展望
15	児童家庭福祉Ⅰのまとめ
16	定期試験

2018年度シラバス

科目名:児童家庭福祉Ⅱ	担当者:古畑　淳	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法 　児童家庭福祉Ⅱでは、児童家庭福祉Ⅰの授業を踏まえて、児童家庭福祉の現代的な問題を取り上げる。国や自治体の児童家庭福祉の政策動向の考察のほか、児童の人権を争点とする事例などの検討を行う。　授業は、担当者作成のレジュメに基づき進める。授業内容により、グループワークとグループ発表の方法を取り入れる。
授業の到達目標 　国や自治体の児童家庭福祉の政策動向を理解する。　事例検討を通じて、児童家庭福祉の領域にどのような問題があるのか、また、どのような解決が考えられるのかについて、考察する力を身に付ける。
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修 　配布したレジュメ（学習資料）をよく読んで、知識の定着を図ること。　単元の終わりに、ポイント確認と称するプリントを配布する。問題形式でポイント確認を行うものである。受講者は次の授業までにこのプリントに取り組むことが求められる。
評価方法 　定期試験（85%）、授業態度（15%）で評価する。

教科書	参考図書
担当者作成のレジュメ・資料（各種統計資料、新聞記事、自治体広報記事等）を用いて授業を行う。	保育所保育指針および幼保連携型認定こども園教育・保育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 　児童家庭福祉の現状を知るために、日頃からニュース・新聞などの報道に注意すること。新聞などの切り抜き（スクラップ）を作ることを勧めます。　質問等のある学生は、オフィッスアワーの時間に訪ねてください。

01	最近の児童家庭福祉の話題について
02	児童福祉サービスと私的扶養（家族）――児童家庭福祉サービスの利用要件
03	児童のニーズと行政の児童福祉サービス利用決定
04	児童福祉サービス供給整備の現状と課題
05	子ども・子育て支援新制度の概要
06	子ども・子育て支援新制度の課題
07	児童福祉施設における児童の人権問題
08	児童福祉施設に対する行政の監督の現状と課題
09	児童虐待の急増とその背景
10	児童虐待から児童を守る制度・法システム
11	虐待から児童を守る行政の仕組み
12	ひとり親家庭及び寡婦を対象とする福祉制度の現状と課題
13	障害児童の福祉の現状と課題
14	非行児童の福祉の現状と課題
15	児童家庭福祉Ⅱのまとめ
16	定期試験

2018年度シラバス

科目名:社会的養護Ⅰ	担当者:上田　一捻	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
本授業は保育学部の教育・保育の内容・方法に関する領域に配置された専門教育科目である。現代の子ども達を取り巻く社会及び家庭の状況において、社会的養護が果たす役割・特徴を学修する。また、今後の施設実習につながる動機づけとして捉えられるような授業を展開する。授業は講義方式を基本とするが、必要に応じて、動画を視聴したり、グループワークを行って理解を深める。

授業の到達目標
1　社会的養護の理念について理解する。2　社会的養護を支える制度体系について理解する。3　施設養護と家庭養護の概要を理解する。4　社会的養護に関わる支援者が求められる倫理及び知識を身に付ける。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
施設実習に向けて、施設(乳児院・児童福祉施設・障がい児施設等)でのボランティア活動および見学を行うことを推奨する。また、新聞及びインターネット等の社会的養護(虐待・貧困・障害等)に関する記事を意識的に見て、関心を高めるようにする。

評価方法
定期試験(70%)　授業への参加態度(30%)により総合的に評価する。

教科書	参考図書
基本保育シリーズ「社会的養護(第2版)」相澤 仁・林 浩康　中央法規	授業の中で適宜紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
保育者を志す学生にとって、種々の問題を抱える子どもについて学ぶことは必須である。今日社会的養護が求められている役割及びその背景を学ぶことを心掛けるようにする。授業後30分をオフィスアワーとする。

01	オリエンテーション・社会的養護の理念と概念
02	社会的養護の歴史的変遷
03	児童家庭福祉の一分野としての社会的養護
04	児童の権利擁護と社会的養護
05	社会的養護の制度・法体系・仕組み
06	社会的養護の領域と概要(養護系施設)
07	社会的養護の領域と概要(家庭養護)
08	社会的養護の領域と概要(障がい系施設)
09	社会的養護に関わる専門職・支援者
10	社会的養護における倫理
11	社会的養護とソーシャルワーク
12	施設の運営管理
13	被措置児童等の虐待防止
14	社会的養護と地域福祉
15	社会的養護の課題と展望・授業のまとめ
16	定期試験

2018年度シラバス

科目名:教育の方法	担当者:北島　信子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
学校教育制度に位置づけられている幼稚園と小学校の教育の方法・技術について学ぶ。幼稚園の保育の方法の基本理解、小学校教育での授業方法の基本理解の学修を行う。方法の技術や指導法を身に着ける。授業方法は、教科書による学修と応用的な発表などを取り入れる。

授業の到達目標
①幼稚園教育の方法・技術を理解する。②小学校との連携についてその方法・技術を理解する。③小学校低学年の教育の方法・技術について理解する。④視聴覚教材の活用方法を修得する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
事前学修として、教科書を熟読してくること。事後学修として、授業内レポートを読み直して自己学修を深めること。

評価方法
授業内レポート（40%）、授業での発表・討論への参加（10%）、試験（50%）の割合で、総合評価とする。

教科書	参考図書
豊田和子編著『実践を創造する　幼児教育の方法』みらい	幼稚園教育要領及び解説、保育所保育指針及び解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び解説、小学校学習指導要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
原則、毎授業のレポートがありますので、積極的な学習をしてください。実習等で欠席した学生は必ず、自分で授業レポート課題を取りに来てください。オフィスアワーは火曜・水曜の昼休みです。

01	幼稚園における集団生活の意義と教育の方法
02	遊び活動の指導・援助の方法（１）遊び活動の意義について
03	遊び活動の指導・援助の方法（２）指導援助の具体的方法について
04	生活活動の指導・援助の方法
05	課題活動の指導・援助の方法
06	行事の指導・援助の方法
07	プロジェクト型活動の指導・援助の方法
08	幼稚園と小学校の連携課題と教育方法
09	低学年の生活科の授業方法について
10	授業指導の方法事例（１）レッジョ・エミリアアプローチの検討
11	授業指導の方法事例（２）小学校生活科授業実践の検討
12	教育評価の方法について
13	情報リテラシー教育について
14	情報機器の活用方法と課題
15	まとめ
16	定期試験

2018年度シラバス

科目名:国語科教育法	担当者:森川　拓也	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:小学校教諭1種		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
小学校における国語科教育の目標・内容のすべてにわたっての基礎を学んだ上で、国語科の授業を担当するための知識・技能・教材研究の方法・学習指導の方法を具体的に学び、習得します。グループ・ワーク、ディスカッション・発表などを数多く行います。

授業の到達目標
小学校国語科の目標・構成・評価に関わる基礎的な内容を理解し、国語の具体的授業像をもつ。教材研究・指導計画立案等の方法を理解し、授業実践力を高める。国語の授業づくりへの意欲をもつ。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
教材を読んで課題を考えておいたり、参考資料を調べたりすること、またそれぞれで教材研究を行うことなどがあります。

評価方法
授業に参加する姿勢・活動（20%）　レポート・課題・提出物・発表（40%）　筆記試験（40%）以上を総合して評価します。

教科書	参考図書
小学校学習指導要領解説　国語編	適宜紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
国語辞典が必要です。（電子辞書も可）　　各回に配付する資料は失くさないようにしてください。　連絡先・手段は授業時に伝えます。

01	オリエンテーション（現在の現場で求められる国語の力についての理解）
02	国語科教育の目標と内容（新学習指導要領の理解）の授業への具体化についての理解
03	国語の授業と子どもの学習能力の育成についての理解
04	国語の授業の具体例から学ぶ（授業映像の分析・検討）
05	教材研究から授業づくりへ①　　文学教材をどう読み、どう指導するか（教材研究）
06	教材研究から授業づくりへ②　　文学教材をどう読み、どう指導するか（発問検討）
07	教材研究から授業づくりへ③　　文学教材をどう読み、どう指導するか（指導案作成）
08	模擬授業演習①　実践と振り返り
09	教材研究から授業づくりへ④　　説明文教材をどう読み、どう指導するか（教材研究）
10	教材研究から授業づくりへ⑤　　説明文教材をどう読み、どう指導するか（指導案作成）
11	教材研究から授業づくりへ⑥　　「話すこと・聞くこと」をどう指導するか
12	教材研究から授業づくりへ⑦　　「書くこと」「言語文化」をどう指導するか
13	教材研究から授業づくりへ⑧　　発問検討・指導案作成
14	模擬授業演習②　実践と振り返り
15	まとめ
16	筆記試験

2018年度シラバス

科目名:社会科教育法	担当者:松永　康史	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:小学校教諭1種		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法 学習指導要領解説から社会科教育の目標や内容等を理解し、先人のこれまでの社会科授業実践から学びます。そのうえで、社会科授業づくり（教材研究、指導計画、学習指導案の作成、模擬授業など）を通して、実践的な指導力を身につける。
授業の到達目標 社会科教育の目標、内容、指導計画等を理解し、問題解決的な学習の充実を見据えた教材研究や学習指導案の作成、授業実践の分析を通して、実践的な指導力を身につける。
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修 新聞やニュースなどから社会事象、社会問題に目を向ける。社会科教育内容と関連して、地域やメディアなどから教材になりそうなものを探す。
評価方法 定期試験60%、授業中の小レポート・課題20%、授業への参加状況20%

教科書	参考図書
小学校学習指導要領解説　社会編	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 振り返りシートを書きますので、意見、質問等、有効に活用してください。オフィスアワー金曜昼休み

01	社会科教育の目標
02	社会科教育の内容と学習指導
03	日本における社会科教育の歴史
04	社会科教育における授業理論
05	授業実践の事例検討①3年生実践
06	授業実践の事例検討②4年生実践
07	授業実践の事例検討③5年生実践
08	授業実践の事例検討④6年生実践
09	学習指導案の作成と内容、作成手順
10	学習指導案の作成と模擬授業①教材研究
11	学習指導案の作成と模擬授業②指導計画・単元構想の検討
12	学習指導案の作成と模擬授業③指導案の検討
13	学習指導案の作成と模擬授業④発表と評価
14	社会科における評価
15	これからの社会科教育に求められる指導力と課題
16	試験

2018年度シラバス

科目名:生活科教育法	担当者:吉田　眞砂	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:小学校教諭1種		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須. 選択	選択

授業概要と方法 　子どもの立場になって活動しながら、生活科の目標、内容、指導計画・方法等について学ぶ。　生活科のおもしろさを味わい、教師の役割、生活科という教科から低学年教育の在り方についても考える。
授業の到達目標 　生活科の目標や内容、活動を充実させるための教師の役割について理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修 　身の回りを見つめ、授業に活用できそうなものを見つける。　「小学校学習指導要領解説　生活編」を読み、生活科の目標、内容等について理解を深める。。
評価方法 　授業内レポート８０％　学習指導案・模擬授業２０％

教科書	参考図書
小学校学習指導要領解説　生活編	小学校学習指導要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 　・連絡手段は授業内で開示する。　・オフィスアワー　火昼休み

01	生活科の誕生、変遷、目標、内容等について
02	生活科の基本的な考え方、スタートカリキュラムについて
03	内容（１）学校と生活について
04	内容（２）家庭と生活について
05	内容（３）地域と生活について
06	内容（４）公共物や公共施設の利用について
07	内容（５）季節の変化と生活について
08	内容（６）自然や物を使った遊びについて
09	内容（７）動植物の飼育・栽培
10	内容（８）生活や出来事の伝え合いについて
11	内容（９）自分の成長について
12	学習指導案の作成（１）単元設定、授業計画
13	学習指導案の作成（２）１時間の授業計画
14	模擬授業の実施（１）身近な人々、社会及び自然と関わる活動
15	模擬授業の実施（２）学校、家庭及び地域の生活に関する活動
16	定期試験は実施しない

2018年度シラバス

科目名:図画工作科教育法	担当者:淺野　卓司	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:小学校教諭1種		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法 図画工作教育の学習目標を理解し、指導者としての基礎的知識・技能の獲得を目的とする。また、教科書研究・教材体験等を通して授業づくりの発想力を培う。
授業の到達目標 ・小学校図画工作科における学習目標・評価の観点について理解できるようになる。・小学校図画工作科の単元を理解し、学習指導計画を作成できるようになる。・小学校図画工作で用いる材料・用具について基礎的な扱い方を理解できるようになる
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修 授業内容によって、その都度指定する。
評価方法 鑑賞教育ワークシートの作成（配点10）、指導案作成（配点10）、小学校学習指導要領に関するテストの総計と授業態度を加え、総計の60%以上を単位認定の基礎条件とする。

教科書	参考図書
「新学習指導要領の展開」図画工作編　平成29年度版（明治図書）、小学校学習指導要領解説　図画工作編「小学校学習指導要領　図画工作編」平成29年度版（文部科学省）	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) ・授業欠席日数が3回を超えた場合は評価を行わない。遅刻は欠席としカウントする。・授業の際にパソコンが必要となる。授業で使用する際はあらかじめ指定をする。・連絡先はasano-t@ohkagakuen-u.ac.jpまで。

01	オリエンテーション
02	図画工作教育の内容と目標　作品などを鑑賞する活動　アートカードゲーム
03	図画工作教育の内容と目標　作品などを鑑賞する活動　子どもの絵を読み解く（ワークシート）
04	指導案を書いてみよう①　　指導計画の立て方
05	指導案を書いてみよう②　　教材研究
06	図画工作教育の内容と目標　鑑賞の授業をやってみよう（模擬授業　低学年の題材）
07	図画工作教育の内容と目標　鑑賞の授業をやってみよう（模擬授業　中学年の題材）
08	図画工作教育の内容と目標　鑑賞の授業をやってみよう（模擬授業　高学年の題材）
09	図画工作教育の内容と目標　鑑賞の授業をやってみよう（模擬授業　中学校美術への発展的な題材）
10	題材の繋がりを探して①（教科書研究）レポートの説明
11	題材の繋がりを探して②（教科書研究）
12	題材の繋がりを探して③（レポート）
13	学習指導要領とはなにか？「B　鑑賞」と〔共通事項〕
14	学習指導要領とはなにか？「A 表現」（造形遊び）
15	学習指導要領とはなにか？「A 表現」（絵や立体や工作に表す活動）
16	試験

2018年度シラバス

科目名:道徳の指導法	担当者:松永　康史	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:小学校教諭1種		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　本授業では、「学習指導要領」等を理解し、学校現場において行う道徳科の目標、教育内容、指導法について理解を深める。また、児童の道徳性の発達についての知識をもち、道徳科の授業づくりを検討する。授業づくりにおいては、授業実践例の検討や教材研究、学習指導案作りを行う。その際、「考え、議論する道徳」を想定するとともに、模擬授業を行うことで授業づくりを振り返りながら、実践的な力を養う。

授業の到達目標
　道徳の意義や原理を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育と道徳科の目標、内容、指導計画等を理解し、児童の道徳性の発達をふまえた教材研究や学習指導案の作成、授業実践の分析等を通して、実践的な指導力を身につける。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　道徳資料の読み、指導案の作成など課題を指示することもあります。

評価方法
定期試験60%、授業中の小レポート・課題20%、授業への参加状況20%

教科書	参考図書
文部科学省『小学校学習指導要領　特別の教科　道徳編』2015年6月	道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議「「特別の教科　道徳」の指導方法・評価について」（報告）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
オフィスアワー金曜昼休み

01	道徳の本質と「考え、議論する」道徳
02	学習指導要領の理解①：学校の教育活動全体における道徳教育
03	学習指導要領の理解②：道徳科
04	日本における道徳教育の歴史
05	子どもの発達と道徳性：コールバーグの理論
06	道徳教育に関する授業理論
07	授業実践の事例検討①：低学年
08	授業実践の事例検討②：中学年
09	授業実践の事例検討③：高学年
10	学習指導案の構成と内容、作成手順
11	学習指導案の作成と模擬授業①：資料収集と資料分析
12	学習指導案の作成と模擬授業②：指導案の検討
13	学習指導案の作成と模擬授業③：発表と評価
14	道徳教育、道徳科における評価
15	これからの道徳教育に求められる実践的指導力と課題
16	

2018年度シラバス

科目名:特別活動の指導法	担当者:木村　幸泰	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:小学校教諭1種		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法 　学校現場の教育活動や児童の実態をもとに、特別活動の占める役割や価値について学習する。そして、講義やグループ活動などを通して、その具体的な取り組みや指導方法を理解する。
授業の到達目標 学校・学級の様々な取り組みや実態・課題を理解し、特別活動を広い視野で理解する。さらに、自分なりに指導のアイデアや課題への対応について考えられるようになる。
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修 学校教育に関するニュースや資料に目を向けながら毎時の小レポートを作成してください。
評価方法 ①授業への積極的参加度：２０％、②　毎時の小レポート：５０％　③　課題レポート：３０％

教科書	参考図書
小学校学習指導要領の解説　特別活動編	小学校学習指導要領の解説　特別活動編

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) ・グループ活動などの中で、意見やアイデアが出せるように、自分の周辺に、小学校・幼稚園・保育園に通っている子どもたちの様子が聞ける人を事前に探しておくとよいと思います。（いなくても問題はありません）　・質問は、Moodleで受け付けます。　・連絡方法は、授業内に開示します。

01	ガイダンスと講義の導入：特別活動の具体例
02	学習指導要領における特別活動の在り方やその意義：学校・学級づくりのグランドデザイン
03	学級づくりの３要素と新学期はじめの学級指導：これだけ押さえればOK！10箇条＋α
04	学級における教師の指導と特別活動：主体性と孫悟空のお話
05	児童会活動と集団の中で個を生かす手立て：笑うべからず・・・小さくても歯車に
06	明るい学級づくりを行うための学級活動とそのアイデア：陽転
07	学級活動の指導案づくり（グループ活動）
08	学級活動の模擬授業と評価・改善（グループ発表）
09	発達障害・不登校など：課題を抱える子への対応：必修！実践的な児童心理学
10	いじめ・学級崩壊など：学級の課題とその対応：学校を震撼させるもの・・・秘伝の対応法
11	虐待・DV・貧困など：子どもを取り巻く家庭や社会的の問題とその対応：学校だけでは足りない
12	学校づくりと保護者・地域との連携：体験の場と世界を広げる
13	部活動の光と影：今はできない？・・・まっすぐ歩けなくても地区大会制覇
14	進路指導という視点でグランドデザインを考える：夢と生き方の教育
15	学校づくりと幼稚園・保育園との連携：新入生を迎えるなら・送り出すなら（グループ討議）
16	なし

2018年度シラバス

科目名:生徒・進路指導論	担当者:山口　正	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:小学校教諭1種		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法 ○授業では、１）現代の子ども理解を深めながら、２）こんにち問われている生徒指導と進路指導のあり方を考える。３）あわせて、生徒指導や進路指導の具体的な事例検討をとおして、子どもの発達に必要な指導方法を学ぶ。○授業は、講義と意見交流（学習グループと全体）を組み合わせてすすめていく。
授業の到達目標 ①　現代の子どもの変化・特徴を理解できるための基礎理論を身につける。②　「いじめ」「不登校」など生徒指導上の諸問題に関する基礎理解（理論と対処方法）を身につける。③　進路指導の目的と問われている課題について理解する。
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修 事前学習課題として、次回の授業内容に関する課題（資料の読了やコメント準備など）を毎回位置づける。また、課題提出を求めることがある。それを前提にして、授業を運営する。
評価方法 つぎの二つを総合して評価する（%は総合評価の割合）。○授業中の学習活動（50%）○課題レポート（50%）　それぞれの評価基準は授業のなかで説明する。

教科書	参考図書
特定の教科書は指定しない。毎回、学習プリントを配布するのでファイルに綴じて持参すること。	文部科学省『生徒指導提要』　新学習指導要領（小学校編） その他は授業のなかで説明する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) ○意見交流をとおして、多様な意見から学び、コミュニケーション能力を高めてほしい。○遅刻、私語、携帯電話など、モラル違反には厳格に対処する。また自覚的にモラルを守ってほしい。○授業に関する連絡・質問・要望などは下記メールを利用すること。　yamaguti@n-fukushi.ac.jp

01	授業ガイダンス：全体目標や授業計画、評価方法などの説明　問われる教職の力量とは
02	現代の子どもが問いかけていること（1）　子どもの生きづらさ
03	現代の子どもが問いかけていること（2）　集団のなかで生きる子どもたち
04	現代の子どもが問いかけていること（3）　「普通の子ども」の変化と思春期理解
05	生徒指導の問題理解（1）　「いじめ」理解と対処方法
06	生徒指導の問題理解（2）　「不登校」理解と対処方法
07	生徒指導の問題理解（3）　「暴力行為」理解と対処方法
08	上記の生徒指導の問題に関する課題整理
09	生徒指導と学級づくり（1）　実績記録の検討　仲間づくり
10	生徒指導と学級づくり（2）　実践記録の検討　集団づくり
11	生徒指導と学級づくり（3）　実践記録の検討　相談活動
12	進路指導の課題理解（1）　進路指導・キャリア教育の意義・目的
13	進路指導の課題理解（2）　進路指導・キャリア教育の実際
14	進路指導の課題理解（3）　働くこと・仕事の魅力
15	授業のまとめ
16	

科目名:保育内容指導法「生活と協同」	担当者:野田　美樹, 堀　由里	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須. 選択	選択

授業概要と方法
授業概要・テキストから領域「人間関係」について理解し、教育・保育の実践内容・方法について学ぶ。・保育の実践事例を読み、保育の場面をイメージしながら子どもの姿や保育者の役割を学ぶ。・遊び、絵本、保育教材などから「人間関係」を視点とした子どもの学びを追究する。方法・1回～6回の授業内でレポート課題や小テストを実施し、学修者が学びを記入することで理解できた内容を確認で　きるようにする。・グループディスカッション(2回)、グループワーク(3回)、グループ発表(1回)を行い、学修者同士が学び合いをし　ながら、授業に能動的に参加できるようにする。

授業の到達目標
・「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「人間関係」　のねらい、内容について理解する。・保育実践における保育内容を「人間関係」という視点から保育者の役割が読み取れるようになる。・「人とかかわる力」を身に付けるために乳幼児期に必要な生活や遊びについて理解を深める。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
・授業内でレポート課題や子どもの遊び、教材制作、絵本などを取り入れます。各自で学修を深め、保育の場面で　実践できるように練習や準備をするなどの努力をしてください。レポート作成または実技の学修を毎回1時間程　度行うこと。また、発表に向けて必要な資料を収集するなど、グループごとで必要な予習、復習を考え合って、　進んで取り組むように心掛けてください。

評価方法
・定期試験40%　　レポート・作品などの提出物30%　　グループ活動への取り組みや発表30%

教科書	参考図書
・岩立京子：編集代表　萌文書林 「事例で学ぶ保育内容人間関係」無藤隆：監修	「保育所保育指針, 幼稚園教育要領, 幼保連携型認定こども園教育・保育要領」

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・受講生同士のグループ活動において、互いの意見を尊重すること。また、グループ活動に積極的に参加することを心がけ、より深い学びとより良い人間関係作りに必要な姿勢を自ら学んでください。

01	オリエンテーション・「遊び」から「学ぶ」ということ
02	領域「人間関係」の課題と他領域との関係
03	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における人間関係
04	乳幼児期の発達と領域「人間関係」・子どもと保護者の「人間関係」
05	子どもと保育者の「人間関係」
06	遊びの中の「人間関係」
07	グループディスカッションと発表①（保育実践事例からの学び）
08	集団の中の「人間関係」
09	グループディスカッションと発表②（保育実践事例からの学び）
10	グループワーク①（子どもの遊びからの学び）
11	体験学習①（絵本からの学び）
12	体験学習②（教材制作からの学び）
13	グループワーク②（発表企画）
14	グループワーク③（発表準備）
15	グループワーク発表・グループ活動を保育実践で生かすために必要なこと
16	定期試験

科目名:保育内容指導法「生活と表現Ⅰ」	担当者:西川　由美子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法 　豊かな感性を育てるために、乳幼児期にどのような経験が大切なのか、演習を通して学習します。　音楽を通してどのように表現するかを学び、実践的な指導力を習得します。
授業の到達目標 　乳幼児期の感性を育てる方法としての表現活動や技術を身につけます。　歌ったり、体を動かしたり、楽器を演奏したりして保育者としての表現や指導法を身につけます。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 　保育に使われている手遊びや子どものあそび歌、日本のわらべうたを覚えましょう。
評価方法 　定期試験　５０％　実技　３０％　授業への参加態度　２０％　総合的に評価する。

教科書	参考図書 「楽しい歌とリズム遊び」

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 表現活動に必要な音楽や自然事象、人や動物、乗物等の動きを見たり表現したりして、感性を高める経験を心掛け　ましょう。

01	オリエンテーション
02	領域「表現」のねらい及び内容（幼稚園教育要領・保育所保育指針）
03	基本の動作と幼児体操
04	基本の動作と幼児体操、手遊び
05	身体表現（動物等）とあそびうた
06	身体表現（乗り物等）とあそびうた
07	手遊びとわらべうた遊び
08	リズム表現とリズム楽器の扱い方
09	リズム遊びと器楽演奏
10	器楽合奏、フォークダンス
11	表現遊びと音楽、器楽演奏
12	大縄跳び、わらべうた遊び
13	表現遊びとリズム遊び
14	領域「表現」のねらい及び内容の復習、手遊び
15	まとめ
16	試験

科目名:乳児保育Ⅰ	担当者:太田　早津美	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許・資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須. 選択	選択

授業概要と方法
乳児の気持ちを受け止め理解するためには保育者としての専門性と感性が必要となる。乳児保育の意義、理念、内容、方法、子育てに関する行政施策を講義やグループ学習、事例検討の演習で学ぶ。乳児保育の実践に役立つ技術を演習で習得する。

授業の到達目標
乳児保育に必要な知識や技術を習得し、乳児の理解を深め、乳児保育のために必要な実践力を身につける。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
乳幼児の発達の理解を深めるために乳幼児との接触の機会を積極的に作る。乳児の生活に必要な用具やおもちゃについて知る

評価方法
筆記試験（８０%）、授業への参加態度・レポート・提出物（２０%）

教科書	参考図書
理論と実践に学ぶ「乳児保育」太田早津美（編）青踏社　・ 平成２９年告示保育所保育指針（フレーベル）	適宜授業時に紹介

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
夏休み等を利用し 乳幼児と触れ合う機会を多く作り乳児の理解に努める。乳児保育に必要な手遊び・歌あそびを覚え、手作りおもちゃを作るなど、保育実践に役立つ技術の習得や教材研究を積極的に進める。　研究室７４２

01	授業概要および評価方法等の説明
02	最近の子育て事情と課題
03	乳児保育の現状
04	保育所保育指針を基にした乳児保育のねらいと内容
05	乳幼児理解と保育の視点
06	乳幼児の心身の発達
07	６ケ月未満の子どもの発達と保育
08	６ケ月～１歳３ヶ月未満の子どもの発達と保育
09	１歳３ヶ月～２歳未満の子どもの発達
10	２歳～３歳未満の子どもの発達と保育
11	実践例から見る乳児の理解
12	実践例から見る保育の展開
13	実践例から見る援助の実際
14	乳児保育における連携
15	まとめ
16	定期試験

2018年度シラバス

科目名:算数	担当者:小林　美記代	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須. 選択	選択

授業概要と方法 ・学習指導要領に基づいて、算数の目標や各領域のねらいと主な内容を解説する。・幼児教育で、算数の基本的知識や算数的思考が身に付く活用場面を想定し、演習を行う。
授業の到達目標 ・算数科の目標や理念を理解し、算数の楽しさを体得する。・学習指導要領の解説や示範授業のＤＶＤから算数的知識を習得し、教育の現場で活用できるようにする。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 ・次時の内容を予告し、課題を提示するので、各自で解いてくる。詳細は講義で示す。
評価方法 毎回の講義への参加態度とレポート（プリントの記入）60%、確認テスト40%

教科書	参考図書
毎回、プリントを配布する	小学校学習指導要領解説・算数科（東洋館出版社）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) ペアやグループで演習を行うときは、積極的に参加する。連絡方法は、授業内に開示する。

01	オリエンテーション：何のために算数を教えるのか。
02	算数の有用性を確認する
03	算数科の目標と「数と計算」の領域のねらいと主な内容の解説。
04	小学校１年の授業から、数の意味を理解するとはどういうことか明らかにする
05	算数の授業におけるユニバーサルデザインを明らかにする
06	算数のユニバーサルデザインの授業の具体例を知る
07	「図形」の領域のねらいと主な内容の解説と示範授業のＤＶＤの視聴
08	教育の現場で活用できる作図や折り紙を行う（その１）
09	現場で活用できる作図や折り紙を行う（その２）
10	面積について理解を深める。その知識を幼児教育に活用する。
11	教材・教具の工夫について解説、作成。
12	基礎基本を定着させる指導技術の演習
13	「測定」の領域のねらいと主な内容の解説と示範授業のＤＶＤの視聴
14	「データの活用」の領域のねらいと主な内容の解説と示範授業のＤＶＤの視聴
15	まとめと確認テスト
16	定期試験

2018年度シラバス

科目名:理科	担当者:木村　幸泰	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
自然科学に関する基礎的な学習内容について講義を行います。

授業の到達目標
子どもの抱く身近な事象への疑問に対して、専門的な立場から理解し、説明ができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
「子どもたちがどんな疑問をもつか、どのように考えるか」という視点を大切にしながら毎時の小レポートを作成する。

評価方法
①授業への積極的参加度２０％　②　授業レポート５０％　③　定期試験３０％

教科書	参考図書
最新理科資料集（明治図書）	小学校学習指導要領の解説　理科編

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
身のまわりのものに興味・関心をもち、不思議なことがあれば進んで調べようとする姿勢を大切にしてください。また、客観的な事実をもとに考え、自分なりの論をもって討議ができるようにしてください。・質問は、Moodleで受け付けます。
・連絡方法は、授業内に開示します。

01	オリエンテーション（講義の目的・方法）、講義の導入：えっそうなの？身の回りのサイエンス
02	水に溶かせば化学が分かる：水溶液の性質　その１（ものの溶け方）
03	水に溶かせば化学が分かる：水溶液の性質　その２（身近な酸・アルカリ）
04	水に浮かせば化学が分かる：密度
05	マッチをすれば化学が分かる：気体の性質
06	フルーツを食べると生物が分かる：植物のからだのつくりとはたらき
07	お口をのぞけば生物が分かる：動物のからだのつくりとはたらき
08	風がふけば・・・生物が分かる：生物と環境
09	話してたたけば物理が分かる：音
10	のぞいて見れば物理が分かる：光
11	向きをかえれば物理が分かる：磁力
12	歌を歌えば地学が分かる：太陽と月
13	あたりまえの中に科学が潜む：理科研究のすすめ　その１
14	部活動の光と影：今はできない？・・・まっすぐ歩けなくても地区大会制覇
15	科学の進歩は、未来をつくる？：１０年後の社会を予測する（グループ討論）
16	定期試験（フィールドワークと論述）

2018年度シラバス

科目名:生活	担当者:松永　康史	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法 生活科の目標や内容を確認しながら、子どもの立場になって、活動や体験をし、生活科の学びついてイメージをもつ。気付きを大切にし、気付きの交流を通して、生活科の在り方を考える。
授業の到達目標 活動や体験を通して生活科の学習イメージを膨らませる。気付きの交流を通して、生活科の基礎的な理解と実践力を習得する。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 授業時の持ち物を確実に準備すること。事前学習として示したことをやっておくこと。事後は、授業で紹介した活動を、授業だけにとどめず、継続して自分の学びにするよう努めることを期待します。
評価方法 授業内レポート（７５％）、自己課題レポート（２０％）、授業への出席・態度（５％）

教科書	参考図書
小学校学習指導要領解説　生活編	幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 、保育所保育指針解説書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 天候等により予定が変更になることもあると思いますが、臨機応変に対応してください。オフィスアワー金曜昼休み

01	ガイダンス　あくしゅをしよう
02	秋とふれあおうの準備と計画
03	秋見つけ（木の形、葉集め）
04	貼り絵の製作
05	気付きの交流と授業内レポート
06	学校探検の準備と計画
07	学校探検
08	学校探検のまとめ
09	学校探検の発表
10	気付きの交流と授業内レポート
11	身近なものを使ったおもちゃ遊びの計画と準備
12	身近なものを使ったおもちゃの製作
13	身近なものを使ったおもちゃ遊びと改良
14	気付きの交流と授業内レポート
15	幼少接続としての生活
16	

2018年度シラバス

科目名:音楽ⅡＡ	担当者:基村昌代、鬼頭　愛、竹内理恵、谷田育代、野々山雅子、玉護眞理子、高橋恵理、赤松みどり	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　基礎歌唱法及びピアノ奏法を、幼児歌曲などの弾き歌いや斉唱・重唱を用いて学ぶ。各々のレヴェルが異なるため、基本的に個人レッスンの形態をとる。声の出る仕組みを踏まえた上での歌唱、コードネーム・譜読力・リズム感を修得し、幼・保・小の現場を想定した弾き歌いの実践について触れる。また譜読み宿題をオンラインにて課す。

授業の到達目標
　指定の弾き歌い12曲、コード譜３曲を課題とし、弾き歌いの基礎的な知識と技能向上を目指す。また音声生理学、発声法なども学ぶ。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　毎日少しの時間でもピアノに触れ、歌うことが上達への近道です。

評価方法
　試演会評価100点、平常点100点、オンライン課題提出状況100点の合計300点を100点に平均して算出する。平常点は半期を通して担当教員が到達度、学修意欲、出欠状況、学習態度を総合して評価する。なお、試演会は複数の教員が個々に審査し、合議した上で評価する。

教科書	参考図書
教育や保育に携わる人々のための「新・声楽指導教本」（教育芸術社）、テキストは担当教員が随時提示	幼稚園教育要領解説・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説・保育所保育指針解説書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　カラオケでは歌えるのに授業となると歌えない？　まずは恥ずかしがらず声を出してみましょう。声はその人しか出せない世界で一つの宝物であり、その人の個性でもあります。その素敵な声を活かせるよう、毎日ピアノに触れ、歌うことが上達への近道です。

01	オリエンテーション、弾き歌い実践(とんぼのめがね）、音声生理学基礎１、譜読課題
02	弾き歌い実践(思い出のアルバム）、音声生理学基礎２、譜読課題
03	弾き歌い実践(ぞうさん)、発声法(姿勢）、譜読課題
04	弾き歌い実践(まつぼっくり）、発声法(腹式呼吸）、譜読課題
05	弾き歌い実践(さんぽ)、発声法(ブレス）、譜読課題
06	弾き歌い実践(おつかいありさん)、発声法(頭声と胸声）、譜読課題
07	弾き歌い実践(きのこ)、発声法(ロングトーン）、譜読課題
08	弾き歌い実践(どんぐりころころ)、発声法(共鳴）、譜読課題
09	弾き歌い実践(やまのおんがくか)、コードネーム(１年次復習）、譜読課題
10	弾き歌い実践(やきいもグーチーパー)、コード楽譜実践(おべんとう・カレーライスのうた）、譜読課題
11	弾き歌い実践(あわてんぼうのサンタクロース)、コード譜応用実践(おべんとう・カレーライスのうた伴奏アレンジ）、譜読課題
12	弾き歌い実践(せかいじゅうのこどもたちが)、コード譜実践(ともだちになるために）、譜読課題
13	弾き歌い実践(任意曲)、コード楽譜実践(任意曲)、コード譜応用実践(ともだちになるために・伴奏アレンジ）、譜読課題
14	弾き歌い実践(任意曲)、コード楽譜実践(任意曲)、譜読課題
15	試演会、総括
16	

科目名:音楽ⅡB	担当者:基村昌代、鬼頭　愛、竹内理恵、谷田育代、野々山雅子、玉護眞理子、高橋恵理、赤松みどり	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　基礎歌唱法及びピアノ奏法を、幼児歌曲などの弾き歌いや斉唱・重唱を用いて学ぶ。各々のレヴェルが異なるため、基本的に個人レッスンの形態をとる。声の出る仕組みを踏まえた上での歌唱、コードネーム・譜読力・リズム感を修得し、幼・保・小の現場を想定した弾き歌いの実践について触れる。また譜読み宿題をオンラインにて課す。

授業の到達目標
　「新・声楽指導教本」より数曲の歌唱アンサンブルを学び、任意の弾き歌い５曲、任意のコード譜３曲、リズム練習を課題とする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　毎日少しの時間でもピアノに触れ、歌うことが上達への近道です。

評価方法
　試演会評価100点、平常点100点、オンライン課題提出状況100点の合計300点を100点に平均して算出する。平常点は半期を通して担当教員が到達度、学修意欲、出欠状況、学習態度を総合して評価する。なお、試演会は複数の教員が個々に審査し、合議した上で評価する。

教科書	参考図書
教育や保育に携わる人々のための「新・声楽指導教本」（教育芸術社）、テキストは担当教員が随時提示	幼稚園教育要領解説・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説・保育所保育指針解説書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　与えられた課題をこなすだけではなく、自分で様々な曲にチャレンジしましょう。そして音楽の楽しさを味わって下さい。音楽の魅力や奥深さを感じることが出来ると思います。沢山の曲に触れることで、皆さんのレパートリーを増やして下さい。

01	オリエンテーション・任意曲実践(ピアノ演奏・弾き歌い)、譜読課題
02	任意曲実践(ピアノ演奏・弾き歌い・コード譜)、ピアノ奏法(記譜の基本確認)、譜読課題
03	任意曲実践(ピアノ演奏・弾き歌い・コード譜)、ピアノ奏法(打鍵・ペダルの踏み方確認)、譜読課題
04	任意曲実践(ピアノ演奏・弾き歌い・コード譜)、ピアノ奏法(テンポについて)、譜読課題
05	任意曲実践(ピアノ演奏・弾き歌い・コード譜)、ピアノ奏法(強弱と抑揚)、譜読課題
06	任意曲実践(ピアノ演奏・弾き歌い・コード譜)、コード進行の定型、譜読課題
07	任意曲実践(ピアノ演奏・弾き歌い・コード譜)、コード進行の定型、譜読課題
08	任意曲実践(ピアノ演奏・弾き歌い・コード譜)、コードの転回形、譜読課題
09	任意曲実践(ピアノ演奏・弾き歌い・コード譜)、コードの転回形、譜読課題
10	任意曲実践(ピアノ演奏・弾き歌い・コード譜)、様々な伴奏パターン、譜読課題
11	任意曲実践(ピアノ演奏・弾き歌い・コード譜)、様々な伴奏パターン、譜読課題
12	任意曲実践(ピアノ演奏・弾き歌い・コード譜)、楽曲の内容解釈と表現方法、譜読課題
13	任意曲実践(ピアノ演奏・弾き歌い・コード譜)、楽曲の内容解釈と表現方法、譜読課題
14	任意曲実践(ピアノ演奏・弾き歌い・コード譜)、楽曲の内容解釈と表現方法、譜読課題
15	試演会、総括
16	

科目名:子どもの保健Ⅱ	担当者:松岡　典子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
・保育現場で必要な安全と健康の保持増進のための基礎的知識とそれに関連する保健的手技の習得のための演習を行う。また園生活における保健計画の作成・立案と発表(一回)。演習はグループワークを基本行う

授業の到達目標
１．㊀どもの健康安全に係る保健活動の計画の適切な立案・評価ができるようになる。２．㊀どもの身体計測等の数値の評価、また器具の正しい取扱いや日常的な養育技術を習得する。３．㊀どもの疾病と予防の対策及び早期発見のための知識を身に着け、初期対応ができるようになる４．救急時の対応や事故防止・安全な保育環境づくりができるようになる５．グループ内での共同作業を通して他者と協力する力を身に着ける

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
演習の前には準備や学習目標の確認を行う

評価方法
　授業の参加態40%　レポート　30%　　実技習得度　30%

教科書	参考図書
子どもの保健演習ガイド　高内正子編著　建帛社	「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「幼稚園教育要領」

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
有益な演習のためには事前学習と準備が重要です、主体的な学びを期待しています。 連絡先は授業で示す

01	オリエンテーション・小児保健演習の意義（手洗い）
02	乳児の発達の理解と扱い　（抱き方・衣服の着脱・排泄の世話）
03	子どもの健康の指標（身体的評価とバイタルサインの評価）
04	子どもの健康の指標（精神・運動発達の評価）・新生児と乳児の清潔の保持の意義
05	新生児の取扱い　（沐浴演習）
06	乳児の理解と扱い　（歯の健康）
07	子どものケア（罨法と服薬）
08	子どもの体調不良の対応（発熱・咳・嘔吐など）
09	子どもの体調不良の対応（腹痛・下痢・発疹など）医療機関のかかり方
10	心肺蘇生法　(AEDの扱い)
11	保健活動の計画の立案・評価
12	保健便りの作成
13	子どものケガと応急処置
14	保健便りのグループ発表
15	車椅子・担架の使用法とまとめ
16	なし

2018年度シラバス

科目名:子どもの保健Ⅱ	担当者:原田　裕子,牧野　悦子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
保育現場で必要な安全と健康の保持増進のための基礎的知識とそれに関連する保健的手技の習得のための演習と、園生活の健康のための保健計画の作成　グループ学習を基本に、更にグループワークおよび発表(1回)を行う

授業の到達目標
１．㊀どもの健康安全に係る保健活動の計画の適切な立案・評価ができるようになる。２．㊀どもの身体計測等の器具の取扱いや日常の養育技術を習得する。３．㊀どもの疾病と予防の対策及び早期発見のための知識を身に着け、初期対応ができるようになる。４．　救急時の対応や事故防止・安全な保育環境づくりができるようになる。５．　グループ内での共同作業を通して他者と協力する力を身に着ける。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
演習の前には準備や学習目標の確認を行う。

評価方法
授業の参加態度40%　レポート　30%　　実技習得度　30%

教科書	参考図書
子どもの保健演習ガイド　高内正子編著　建帛社	幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 保育所保育指針解説書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡先は授業で示す。

01	オリエンテーション・小児保健演習の意義（手洗い）
02	乳児の理解と扱い　（抱き方・衣服の着脱・排泄の世話）
03	子どもの健康の指標（身体的評価とバイタルサインの評価）
04	子どもの健康の指標（精神・運動発達の評価）・新生児と乳児の清潔の保持の意義
05	新生児の取扱い　（沐浴演習）
06	乳児の理解と扱い　（歯の健康）
07	子どものケア（罨法と服薬）
08	子どもの体調不良の対応（発熱・咳・嘔吐など）
09	子どもの体調不良の対応（腹痛・下痢・発疹など）医療機関のかかり方
10	心肺蘇生法　（AEDの扱い）
11	保健活動の計画とその評価
12	保健便りの作成
13	子どものケガと応急処置
14	保健たより発表
15	車椅子・担架の使用法とまとめ
16	なし

科目名:保育実習Ⅰ（保育所）	担当者:太田　早津美, 木村　達志, 基村　昌代, 野口　啓子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	実習
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:保育実習指導Ⅰ（保育所）の受講を修了したもの（事後指導は実習後）		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
保育所における保育士の役割は、子どもの保育と保護者の指導や子育て支援が含まれる。そうした保育士の職務を実際に体験することで理解し、保育所の社会的役割や、子ども理解、保護者理解をしていく。

授業の到達目標
保育を実際に体験することにより、子どもの姿や子どもと保育士の関わり方、援助の仕方などが理解でき、学生の保育に生かされ、保育技術や実践力として身につく。臨機応変な対応や判断力を学ぶ。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
実習に先立ち保育実習Ⅰの事前指導での学びをよく確認する事。事前準備をしっかり行い、ゆとりをもって実習できるようにする事。保育実践に役立つ手遊・歌遊びや年齢に応じた教材研究をしっかりしておく。

評価方法
実習園からの評価６０％、実習日誌２０％、実習事後レポート１０％、その他（実習への意欲・実習状況など）１０％を総合して判断する

教科書	参考図書
実習ハンドブック　　保育実習Ⅰ（保育所）の手引き2017	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
実習前から健康管理に気を付け、遅刻、早退・欠席をせず、充実した実習ができるように心がけること。実習ハンドブックや手引きに従い実習を行うこと。再履修する学生も、保育実習指導Ⅰを再受講することが原則。（研究室　太田7402　木村7319　基村7420）

01	各地域の指定保育所において、２週間の実習を行う。 〔保育実習Ⅰの形態〕 保育所での２週間の実習で、観察・参加・指導という形態が中心となる ・保育所保育士の保育や業務の実際　・保育所の施設設備・地域家族との関係・各年齢の子どもの発達 ・保育所での子どもの生活や遊びの姿・保育士の子どもの関わり方の実際・食事の内容や指導 ・部分実習、全日実習の指導案作成・保育記録　などを体験的に学ぶ 教務課実習担当（0562-97-5503）
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2018年度シラバス

科目名:保育実習Ⅰ（施設）	担当者:勝浦　眞仁, 古畑　淳, 寺田　泰人	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	実習
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須. 選択	選択

授業概要と方法
児童福祉施設において約１０日間の実習を行う。保育士が働くことのできる施設についての理解を深めるとともに、施設における保育士の養護を実際に体験することを通して、保育士の多様な役割を深く理解する。

授業の到達目標
１．児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。２．観察や子ども（利用者）とのかかわりを通して子ども（利用者）への理解を深める。３．既習の内容を踏まえ、施設での養護内容や生活環境について総合的に学ぶ。 ４．支援計画の理解と活用、記録及び自己評価等について具体的に理解する。５．施設における保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
施設実習に行くためには、保育実習指導Ⅰの「すべての授業で出席であること」、「すべての課題で合格すること」、これら２点をクリアしておくことが求められる。保育実習指導Ⅰにおける無断欠席や遅刻、提出物忘れ等に加えて、普段からのあいさつは、実習生としての資質にかかわることであるから、十分に注意されたい。

評価方法
実習園からの評価60%、実習日誌20%、実習事後レポート10%、その他（実習への意欲・実習状況など）10%を総合して判断する。

教科書	参考図書
随時紹介する。	保育所保育指針

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
実習前から健康管理に気をつけること。実習中は遅刻、早退、欠席をせず、充実した実習ができるように心がけること。急病など致し方ない事情で欠席する場合は、ただちに実習先と大学事務に電話すること。保育実習Ⅰ（施設）を再履修する学生においても、保育実習指導Ⅰを再受講することが原則で、実習の履修資格にになる。

01	＜居住型児童福祉施設等及び障害児通所施設等における実習の内容＞ １．施設の役割と機能 （１）施設の生活と一日の流れ （２）施設の役割と機能 ２．子どもの理解 （１）子どもの観察とその記録 （２）個々の状態に応じた援助や関わり ３．施設における子どもの生活と環境 （１）計画に基づく活動や援助 （２）子どもの心身の状態に応じた生活と対応 （３）子どもの活動と環境 （４）健康管理、安全対策の理解 ４．計画と記録 （１）支援計画の理解と活用 （２）記録に基づく省察・自己評価 ５．専門職としての保育士の役割と倫理 （１）保育士の業務内容 （２）職員間の役割分担や連携 （３）保育士の役割と職業倫理 これらを学ぶため、2年次の11月から12月までの期間に学外の児童福祉施設で、8日間の宿泊形式の実習または10日間の施設に通所による実習を実施する。
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:保育実習指導Ⅰ	担当者:太田　早津美, 木村 達志, 基村　昌代, 勝浦　眞仁, 古畑　淳, 寺田　泰人, 野口　啓子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許・資格:保育士資格		開講時期	通年
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須. 選択	選択

授業概要と方法
保育実習Ⅰの事前指導として、保育所や施設に関する知識、実習の意義や実習のあり方、具体的な指導法や実習の心構えを学ぶ。実習後においては、自己評価を行い自己の課題に気づき、事後指導が次の実習に生かせるようにする。全体講義と演習の方法で行い、確認事項等が確実に伝達され、実習に支障がないようにする

授業の到達目標
保育所や施設の保育についての理解と子ども理解を学ぶとともに保育士の職務について理解する。具体的な指導案や記録の書き方を学び、実習に向けた実践力と意欲を高める。実習後は自己の課題を明確にし改善を図る

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
実習前に担当する年齢の発達や特徴について十分理解しておく。　年齢にあった教材研究や責任実習のための準備を早めにしておく。　子どものモデルとして恥ずかしくないよう、日頃から態度や言葉に気を付け、保育士としての自覚を持つ

評価方法
事前の課題（指導案作成、模擬保育など）５０％　　事後課題（実習レポートなど）４０％授業への意欲、１０％　を総合的に評価する。欠席遅刻に対しては特に厳しく対処する。

教科書	参考図書
フォトランゲージで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画	授業時に適宜紹介

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
実習を行う前提としての授業なので、履修しない者、無断欠席をした場合は実習の履修資格を失う。時間割以外の曜日にも適宜行われるので、間違いのないように出席する事。実習の再履修学生も、保育実習指導を受けることが原則（研究室　太田742　木村7319　勝浦7413　古畑7410）

01	保育実習Ⅰ（保育所）	①保育所実習オリエンテーション・実習の心構え
02		②保育実習の流れの説明と諸注意
03		③保育所の説明と保育所の生活の流れついて
04		④教材研究
05		⑤指導計画の作成について
06		⑥指導計画の作成と展開
07		⑦健康指導・必要書類の作成（実習先発表）
08		⑧記録の書き方
09		⑨直前指導
10		⑩事後指導
11	保育実習Ⅰ（施設）	①施設実習オリエンテーション
12		②施設についての事前学修
13		③事前学習の成果発表会
14		④必要書類の作成（実習先発表）
15		⑤課題および事前訪問について
16		⑥児童福祉施設の説明（乳児院、母子生活支援施設）
17		⑦児童福祉施設の説明（児童養護施設、障害児施設）
18		⑧日誌の書き方、自己課題の設定
19		⑨直前指導（実習の心構え・実習評価）
20		⑩事後指導（自己評価・報告書） 事後指導（自己評価・報告書） 事後指導（自己評価・報告書） 事後指導（事後評価・報告書）
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		

30	
31	

2018年度シラバス

科目名:総合演習ＩＡ	担当者:小嶋　玲子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法 次の項にある授業目標を達成するための授業を行いますが、少人数の演習科目ですから、構成員の学びを全員で共有するように学んでいけるようにしたいです。そのためにグループワークや討論を多用した授業を行い、授業参加者同士が学び合う関係をめざします。
授業の到達目標 保育者基礎スキルとしての対人コミュニケーション力（人の話を聴く、相手に伝わる話ができる。文章が書ける等）、自己理解・他者理解力をつけます。保育者が保育の中で意図してしたかかわりを理解し、それを保護者に伝える力の基礎力を学びます。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 学びを定着させるためには、記録を書くことが有効ですので、授業ごとにレポートを書いていただきます。保育者・教育者は書く仕事が多いですので、書く習慣をつけることで文章力がついていきます。基礎演習で絵本ノートを作ってきた人は、続けていきましょう。夏休みの課題（学外活動に関する本を読み、内容の要約（2000字以上）と本を読んだことによって気がついたこと、広がったこと（1000字以上）をレポートに書きMoodle上で提出）充電されたPCを持参のこと
評価方法 授業後課題レポート50%　授業への参加度50%

教科書	参考図書
養護と教育が一体となった保育の言語化　全国保育士会	授業内で紹介します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 演習科目の授業は実際に授業参加することが必要条件です。保育者・教育者の仕事はチームワークが必要です。総合演習で取り組む活動に主体的・積極的に参加し、共有体験することを望みます。連絡先は授業時に伝えます。

01	ゼミガイダンス
02	学外体験についての説明　教職履修カルテの振り返り
03	支援者としての自己理解・他者理解について考える（１）
04	支援者としての自己理解・他者理解について考える（２）
05	教育研究所でのパフォーマンスの計画・制作・研究（1）
06	教育研究所でのパフォーマンスの計画・制作・研究（2）
07	教育保育研究所での実習
08	人形劇鑑賞とワークショップ
09	教育保育研究所での実習の振り返りと子育て支援についての学び
10	養護と教育が一体となった保育の言語化の学び　事例1
11	養護と教育が一体となった保育の言語化の学び　事例2
12	養護と教育が一体となった保育の言語化の学び　事例3
13	養護と教育が一体となった保育の言語化の学び　事例4
14	教育保育研究所報告　総合演習１Aの振り返り
15	学外体験の計画とレポート課題説明　学外研修の説明
16	

2018年度シラバス

科目名:総合演習ＩＡ	担当者:藤田　公和	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法	
授業の到達目標	
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修	
評価方法	
教科書	参考図書
その他(学生へのアドバイス、連絡手段)	

01	
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:総合演習ＩＡ	担当者:原田　明美	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須. 選択	必須

授業概要と方法
保育・教育とは何か、子どもの福祉とは何か、保育者の魅力と社会的意義や役割などを多角的に見識を深めるように展開する。主に、グループ討議やグループでのプロジェクト活動を企画運営実践などから学びを深める。これらの活動により、企画力・考察力・発言力・主体性などを培いたい。

授業の到達目標
ゼミのメンバーと協力してプロジェクトを企画・運営・考察・発表する力を養う。保育への問題意識と、常に学ぶ姿勢を身に付け、保育者の資質に近づく。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
適宜示される課題に積極的に取り組み、且つ自信が課題意識を持って、ボランティアや新聞報道などに関心を持つ。自ら興味関心を持つ、遊びや食や生活リズムなどに取り組み、企画運営考察などを試みる。ゼミ内の交流や意見交換を積極的に行い、学びあう人間関係を作っていく

評価方法
授業への取り組み50%、レポート課題50%により、総合的に評価する

教科書 使用しない	参考図書 随時紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
学び多い授業にするために、他人任せにせず、自ら楽しくなる工夫をしてください。

01	ガイダンス・自己紹介・役割分担
02	ゼミの計画立案（前期）
03	プロジェクト１の立案①
04	プロジェクト１の立案②
05	プロジェクト１の実践
06	プリジェクト１の振り返りと考察
07	プロジェクト２の立案①
08	プロジェクト２の立案②
09	プロジェクト２の実践
10	プロジェクト２のの振り返りと考察
11	芸術鑑賞
12	教育・保育研究所活動プランニング①
13	教育・保育研究所活動プランニング①
14	教育・保育研究所活動実践
15	教育・保育研究所活動振り返りと考察
16	プレゼンテーションまとめ

2018年度シラバス

科目名:総合演習ＩＡ	担当者:寺田　恭子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　教育・保育実践者を目指す者は、自己期待と他者期待を自覚し、その調整・統合を目指しながらも同時に高い専門性を身につけていかなければならない。本授業では、自らが納得できる教育・保育実践者のあるべき姿を探求し、個基本的な、あるいは個々の”あるべき姿”に必要な”チカラ”の伸ばし方を多様な実践的活動から探る。

授業の到達目標
①学生は、特別な支援を必要とする子ども達への取り組みも含め、様々な活動を通して教育・保育に対する興味関心がたかまり、指導援助に必要な技術やコミュニケーション力を身につけることができる。②学生は、①を通して課題を発見し、それを究明することによって教育・保育実践者としてのあるべき姿を自ら考えることができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
障がい児や病弱な子どもたちなど、様々な子どもたちの情報を収集しておく。

評価方法
授業への参加態度50%、課題50%の総合評価

教科書	参考図書
なし	どの都度提示する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
仲間同士で実りあるディスカッションができるように、日頃から自分の意見や考えを言葉にできるよう心掛けよう。

01	オリエンテーション（自己紹介　本授業の流れ　課題の確認）
02	役割分担　年間計画
03	チームビルディング・本授業の活動指針とマップの作成　1年後期の振り返りと共に
04	他者期待と自己期待　あるべき姿を考えていくための基礎知識と方法
05	興味・関心事を研究に。多様な研究の紹介
06	興味・関心のある内容をまとめる①
07	興味・関心のある内容をまとめる②
08	自分の興味・関心のある内容を発表しよう。プレゼンテーションとディスカッション①
09	自分の興味・関心のある内容を発表しよう。プレゼンテーションとディスカッション①
10	障がいに対する知識と理解
11	障がいのる子どもたちと身体活動に対する知識と理解
12	実践活動①
13	実践活動②
14	実践活動③
15	実践活動④
16	実践活動振り返りとまとめ

2018年度シラバス

科目名:総合演習ＩＡ	担当者:淺野　卓司	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
保育教材である紙芝居をICTと関連させたにStop Motion Animationに関するプロジェクト型学修を行い、体験・調査を通して問題解決能力の育成を目的とする。

授業の到達目標
① 学生相互が協力し、計画的に進める力、挑戦する力を養う。② 活動を通して学んだことを記録し、ゼミ内において発表できる力を身につける。③ 感性を働かせながら、体験を通して学んだ題材を保育活動に繋げる力を育てる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
夏季休業中に20日以上の教育・保育現場でのボランティア活動を行い、子どもの観察記録をまとめる。

評価方法
・学外のワークショップ、ボランティア活動への参加を、評価の60点分としてカウントする。・ゼミにおける発表、リフレクションは試験と同様に扱い、40点分とする。

教科書	参考図書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
他の学生と協力し、積極的に活動に参加をすること。連絡先は、asano-t@ohkagakuen-u.ac.jpまで。

01	ガイダンス・活動の計画（自己目標の設定）
02	ゼミ間交流会
03	1年後期の履修カルテの振り返り
04	Stop Motion Animation作成のワーキング・グループを形成し、プロジェクト型学修とは何かということについて学ぶ。
05	子どもとメディアについて学ぶ（DVD視聴）
06	子どもとメディアについて学ぶ（ディスカッション）
07	情報検索（子どもとメディアに関する文献）
08	調査発表（グループ①）
09	調査発表（グループ②）
10	調査発表（グループ③）
11	プロジェクト型保育の実践を代表するレッジョ・エミリア・アプローチについて、動画視聴を通して理解を深める（リフレクション）
12	Stop Motion Animationの作品を鑑賞する
13	Stop Motion Animationの作品のイメージや構想について意見交換を行う。
14	DVD作品や芸術鑑賞における題材から、Stop Motion Animationの作品構想についてグループ毎で行う。活動計画について検討を行う。トピックに沿った、資料の収集・製作を行う。
15	学修のまとめ
16	

2018年度シラバス

科目名:総合演習ＩＡ	担当者:辻岡　和代	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法 １．教育保育研究所実習に関する授業　計画、準備、実習、振り返り等　（4回）２．人形劇のワークショップ（2回）３．食育に関するプレゼンテーション、調理実習等（5回）４．その他　ガイダンス等　（4回）
授業の到達目標 １．仲間と協力してゼミ活動を行うことができる。２．教育保育研究所実習の取り組みに対し、積極的に計画、準備、実習、振り返りを行う事ができる。３．人形劇ワークショップを通し、保育実践に役立つ制作やその使い方を研究できる。４．子どもを対象とすることを想定した、食に関するプレゼンテーションをすることができる。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 積極的にワークショップやボランティア活動に参加してください。　新聞や書籍などを読む習慣をつけ、保育の時事問題や、食をとりまく問題に関心をもって情報収集してください。
評価方法 教育保育研究所実習の取り組み20%　人形劇の取り組みの姿勢20% ゼミ活動への参加態度、ゼミにおける各課題の取り組み50%（ゼミ課題の提出：項目ごとに設定した課題に対する取り組みを各自でまとめたもの）　平常点10%として評価します。

教科書	参考図書
使用しない	幼稚園教育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) ゼミ活動の際には、調理だけではなく、準備や片づけ、衛生管理に配慮して有意義に活動してください。質問等は、Moodleまたはオフィスアワーで受け付ける。詳細については授業で開示します。

01	ガイダンス
02	調理室の使用と調理器具の使い方
03	教職履修カルテの振り返りと教育保育研究所実習について
04	教育保育研究所実習の計画
05	教育保育研究所実習の準備
06	教育保育研究所実習
07	教育保育研究所実習の振り返り
08	人形劇鑑賞
09	人形劇のワークショップ
10	食育に関するプレゼンテーション①　簡単な調理
11	食育に関するプレゼンテーション②　食材の選択
12	食育に関するプレゼンテーション③　伝統食と食文化
13	食育に関するプレゼンテーション④　五感を使った調理
14	総合演習ＩA振り返り
15	学外体験の計画とレポート課題
16	

2018年度シラバス

科目名:総合演習ＩＡ	担当者:基村　昌代	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　この授業では歌あそび、手遊び、わらべうたを習得します。子どもの身体の発達を踏まえた「音楽を使用したあそび」を、教育・保育を目指している学生自身が音楽の楽しさを味わえるよう、映像研究、実践研究をしながら学びます。

授業の到達目標
　個々の感性を育てるとともに、音楽表現能力や実践力、集団行動力を養うことを目標とします。乳児・幼児の音楽的発達と成長の理解を学び、歌遊び、手遊び、わらべうたを習得します。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　積極的にボランティア活動などを行ない、実践力を養うよう努力して下さい。

評価方法
　レポート提出100点、平常点200点の合計300点を100点に平均して算出する。平常点は半期を通して到達度、学修意欲、出欠状況、授業態度を総合して評価します。

教科書 テキストは担当教員が随時提示	参考図書 幼稚園教育要領解説・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説・保育所保育指針解説書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　現場ですぐに使える「音楽を使用した遊び」を積極的に修得しましょう。

01	ガイダンス（総合演習ＩAの教育の意図について、学外体験学習について、総合演習ＩA・ＩBの計画について）
02	映像で見る子どもの音楽あそび
03	手あそび実践１
04	歌あそび実践２
05	わらべうた実践３
06	芸術鑑賞（人形劇鑑賞・人形劇ワークショップ）１
07	芸術鑑賞（人形劇鑑賞・人形劇ワークショップ）２
08	教育保育研究所実践のプログラミング
09	教育保育研究所実践の制作と練習
10	教育保育研究所実習参加１
11	教育保育研究所実習参加２
12	教育保育研究所実習の振り返り
13	今期の学びについてレジュメを作成し発表と意見交換１
14	今期の学びについてレジュメを作成し発表と意見交換２
15	今期の学びについてレジュメを作成し発表と意見交換２
16	振り返り、総括

科目名:総合演習ＩＡ	担当者:太田　早津美	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:原則的に１年ゼミ（基礎演習）を終了した者		単位数	1
		必須. 選択	必須

授業概要と方法
保育の実践力を高めるために、子どもが興味の持てる手作りおもちゃの考案とそれを利用した遊び方について研究する。身近な材料を利用した手作りおもちゃを使った遊びや指導方法を検討し、実践することで、子どもの生活や実態を把握する。保育所や幼稚園の見学、主体的なボランティア活動につても設定していく。

授業の到達目標
子どもの年齢に応じた遊びや適したおもちゃが理解でき、保育実践に役立てることができる。身近な材料を工夫して保育に役立つおもちゃや教材が作れるようになる。子どもとの交流ができるような企画を主体的に考え、実践できるようにする。

学修したことを保育実習に生かす。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
乳幼児の発達の理解、生活や遊びの実態を知るために、子育て支援センターや保育所等での体験学習やボランティアを積極的に行う。文献等で子どもが興味をもって安心で安全に遊べる教材やおもちゃについて調べ学習をする。

評価方法
ゼミ活動への参加姿勢（８０％）、授業内レポート・提出物等（２０％）を総合的に判断する。

教科書	参考図書
幼稚園教育要領	必要な文献を適宜紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
保育雑誌には遊びのヒントがたくさんあるので、保育実践をする時の参考になる。実践力を上げるには子どもと関わる体験を積極的にすること。　（研究室7402）

01	ガイダンス（目標・予定・係決め）
02	1年後期教職履修カルテの振りかえり
03	子どもの年齢に応じた遊びやおもちゃについて学ぶ
04	簡単な手作りおもちゃの製作
05	子育て支援室の実習のための企画の検討
06	子育て支援室の実習（企画の発表）
07	子育て支援室の実習（親子とのふれあい体験）
08	保育園見学、体験学習の準備
09	保育園見学①
10	保育園見学②
11	手作りおもちゃの製作と実践
12	夏休みの計画（子育て支援センター実習に向けた企画
13	夏休みの計画（子育て支援センター実習に向けた準備）
14	子育て支援センター実習に向けた練習
15	子育て支援実習の振り返りと夏休み課題の確認
16	なし

2018年度シラバス

科目名:総合演習ＩＡ	担当者:勝浦　眞仁	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
学外でのボランティアやミッションを行う。それに向けての準備をゼミ生同士で協力して行い、保育力や専門性の向上を目指す。

授業の到達目標
①各自の保育力の向上を目指す。②共同作業を通して、協調性を身につける。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
学外での活動を数多く行います。そのため、ゼミ生と協力して準備をすることが大切になります。参加、創造、共同を実現していこう。

評価方法
出席態度（２０％）、学外ミッション（４０％）、研究所のパフォーマンス（４０％）で総合的に評価する。

教科書 なし	参考図書 随時紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
遅刻・欠席のときには、必ず連絡すること。思い出に残るゼミにしていきましょう。連絡先：katuura@ohkagakuen-u.ac.jp

01	ガイダンス（ゼミの目標、学外ミッション、自己紹介）
02	教職履修カルテの振り返り
03	教育研究所でのパフォーマンスの計画、製作、研究１
04	教育研究所でのパフォーマンスの計画、製作、研究１ 教育研究所でのパフォーマンスの計画、製作、研究２
05	芸術鑑賞
06	芸術鑑賞
07	学外ミッションについて
08	学外ミッションの準備
09	教育研究所実習と振り返り（１）
10	教育研究所実習と振り返り（２）
11	学外ミッションの実施（１）
12	学外ミッションの実施（２）
13	学外ミッションの振り返り
14	報告発表会の準備
15	ミッション報告発表会
16	なし

科目名:総合演習ＩＡ	担当者:五十嵐　睦美	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須. 選択	必須

授業概要と方法 音楽を中心としたさまざまな表現活動を実践し、保育・教育の専門職に求められる表現力を身につける。特に、音楽づくりや楽器遊び、手作り楽器の製作を通して、子どもの発達特性や環境構成、指導方法に関する知識を深め、子どもの表現を多角的に捉える力を養う。
授業の到達目標 ①さまざまな表現活動を通して自己表現を追究し、自分に合う表現を見つける。②保育・教育の専門職に求められる表現力を身につける。③子どもの発達と表現のかかわりについて知識を深める。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 地域で開かれるイベントや演奏会、ボランティア活動等へ積極的に参加し、新たなものを吸収しながら表現力を高める努力をすること。発表を担当する際は責任を持って事前準備を行い、必要な書類は印刷した上で発表に臨むこと。
評価方法 授業への取り組み（50%）、課題（20%）、発表（30%）

教科書 特になし	参考図書 適宜紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) グループで実施する活動が多いため、積極的に人とかかわりながら柔軟な心で取り組むこと。連絡手段については、授業内で開示する。

01	ガイダンス（自己紹介・ゼミの進め方・役割分担）
02	ゼミ年間計画の立案
03	手遊び・ふれあい遊びを中心とした表現
04	集団遊びを中心とした表現
05	紙コップと紙皿を使った手作り楽器の製作
06	牛乳パックとペットボトルを使った手作り楽器の製作
07	表現活動と教材研究、環境構成
08	楽器や素材とのかかわり方
09	楽器の使用法と奏法
10	環境を通した音楽づくり（1）
11	環境を通した音楽づくり（2）
12	環境を通した音楽づくり（3）
13	表現遊びの提案（1）
14	表現遊びの提案（2）
15	前期のまとめ
16	なし

2018年度シラバス

科目名:総合演習ＩＡ	担当者:寺田　泰人	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法 この授業では、子どもや保育・教育に関する幅広い課題について、現状および実態、原因、解決方法を様々な角度から検討します。また学外実習に向けて、様々な種類の保育技術を身につけることを目的とします。
授業の到達目標 １．保育・教育に関わる様々な課題について認識し、自分の考えを述べることができる。２．実習で役立つ遊びや制作物を調べたり、作ったりすることで、自己の保育技術を高めることができる。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 新聞や書籍などを読む習慣をつけ、保育の時事問題や子どもをとりまく問題に関心を持って情報収集して下さい。
評価方法 ゼミ活動への取り組み状況・授業への参加態度80%、レポート・提出物等20%を総合的に判断する。

教科書	参考図書
適宜、紹介します。適宜、紹介します。	適宜、紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 積極的にボランティア活動や自主実習に参加して下さい。その体験を踏まえて、様々な子どもや保護者、保育者などと接する機会を持つようにして下さい。オフィスアワーは木曜日３・４限。メールアドレス等の連絡先は初回のゼミ時間に伝達する。

01	ガイダンス（1年の目標・活動内容など）
02	自己紹介等相互交流と役割分担
03	保育・教育に関わる課題の検討、進め方の説明
04	保育・教育に関わる課題の検討①
05	保育・教育に関わる課題の検討②
06	芸術鑑賞
07	保育・教育に関わる課題の検討③
08	保育・教育に関わる課題の検討④
09	教職履修カルテ振り返り
10	保育技術向上の取り組み①
11	保育技術向上の取り組み②
12	保育技術向上の取り組み③
13	保育技術向上の取り組み④
14	見学・体験実習の準備
15	総合演習ＩAの振り返り
16	なし

2018年度シラバス

科目名:総合演習ＩＡ	担当者:石山　英明	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法	
授業の到達目標	
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修	
評価方法	
教科書	参考図書
その他(学生へのアドバイス、連絡手段)	

01	
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2018年度シラバス

科目名:総合演習ＩＡ	担当者:嶋守　さやか	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法 総合演習ＩAの学習テーマは、「子どもの遊びと環境整備の理解」です。障がいや発達から子どもを理解し、音楽遊び（ドラムサークル等の音楽活動を体験）、野外遊び、障がい児・者との運動会を企画・実施します。
授業の到達目標 子どもの発達と障がい理解、音楽活動（ドラムサークル体験、実際の障がい児への音楽活動現場を視察）、野外遊び、運動会企画・運営・実施の活動成果をまとめてグループ発表をする。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 活動ごとに活動内容・ふりかえりレポートをゼミノートに作成することを準備学習・事後学習とします。実際に活動に参加し、ゼミノートに各自記した内容をゼミのメンバーで共有することで理解と学びを深めます、前期の学びの成果を、大学祭展示のためのポスター作成を行います（ポスターは大学祭にて展示します）。また、学年全体に課題として示されるレポート作成もします。
評価方法 授業への参加態度50%　グループワーク・グループディスカッションによるプレゼンテーション50%にて評価を行います。

教科書	参考図書
適宜指示します。	適宜指示します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 受講要件として総合演習ＩAの履修対象者は、原則的に１年ゼミ（基礎演習）を修了した者とする。オフィスアワーは金曜日の昼休みとする。shimamori@ohkagakuen-u.ac.jpへのメール連絡も必要に応じて行うこと。

01	1年間の目標・予定・係決め・ゼミの決まり等
02	１年後期の教職履修カルテの振り返り①
03	１年後期の教職履修カルテの振り返り②
04	障がい児・者との遊び①運動会の企画
05	障がい児・者との遊び②運動会の練習
06	障がい児・者との遊び③運動会の実際
07	障がい児・者との遊び④運動会のふりかえりとグループディスカッション
08	芸術鑑賞
09	芸術鑑賞のふりかえりとグループディスカッション
10	子どもと音楽遊び①障がい児とドラムサークルの理解
11	子どもと音楽遊び②障がい児とドラムサークルの準備
12	子どもと音楽遊び③障がい児とドラムサークルの実際
13	子どもと音楽遊び④障がい児とドラムサークルのふりかえりとグループディスカッション
14	総合演習ＩA（前期）のふりかえりとグループディスカッション
15	総合演習ⅡA（前期）の学びのグループプレゼンテーション
16	なし

2018年度シラバス

科目名:総合演習ＩＢ	担当者:小嶋　玲子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
次の項にある授業目標を達成するための授業を行いますが、少人数の演習科目ですから、構成員の学びを全員で共有するように学んでいけるようにしたいです。そのためにグループワークや討論を多用した授業を行い、授業参加者同士が学び合う関係をめざします。

授業の到達目標
総合演習ⅡAに引き続き、保育者基礎スキルとしての対人コミュニケーション力（人の話を聴く、相手に伝わる話ができる。文章が書ける等）、自己理解・他者理解力をつけます。保育者が保育の中で意図してしたかかわりを理解し、それを保護者に伝える力の基礎力を学びます。加えて、総合演習ⅡBでは、保育の様々な分野を知り、3,4年次の卒業研究論文への準備をします。保育分野の論文や書物を読んでそれをまとめる力、それを他者に伝える力をつけます。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
学びを定着させるためには、記録を書くことが有効ですので、授業ごとにレポートを書いていただきます。保育者・教育者は書く仕事が多いですので、書く習慣をつけることで文章力がついていきます。基礎演習で絵本ノートを作ってきた人は、続けていきましょう。保育分野のさまざまな分野を知るためにも、保育・教育に関する書物や論文の多読を薦めます。

評価方法
授業後課題レポート50%　授業への参加度50%

教科書	参考図書
養護と教育が一体となった保育の言語化　全国保育士会	授業時に適宜紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
演習科目の授業は実際に授業参加することが必要条件です。保育者・教育者の仕事はチームワークが必要です。総合演習で取り組む活動に主体的・積極的に参加し、共有体験することを望みます。連絡先は授業時に伝えます。

01	教職履修カルテの振り返り（ボランティア活動等の報告も含む）
02	保育実習の振り返り１
03	保育実習の振り返り２
04	夏休みレポートを使用した発表、意見交換　１
05	夏休みレポートを使用した発表、意見交換　２
06	養護と教育が一体となった保育の言語化の学び　事例５,６　　各人の学びの報告１
07	養護と教育が一体となった保育の言語化の学び　事例７，８　各人の学びの報告2
08	養護と教育が一体となった保育の言語化の学び　事例9,10　各人の学びの報告３
09	学外研修（子育て支援施設・保育所訪問）
10	学外研修（子育て支援施設・保育所訪問）
11	3,4年次の卒論のテーマに向けての発表　１
12	3,4年次の卒論のテーマに向けての発表　２
13	3,4年次の卒論テーマに向けての発表　　３
14	施設実習の振り返り
15	ゼミごとの学び、総合演習ＩＢの振り返り
16	

2018年度シラバス

科目名:総合演習ＩＢ	担当者:藤田　公和	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法	
授業の到達目標	
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修	
評価方法	
教科書	参考図書
その他(学生へのアドバイス、連絡手段)	

01	
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2018年度シラバス

科目名:総合演習ＩＢ	担当者:原田　明美	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法 保育・教育とは何か、子どもの福祉とは何か、保育者の魅力と社会的意義や役割などを多角的に見識を深めるように展開する。主に、グループ討議やグループでのプロジェクト活動を企画運営実践などから学びを深める。これらの活動により、企画力・考察力・発言力・主体性などを培いたい。
授業の到達目標 ゼミのメンバーと協力してプロジェクトを企画・運営・考察・発表する力を養う。保育への問題意識と、常に学ぶ姿勢を身に付け、保育者の資質に近づく。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 適宜示される課題に積極的に取り組み、且つ自信が課題意識を持って、ボランティアや新聞報道などに関心を持つ。自ら興味関心を持つ、遊びや食や生活リズムなどに取り組み、企画運営考察などを試みる。ゼミ内の交流や意見交換を積極的に行い、学びあう人間関係を作っていく
評価方法 授業への取り組み50%、レポート課題50%により、総合的に評価する

教科書 なし	参考図書 授業で随時紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 学び多い授業にするために、他人任せにせず、自ら楽しくなる工夫をしてください。

01	ガイダンス　ゼミ活動の立案（後期）
02	大学祭の準備①
03	大学祭の準備②
04	大学祭の準備③
05	プロジェクト３の立案①
06	プロジェクト３の立案②
07	プロジェクト３の実践
08	プロジェクト３の振り替えりと考察
09	先行文献の研究１
10	先行文献の研究２
11	先行文献の研究３
12	プロジェクト４の立案①
13	プロジェクト４の実践・振り返りと考察
14	学習発表会準備
15	学習発表会
16	3年生卒業研究中間発表会参加

2018年度シラバス

科目名:総合演習ＩＢ	担当者:寺田　恭子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　本授業では、保育・教育に留まらず子育てや福祉に関する幅広い領域において、学生自身が究明したい研究テーマを選ぶ。そのテーマを深く探求していくプロセスを通して、研究の面白さや奥深さを発見することが目的となる。

授業の到達目標
①学生は、研究したい課題を発見し、その課題を掘り下げ究明していく力を身につけることができる。②学生は、研究を通して新たな知見を得ることの面白さや奥深さを感じることができるようになる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
興味を持った内容に関連する分野の論文を読み、わからないことは必ずその場で調べる癖をつけること。

評価方法
授業への参加態度50%、課題50%の総合評価

教科書 なし	参考図書 その都度提示する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
新しいことを知る、新しいことを発見する喜びを得るためには、課題に対して諦めずに取り組み続けること。

01	オリエンテーション
02	2年生前期振り返りと後期の課題について
03	大学祭および幼稚園実習に向けてのゼミ交流
04	大学祭および幼稚園実習の準備
05	研究課題を見つける①
06	研究課題を見つける②
07	研究のテーマ設定および研究方法について①
08	研究のテーマ設定および研究方法について②
09	論文を読もう①
10	論文を読もう②
11	実践研究の実際①
12	実践研究の実際②
13	芸術鑑賞から学ぶ①
14	芸術鑑賞から学ぶ②
15	研究発表とディスカッション①
16	研究発表とディスカッション②　3年生に向けて　研究計画と今後の課題

2018年度シラバス

科目名:総合演習ＩＢ	担当者:淺野　卓司	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法 　保育教材である紙芝居をICTと関連させたにStop Motion Animationに関するプロジェクト型学修を行い、体験・調査を通して問題解決能力の育成を目的とする。小学校図画工作科に繋がる簡易なAnimation教材の開発を行う。
授業の到達目標 ① 保育実践を想定した活動全体の計画の立案と、導入・教材を開発する力を養う。② 保育観察・保育実践を通して学んだことを記録し、ゼミ内において発表する力を養う。③ 感性を働かせ、小学校の題材を見通した保育活動とAnimation教材の開発を行う。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 美術館などへ出掛けて作品鑑賞を行ったり、ワークショップに参加するなどを通して、造形表現の面白さについて深め、題材を展開できるような自主学修を行うようにする。
評価方法 ・欠席・遅刻が半期で5回を超えた場合に受講資格を失うこととする。・学外のワークショップ、ボランティア活動等への参加を、評価の60点分としてカウントする。・ゼミにおける発表、リフレクションは試験と同様に扱い、40点分とする。

教科書	参考図書 小学校学習指導要領解説　図画工作

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 他の学生と協力し、積極的に活動に参加をすること。

01	ガイダンス・活動計画の確認
02	2年前期の教職履修カルテの振り返り
03	子どもの観察記録の発表
04	子どもの観察記録のまとめ
05	Stop Motion Animation作成の手順について（計画）
06	Stop Motion Animation作成の試作
07	Stop Motion Animation作成の発表
08	芸術鑑賞
09	芸術鑑賞
10	Stop Motion Animation作品の改善に関するディスカッション
11	小学校図画工作科のAnimation題材の教材試作
12	小学校図画工作科のAnimation題材の鑑賞活動
13	Stop Motion Animationの試写会
14	Stop Motion Animationを使った保育実践の立案
15	保育実践の展開についての検討（レポート）
16	

2018年度シラバス

科目名:総合演習ＩＢ	担当者:辻岡　和代	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法 １．保育に関する意見交換会（7回）２．研究テーマに関する計画と発表（3回）３．学外実習：食育講座の準備と実習（5回）
授業の到達目標 １．保育・教育の現場で取り組まれる「食育」について自ら学び、ゼミ内において発表することができる。２．食材や衛生管理に配慮しながら食育活動を想定した立案、計画をし、調理を楽しむことができる。３．研究テーマについて意見交換し、自分なりにまとめることができる。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 積極的にワークショップやボランティア活動に参加してください。新聞や書籍などで得た情報をもとに、プレゼンテーションを計画する際には、必ず出典を明らかにし、根拠を示して、ディスカッションする機会を設けて学びを深めてください。
評価方法 実習の振り返り（2回、各10%）レポート課題45%、研究テーマに関するレジュメ25%、平常点10%として評価します。

教科書	参考図書
使用しない	適宜紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) ゼミ活動の際には、調理だけではなく、準備や片づけ、衛生管理に配慮して有意義に活動してください。質問等は、Moodleまたはオフィスアワーで受け付ける。詳細については授業で開示します。

01	教職履修カルテの振り返りと夏休みの活動報告会
02	保育実習Ｉ　振り返り　個別
03	保育実習Ｉ　振り返り　意見交換会
04	夏休みレポートに関する発表、意見交換会　第１,第2,第3グループ
05	夏休みレポートに関する発表、意見交換会　第4,第5,第6グループ
06	資料収集と研究計画
07	各自の研究テーマの決定と意見交換会　第１,第2,第3グループ
08	各自の研究テーマの決定と意見交換会　第4,第5,第6グループ
09	学外実習：食育講座の計画
10	学外実習：食育講座で行う調理実習
11	学外実習：食育講座で行う調理実験
12	学外実習：食育講座の準備
13	学外実習：食育講座
14	施設実習の振り返り
15	総合演習ＩＢ振り返り
16	

2018年度シラバス

科目名:総合演習ＩＢ	担当者:基村　昌代	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　この授業では乳児・幼児の音楽的発達と成長を学びながら、音楽あそびの実践を行います。映像による研究とグループディスカッション、インプロゲームを使用した身体表現ゲーム実践も行い自己表現を豊かにし、人間力を高めます。学修発表会で研究や実践の発表を行ないます。

授業の到達目標
　音楽あそびを行いながら、個々の感性を育てるとともに、音楽表現能力や実践力、集団行動力を養うことを目標とします。乳児・幼児の音楽的発達と成長の理解、インプロゲームを使用して楽しみながら自分の殻を破り、子どもとのコミュニケーション力を更に豊かにすることを目標とします。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　積極的にボランティア活動などを行ない、実践力を養うよう努力して下さい。

評価方法
　レポート提出100点、平常点200点の合計300点を100点に平均して算出する。平常点は半期を通して到達度、学修意欲、出欠状況、授業態度を総合して評価します。

教科書	参考図書
テキストは担当教員が随時提示	幼稚園教育要領解説・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説・保育所保育指針解説書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　現場ですぐに使える「音楽を使用した遊び」を積極的に修得し、協力し合って制作を行ないましょう。

01	ガイダンス（総合演習ＩBの教育の意図について、学外体験学習について）
02	音楽あそびの映像による研究とグループディスカッション１
03	音楽あそびの映像による研究とグループディスカッション２
04	身体表現（インプロを使用したゲーム）１
05	身体表現（インプロを使用したゲーム）２
06	乳児の音楽的成長と発達
07	乳児の音楽あそび１
08	乳児の音楽あそび２
09	幼児の音楽的成長と発達
10	幼児の音楽あそび１
11	幼児の音楽あそび２
12	今期の学びについてレジュメを作成し発表と意見交換１
13	今期の学びについてレジュメを作成し発表と意見交換２
14	今期の学びについてレジュメを作成し発表と意見交換３
15	振り返り、総括
16	

2018年度シラバス

科目名:総合演習ＩＢ	担当者:太田　早津美	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:原則的に１年ゼミ（基礎演習）を終了した者		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法 保育の実践力を高めるために、子どもが興味の持てる手作りおもちゃの考案とそれを利用した遊び方について研究する。身近な材料を利用した手作りおもちゃを使った遊びや指導方法を検討し、実践することで、子どもの生活や実態を把握する。保育所や幼稚園の見学、主体的なボランティア活動につても設定していく。
授業の到達目標 子どもの年齢に応じた遊びや適したおもちゃが理解でき、保育実践に役立てることができる。身近な材料を工夫して保育に役立つおもちゃや教材が作れるようになる。子どもとの交流ができるような企画を主体的に考え、実践力を高める。ゼミ活動を通し、積極性や協調性を養う。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 乳幼児の発達の理解、生活や遊びの実態を知るために、子育て支援センターや保育所等での体験学習やボランティアを積極的に行う。文献等で子どもが興味をもって安心で安全に遊べる教材やおもちゃについて調べ学習をする
評価方法 ゼミ活動への参加姿勢（８０％）、授業内レポート・提出物等（２０％）を総合的に判断する。

教科書	参考図書
幼稚園教育要領	必要に応じ適宜紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 保育雑誌には遊びのヒントがたくさんあるので、保育実践をする時の参考になる。実践力を上げるには子どもと関わる体験を積極的にすること。　（研究室7402）

01	夏休み課題の確認と2年前期教職履修カルテの振り返り
02	保育実習の振り返り
03	夏休み課題のプレゼンテーション
04	保育所実習から得た学びを基にした事例検討
05	事例検討についての発表
06	大学祭準備（手作りおもちゃの製作）
07	大学祭準備（展示発表の準備）
08	手作りおもちゃの製作（お手玉作り）
09	手作りおもちゃの製作と遊びの実践（お手玉作り）
10	冬休み課題の確認
11	オリジナル手作りおもちゃの企画及び制作
12	オリジナル手作りおもちゃの制作
13	1年間のゼミ活動の振り返り
14	3年生卒論中間発表会参加①
15	3年生卒論中間発表会参加②
16	なし

2018年度シラバス

科目名:総合演習ＩＢ	担当者:勝浦　眞仁	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
研究方法を身につける。その目標に向けての準備をゼミ生同士で協力して行い、卒業論文に向けた研究力の向上を目指す。

授業の到達目標
①　心理学的研究方法を身につける②　ゼミ生同士の協力を通して、豊かな人間性を身につける。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
観察やアンケート、インタビューを実施する。友人や家族、知り合いに協力してもらうこと。

評価方法
出席態度（２０％）研究方法（６０％）発表レポート（２０％）で総合的に評価する。

教科書 なし	参考図書 随時紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
遅刻・欠席のときには、必ず連絡すること。思い出に残るゼミにしていきましょう。連絡先：katuura@ohkagakuen-u.ac.jp

01	ガイダンス
02	教職履修カルテの振り返り
03	保育実習の振り返り
04	観察法入門
05	観察してみよう（フィールドワーク）
06	観察結果の発表会
07	インタビュー入門
08	インタビューしてみよう
09	インタビュー結果の発表会
10	アンケート入門
11	アンケートしてみよう
12	アンケート結果の発表会
13	障害児実践ボランティア
14	実験法入門
15	実験結果の発表会
16	なし

2018年度シラバス

科目名:総合演習ＩＢ	担当者:五十嵐　睦美	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
音楽を中心としたさまざまな表現活動を実践し、保育・教育の専門職に求められる表現力を身につける。また、表現に関する事例や文献を基に子どもの発達や環境構成、指導方法について考えを深め、子どもの表現を多角的に捉える力を養う。

授業の到達目標
①保育・教育の専門職に求められる表現力を身につける。②子どもの発達と表現のかかわりについて知識を深める。③卒業研究につながるや表現の関心事項や課題を見つける。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
地域で開かれるイベントや演奏会、ボランティア活動等へ積極的に参加し、新たなものを吸収しながら表現力を高める努力をすること。発表を担当する際は責任を持って事前準備を行い、必要な書類は印刷した上で発表に臨むこと。

評価方法
授業への取り組み（50%）、課題（20%）、発表（30%）

教科書 特になし	参考図書 適宜紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
全体で意見交換をする機会が多いため、積極的に人とかかわりながら柔軟な心で取り組むこと。連絡手段については、授業内で開示する。

01	保育実習の振り返り
02	夏休み課題の発表（1）
03	夏休み課題の発表（2）
04	表現活動の事例検討（1）
05	表現活動の事例検討（2）
06	表現や指導法に関する文献の読み合わせ（1）
07	表現や指導法に関する文献の読み合わせ（2）
08	表現活動に活かす教材・実践研究（1）
09	表現活動に活かす教材・実践研究（2）
10	表現活動に活かす教材・実践研究（3）
11	今後に向けた自己課題の設定
12	自己課題の発表（1）
13	自己課題の発表（2）
14	3年生卒業研究中間発表会への参加（1）
15	3年生卒業研究中間発表会への参加（2）
16	なし

2018年度シラバス

科目名:総合演習ＩＢ	担当者:寺田　泰人	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
この授業では、子どもや保育・教育に関する幅広い課題について、現状および実態、原因、解決方法を様々な角度から検討します。また学外実習に向けて、様々な種類の保育技術を身につけることを目的とします。

授業の到達目標
１．保育・教育に関わる様々な課題について認識し、自分の考えを述べることができる。２．実習で役立つ遊びや制作物を調べたり、作ったりすることで、自己の保育技術を高めることができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
新聞や書籍などを読む習慣をつけ、保育の時事問題や子どもをとりまく問題に関心を持って情報収集して下さい。

評価方法
ゼミ活動への取り組み状況・授業への参加態度80%、レポート・提出物等20%を総合的に判断する。

教科書	参考図書
適宜、紹介します。	適宜、紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
積極的にボランティア活動や自主実習に参加して下さい。その体験を踏まえて、様々な子どもや保護者、保育者などと接する機会を持つようにして下さい。オフィスアワーは木曜日３・４限。メールアドレス等の連絡先は初回のゼミ時間に伝達する。

01	保育実習の振り返り
02	夏休み課題のプレゼンテーション①
03	夏休み課題のプレゼンテーション②
04	芸術鑑賞
05	大学祭の準備
06	大学祭の準備
07	２．３年ゼミの交流
08	教職履修カルテ振り返り
09	芸術鑑賞
10	保育実践の振り返り①
11	保育実践の振り返り②
12	まとめ・ポートフォリオの作成①
13	まとめ・ポートフォリオの作成②
14	3年生卒業研究中間発表会参加
15	3年生卒業研究中間発表会参加
16	なし

2018年度シラバス

科目名:総合演習ＩＢ	担当者:石山　英明	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許・資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法	
授業の到達目標	
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修	
評価方法	
教科書	参考図書
その他(学生へのアドバイス、連絡手段)	

01	
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2018年度シラバス

科目名:総合演習ＩＢ	担当者:嶋守　さやか	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法 総合演習ＩA（前期）の活動についてのふりかえりをグループディスカッション等で十分に行い、学修成果発表のためのポスターを作成する。保育実習・施設実習の事後学習として、絵本ブック・手遊びブックを作成する。子どもと野外遊びの海外の教育プログラムについて理解する。
授業の到達目標 総合演習ＩA（前期）の活動についてのふりかえりをグループディスカッション等で十分に行い、学修成果発表のためのポスターを大学祭で展示する。子どもと野外遊びの海外の教育プログラムを実践する。保育実習・施設実習の事後学習として、絵本ブック・手遊びブックを作成する。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 総合演習ＩA（前期）の活動についてのふりかえりをグループディスカッション等で十分に行い、学修成果発表のためのポスター作成に積極的に協力・参加をしてください。また、子どもと野外遊びをするための準備・ふりかえりも十分に行いましょう。日頃からてあそびのレパートリーを増やし、絵本を精読しましょう。
評価方法 授業への参加態度30%　グループワーク・グループディスカッションによるプレゼンテーション40%　絵本ブック・手遊びブックの作成30%にて評価を行います。

教科書	参考図書
適宜指示する。	適宜指示する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 受講要件として総合演習ＩBの履修対象者は、原則的に総合演習ＩAを修了した者とする。オフィスアワーは金曜日の昼休みとする。shimamori@ohkagakuen-u.ac.jpへのメール連絡も必要に応じて行うこと。

01	総合演習Ｉ（後期）の目標・予定の確認
02	２年前期の教職履修カルテの振り返り
03	ゼミ活動報告ポスター展示制作①グループディスカッション
04	ゼミ活動報告ポスター展示制作②作成
05	ゼミ活動報告ポスター展示制作③ふりかえり
06	子どもと野外遊び①準備
07	子どもと野外遊び②実践
08	手遊びブックの制作①作成
09	手遊びブックの制作②発表
10	絵本ブックの制作①作成
11	絵本ブックの制作②発表
12	芸術鑑賞
13	芸術鑑賞ｎふりかえり
14	卒業研究中間発表から学ぶ①
15	卒業研究中間発表から学ぶ②
16	なし

2018年度シラバス

科目名:発達心理学Ⅰ	担当者:堀　由里	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法 人間が一生涯発達し続けることを見通しながら、現代の子どもの姿を様々な実験・観察データをもとに考えていく。特に変化の大きな乳幼児期の発達に目を向け、保育者として子どもに関わる際に必要な発達に関する基礎的事項についても心理学的視点から学ぶ。授業方法はスライドを使用し一斉授業を行う。
授業の到達目標 1）子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得することができる。2）発達初期の教育や保育における援助の基本となる子どもへの理解を深めることができる。3）生涯発達の観点から発達のプロセスや初期経験の重要性について理解することができる。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 準備学修：　これまでの自分の人生や家族を振り返り、何故このような行動をするのか？という疑問をたくさん書き出してみましょう。事後学修：配布プリントを自分なりにまとめ直す。
評価方法 授業への取り組み（30%）、授業内の確認テスト（70%）

教科書	参考図書
適宜、資料配布	授業中に指示する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 常に疑問を持ちながら受講し、保育や教育にどのように活かせるのかを考え続けましょう。オフィス・アワーや連絡手段については授業内で伝えます。

01	生涯にわたって発達を理解することの意味
02	発達の諸理論と発達の研究方法を学ぶ
03	乳幼児期：愛着や社会性の発達
04	乳幼児期：身体・運動、言語・認知発達
05	児童期：認知発達、動機づけ
06	児童期：親子関係、きょうだい関係、友人関係
07	青年期：性役割、ジェンダー発達
08	青年期：アイデンティティの発達
09	発達の遅れや偏り
10	成人期：自己や他者のパーソナリティ
11	成人期：恋愛・結婚
12	成人期：職業意識・ストレス
13	中年期：子育て、子どもの巣立ちへの適応
14	老年期：老化に対する適応、死を迎えること
15	授業内容の確認
16	なし

科目名:社会福祉Ⅰ	担当者:古畑　淳	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　わが国の社会福祉は近年、少子高齢社会の進展、家族形態の変容、都市化・過疎化など地域課題の発生、雇用や経済の格差が広がる中で、ますます重要性が増している。講義ではそのような社会福祉について、①現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷、②社会福祉の制度と実施体系、③社会福祉における相談援助、④社会福祉サービスの利用の仕組みと利用者保護の仕組み、⑤社会福祉の動向と課題の５つについて学習する。　授業は、担当者作成のレジュメに基づき進める。授業内容により、グループワークとグループ発表の方法を取り入れる。

授業の到達目標
　①社会福祉の意義と歴史的変遷、②社会福祉の制度と実施体系、③社会福祉における相談援助、④社会福祉サービスの利用の仕組みと利用者保護の仕組み、⑤社会福祉の動向と課題、について理解する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　配布したレジュメ（学習資料）をよく読んで、知識の定着を図ること。　単元の終わりに、ポイント確認と称するプリントを配布する。問題形式でポイント確認を行うものである。受講者は次の授業までにこのプリントに取り組むことが求められる。

評価方法
　定期試験（85%）、授業態度（15%）で評価する。

教科書	参考図書
担当者作成のレジュメ・資料（各種統計資料、新聞記事、自治体広報記事等）を用いて授業を行う。	保育所保育指針および幼保連携型認定こども園教育・保育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　社会福祉の現状を知るために、日頃からニュース・新聞などの報道に注意すること。新聞などの切り抜き（スクラップ）を作ることを勧めます。　質問等のある学生は、オフィスアワーの時間に訪ねてください。

01	最近の社会福祉の話題
02	社会保障、社会福祉の理念と概念
03	憲法が保障する生存の権利について
04	社会保障、社会福祉の歴史
05	社会福祉の理念の変化と「社会福祉基礎構造改革」
06	社会福祉基礎構造改革とは何か～措置から契約へ～が意味するもの
07	社会福祉の制度と法体系
08	社会福祉制度の実施体制
09	社会福祉の専門職及び地域の協力者（民生委員制度）
10	社会福祉における相談援助
11	社会福祉サービスの提供主体
12	社会福祉法人制度について
13	社会福祉サービス利用者の権利と権利擁護
14	社会福祉の財政と利用者負担
15	社会福祉の課題と展望
16	定期試験

2018年度シラバス

科目名:教育原理	担当者:金子　晃之	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　教育・学校の理念を理解する為、毎回、記入式のプリント、参考資料を配布し講義を行う。映像を用いて説明し映像を用いた事例検討を行う。また、受講者がグループ学習で意見交換した後、自分の考えたことを配布プリントに書き込みプレゼンテーションする作業を行う（全5回）。また小テストを行う（全2回）。

授業の到達目標
　この授業の目標は、①家族・社会を含めた教育・学校の歴史・思想・理論について知識を身に付けること、②近代の教育・学校の理念・目的・営みが、どのようなものとして出現し展開してきたのか、そこにおける課題は何かについて理解することにある。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　毎回指示するが、基本的に、次回の資料やプリントをあらかじめ配布する際は、次回までに与えられた課題について学習しておくこと。授業後は、配布資料や書き込んだプリントを読み直し、ポイントを振り返りながら、内容の理解を深めておくこと。

評価方法
　受講態度（20点）、授業時の小テスト（10点）、期末の筆記試験（70点）を合計して100点満点で評価する。

教科書	参考図書
毎回、資料とプリントを配布する。	「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」、「小学校学習指導要領」

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　オフィスアワー　月昼休み　研究室

01	人間形成とアタッチメント
02	明治期以前の家族・学校・社会と人間形成
03	明治期の家族・学校・社会と教育①　近代教育制度の歴史・理論
04	明治期の家族・学校・社会と教育②　幼稚園・保育所の歴史・思想
05	大正期の家族・学校・社会と教育①　新教育運動と日本型学校文化の歴史・思想
06	大正期の家族・学校・社会と教育②　幼稚園の歴史・思想と教育家族
07	昭和期の家族・学校・社会と教育①　軍国主義下の教育の歴史・理論
08	昭和期の家族・学校・社会と教育②　戦後教育の歴史・理論
09	昭和期の家族・学校・社会と教育③　詰込み型教育の歴史・理論
10	昭和期の家族・学校・社会と教育④　ゆとり型教育への転換
11	平成期の家族・学校・社会と教育　　学力観の転換
12	欧米近代の家族・学校・社会と教育①　宗教改革と子ども観の転換
13	欧米近代の家族・学校・社会と教育②　家庭教育と学校教育の思想
14	欧米近代の家族・学校・社会と教育③　新教育運動の学校と思想
15	近代の学校と教育の特性と課題について
16	学期末試験

2018年度シラバス

科目名:保育原理	担当者:原田　明美	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須. 選択	必須

授業概要と方法
保育とは何かを自分の体験を通して、及び学びを通して深めます。そして保育はどのようにして始まり、どのようにして現在に至っているか、歴史も振り返りながら学びます。また自分自身の保育観・こども観を振り返りながら保育観を深めます。具体的な子どものイメージが出来るように、実践例を出しながら進めます。

授業の到達目標
・保育の意義及び目的について理解する・保育に関する法令及び制度を理解する・子どもの最善の利益を学び、保育の現状と課題を学ぶ中で、保育とは何か、保育とはどうあるべきかを深める。・保育所保育指針等保育の基本について理解する
・保育の思想と歴史的変遷・保育の現状と課題について理解する

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
・ボランティア経験や街の中の子どもの様子を観察してください。・自分で考える、考えたことを記録する習慣を身に着けてください.・主体的な参加と積極的な発言や質問を期待します。

評価方法
・授業態度20%＋小レポート30%＋確認テスト50%

教科書 無し	参考図書 保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領・授業でその都度紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業などで連絡する

01	保育とは何かを考える・・保育の理念と概念について学ぶ
02	子どもの権利条約と最善の利益と保育について学ぶ
03	保育の社会的役割と責任について学ぶ
04	子ども家庭福祉の法体系における保育の位置づけと関係法令を学ぶ
05	子ども・子育て支援制度、保育の実施体系、及び昨今の義務教育化や保育無償化について学ぶ
06	保育所保育指針における保育の基本を学ぶ
07	保育の目標と方法・内容・環境を学ぶ
08	保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）と循環を学ぶ
09	保育の思想と歴史Ⅰ（ルソー１）を学ぶ（ルソーの考え方・エミール乳幼児期）
10	保育の思想と歴史Ⅱ（ルソー２）を学ぶ（エミール児童期）
11	保育の思想と歴史Ⅲ（ペスタロッチ・フレーベル・デューイ）を学ぶ
12	保育の思想と歴史Ⅳ（倉橋惣三）を学ぶ
13	保育の思想と歴史Ⅴ（戦後）を学ぶ
14	保育の環境：再度保育とは何かを深める
15	まとめ　確認テスト
16	

科目名:保育内容指導法「生活と健康」	担当者:寺田　泰人	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期･後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
幼稚園教育要領の領域「健康」のねらいと内容及び内容の取扱いについて理解し、健康な心とからだを育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うために必要な知識・技術を身に付ける。特に、乳幼児期の健康に関わる生活習慣や心身の発育・発達、運動発達の特徴の理解を深め、適切な指導方法を身に付ける。

授業の到達目標
（１）幼児期の健康課題と健康の発達的意味を理解する。（２）幼児期のからだの諸機能の発達と生活習慣の形成を理解する。（３）安全な生活と怪我や病気の予防を理解し、適切な指導方法を身に付ける。（４）幼児期の運動発達の特徴と意義を理解し、適切な指導方法を身に付ける。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　子どもの保健Iで覚えるべき知識を確実なものとするため、授業外での復習を行って下さい。子どもを取り巻く社会状況に関する情報には常に関心を持って下さい。

評価方法
①授業への取り組みに対する意欲や態度（30%)、②指導計画の立案、模擬保育の実践（30%)、③小テストを含む講義内容に関する筆記試験（40%)

教科書	参考図書 幼稚園教育要領及び解説、保育所保育指針及び解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び解説

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡手段は授業時に案内します

01	保育における「健康」とは
02	基本的生活習慣の形成を支える援助 食事、排池、着脱衣、清潔の習慣形成を支える環境構成と援助
03	健康管理と安全能力を育む援助　健康指導、交通安全や避難訓練等の指導と安全能力を育む援助
04	健康な心とからだを育む保育の構想（計画立案1)
05	健康な心とからだを育む保育の構想（教材研究1)
06	健康な心とからだを育む保育の実践（模擬保育1)
07	健康な心とからだを育む保育の評価と改善1
08	多様な動きの経験を促す援助　発達発育と運動遊び
09	多様な動きの経験を促す援助　　遊びの意義、あそび論、遊びを触発する環境
10	健康な心とからだを育む保育の構想（計画立案2)　運動遊びを中心とした具体的な保育場面を想定した指導
11	健康な心とからだを育む保育の構想（教材研究2）―運動遊び指導の実際
12	健康な心とからだを育む保育の実践（模擬保育2)　幼児の動機付けや意欲などを配慮した遊びとしての運動指導の在り方
13	健康な心とからだを育む保育の評価と改善2―幼児理解と保育の視点を基盤とした評価
14	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と小学校教科とのつながり
15	領域「健康」をめぐる現代的課題と保育実践幼児を取り巻く課題
16	まとめ

2018年度シラバス

科目名:保育内容指導法「生活と言葉」	担当者:加藤　信子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期･後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須. 選択	選択

授業概要と方法
・幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「言葉」のねらいと内　容を理解する・乳幼児の言葉の発達過程、子どもの言葉の育ちを支える環境や保育者の役割について学ぶ・毎回、グループワークまたは紙芝居を読む等の実践演習を行い、互いに発表したり演じながら学ぶ

授業の到達目標
・領域「言葉」について、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に沿って基　礎的な知識を身につける・絵本や紙芝居などの指導法を実践的に学ぶ

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
・乳幼児の姿（様子）に目を向けたり言葉に耳を傾けたりして子どもの会話を聞き記録する・絵本・紙芝居等に興味関心を持つ・準備学修としては、教科書を必ず読んでくる。グループ発表で意見を言えるように調べ、まとめてくる・事後学修としては、グループ発表から学んだことをレポートにまとめ提出する

評価方法
　確認テスト（50%）　授業への参加態度（20%）　実践発表と提出物（30%）

教科書	参考図書
実践　保育内容シリーズ４　谷田貝公昭他　一藝社	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
日ごろから、子どもの姿（様子）に目を向けたり言葉に耳を傾けたりして子どもを知り、理解する努力をしてください。

01	オリエンテーション　授業の概要と授業計画
02	領域「言葉」のねらい　＜演習＞日本の昔話
03	子どもにとっての「言葉」
04	領域「言葉」と小学校「国語」との関連　＜演習＞外国の昔話
05	前言語期のコミュニケーション
06	話し言葉の発達　　＜演習＞素話
07	書き言葉の発達　　＜演習＞お話つくり
08	言葉を豊かにする保育環境
09	養育者との関わりから育つ言葉　　＜演習＞紙芝居を読む
10	子どもどうしのかかわりから育つ言葉　　＜演習＞紙芝居を読む
11	子どもにとっての児童文化とさまざまな児童文化財　＜演習＞紙芝居を読む
12	言葉を豊かにする言葉遊び
13	母語が日本語ではない子どもの言葉　＜演習＞日本の行事について
14	現代における言葉の諸問題
15	領域「言葉」まとめ
16	

2018年度シラバス

科目名:保育内容指導法「生活と認識」	担当者:原田　明美	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期･後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須. 選択	選択

授業概要と方法
現代の子どもを取り巻く環境や、乳幼児と環境との関わりについての専門的事項を踏まえ、幼稚園教育要領に示された領域「環境」のねらい及び内容について理解を深め、保育の構想、指導方法を学びます。環境との関わり、遊びの体験の中で子どもの認識や理解がどのように深まるかを学び、保育者がどのように指導をするのかを学びます

授業の到達目標
幼稚園教育要領・保育所保育指針の基本を踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容を理解する。特に乳幼児の認識についての学びを深め、環境に好奇心や探求心を持って主体的に関わり、それを生活に取り入れて関われるように、具体的な指導案を作成し、保育構想力を身に付ける。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
子どもの遊びに興味を持ち、自分の経験や子どもとの関わりの中で遊びの楽しさを味わってほしい。遊びをもっと楽しくする工夫やアレンジ力を身に付けてほしい。子どもの遊ぶ様子を観察して、どんな遊びをどんなふうに楽しんでいるのか観察してほしい。草花や昆虫、栽培などにも興味を持ってほしい

評価方法
毎回のレポート20%　授業態度20%、確認テスト６０％

教科書 無し	参考図書 幼稚園教育要領・保育所保育指針

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

01	乳幼児の保育・教育の基本と保育内容「環境」のねらい、内容について
02	乳幼児の育つ環境について学ぶ
03	乳児期の認識の発達について学ぶ
04	幼児期の認識の発達について学ぶ
05	ごっこ遊びと子どもの発達
06	草花遊びと子どもの発達
07	構成遊びと子どもの発達
08	乳幼児期にふさわしい環境と環境構成の実際（室内活動）
09	乳幼児期にふさわしい環境と環境構成の実際（室外活動）
10	標識・文字などに関わる保育の実際
11	数量などに関わる保育の実際
12	図形などに関わる保育の実際
13	早期教育について考える
14	意欲・主体性・好奇心・探求心と保育の関わり・保育者の関わり
15	幼児期の認識の発達と遊びの関わりのまとめ・確認テスト
16	

2018年度シラバス

科目名:国語	担当者:森川　拓也	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・小学校教諭1種・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法 教育・保育の実践者としての基本的な国語力と言語表現力を養うために、国語科は「言葉の学習」としての教科であるということの理解を深め、「言葉による見方・考え方」「言葉の習得と発達」を導く学習の意義を学びます。講義形態ですが、グループワーク・実習・発表などの活動を積極的に取り入れます。
授業の到達目標 具体的な教材を使った学びから「国語のめざすもの」「言葉による見方・考え方」「言葉の習得と発達」について理解し、実践につながる見識をもつ。言葉を使って「話す」「聞く」「書く」「考える」という基本的な力を身につける。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 準備学修として、教材を読んでおくこと、課題を考えておくことなどが必要となります。また参考文献を読んでおく課題を出す場合もあります。
評価方法 授業に参加する姿勢・活動（20%）　レポート・課題・提出物・発表（40%）　筆記試験（40%）以上を総合して評価します。

教科書	参考図書
小学校学習指導要領及び解説（国語）　幼稚園教育要領及び解説　プリント（各回配付）	保育所保育指針及び解説　幼保連携型認定こども園教育・保育要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 国語辞典が必要です。（電子辞書も可）　各回に配付する資料は失くさないようにしてください。連絡先（メール）t-morikawa@ohkagakuen-u.ac.jp

01	オリエンテーション　国語科は「言葉の学習である」ということの理解
02	言葉の習得と発達についての理解
03	学習指導要領「国語」から見えることの理解
04	「言葉による見方・考え方について」の理解と実習①（低学年文学教材）
05	「言葉による見方・考え方について」の理解と実習②（中学年文学教材）
06	「言葉による見方・考え方について」の理解と実習③（高学年文学教材）
07	「言葉による見方・考え方について」の理解と実習④（説明文教材）
08	文学を読むことと情報を読むことについての理解
09	日本語文法の基礎と表現の理解
10	漢字の基礎と学習方法の理解
11	言葉を使って「書く」ということの理解と実習
12	言葉を使って「話す・聞く」の理解と実習
13	言葉とイメージの関係の理解と実習
14	幼保における「言葉」から小学校「国語」への接続についての理解
15	まとめ
16	筆記試験

2018年度シラバス

科目名:社会	担当者:嶋守　さやか	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許・資格:小学校1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法 小学校社会科の目標や理念を理解し、具体的内容にも触れる教材研究を行う。授業は講義を中心にするが、受講生自らが学習指導要領にしたがい、具体的な授業方法も体験する。
授業の到達目標 社会科を暗記科目ではなく、子どもたちが興味を持ち、調べ考える力を身につけるアクティブラーニングを実践する科目として理解する。また、子どもたちが人間としての生きる力を養う教科として理解することを目標とする。
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修 学習指導要領についての理解を深め、具体的な授業展開についてのレポートやグループ発表・グループディスカッション成果のポスター制作を行う。
評価方法 評価は、確認テストの成績50%、グループワーク・プレゼンテーションの評価50%にて行います。

教科書	参考図書
小学校学習指導要領解説編　社会科	適宜、指示します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 身の回りの社会的事象に常に関心を抱けるように、各種新聞に目を通す習慣をつけることを勧めます。オフィスアワーは金曜日のお昼休みとします。

01	社会科の目指すもの：授業オリエンテーション 社会科の目指すもの：授業オリエンテーション
02	小学校学習指導要領を読む
03	３年生の社会科①教科書研究
04	３年生の社会科②指導計画の作成
05	３年生の社会科③模擬授業
06	４年生の社会科①教科書研究
07	４年生の社会科②指導計画の作成
08	４年生の社会科③模擬授業
09	５年生の社会科①教科書研究
10	５年生の社会科②指導計画の作成
11	５年生の社会科③模擬授業
12	６年生の社会科①教科書研究
13	６年生の社会科②指導計画の作成
14	６年生の社会科③模擬授業
15	確認テストおよび解説
16	なし

科目名:音楽ＩＡ	担当者:五十嵐睦美、田辺美砂子、竹内理恵、早瀬順子、渡部真理、加藤希央、森野直子、村瀬啓子、佐藤恭子、手嶋麻利、古賀弘之	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・小学校教諭1種・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　90分授業のうち、45分は音楽基礎理論（楽典・ソルフェージュ・コード）、45分はピアノ奏法及び幼児歌曲の弾き歌いを学ぶ。子どもの音楽的成長と発達を踏まえた上で、個々の学生の能力に沿った指導を行う。オンライン上での譜読課題を宿題として課す。

授業の到達目標
　ピアノ奏法及び幼児歌曲の弾き歌いの基礎的な知識と技能、音楽基礎理論（楽典・ソルフェージュ・コード）の知識の習得を目標とする。ピアノ演奏の初心者は、バイエル60番程度と、同程度までの楽曲、既修者は更に上のレベルを目指す。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　毎日少しの時間でもピアノに触れ、歌うことが上達への近道です。

評価方法
ピアノ実技試験(50%)、実技担当教員の評価による平常点(20%)、音楽理論(20%)、譜読課題(10%)で評価する。平常点は、実技担当教員が、学習意欲、目標到達度、積極性を評価するものである。ピアノ実技試験は、複数の教員が個々の演奏を評価する。

教科書	参考図書
標準バイエル教則本（全音楽譜出版社）、ピアノキャンバス（ドレミ楽譜出版社）	幼稚園教育要領解説・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説・保育所保育指針解説書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

01	クラス分け／レッスン1
02	レッスン 1／楽譜の意味、音符ドリル
03	レッスン 2／音名と階名、ソルフェージュ
04	レッスン 3／音の幅、弾き歌い
05	レッスン 4／音符の長さ、音符ドリル
06	レッスン 5／リズムと拍子、ソルフェージュ
07	レッスン 6／音階と調、弾き歌い
08	レッスン 7／5度圏、小テスト
09	レッスン 8／近親調、音符ドリル
10	レッスン 9／さまざまな調号、ソルフェージュ
11	レッスン10／さまざまな記号、弾き歌い
12	レッスン11／楽語、音符ドリル
13	レッスン12／音程1、ソルフェージュ
14	レッスン13／音程2、弾き歌い
15	ピアノ実技試験／前期の復習（理論）
16	試験とまとめ（音楽理論）

科目名:音楽ＩＢ	担当者:基村昌代 、竹内理恵、谷田育代、野々山雅子、玉護眞理子、高橋理恵、赤松みどり、森野直子、鬼頭愛	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・小学校教諭1種・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　幼児音楽ＩAの内容を受け、引き続き子どものための音楽活動に関する基礎技術を学ぶ。90分授業のうち、45分は音楽基礎理論（楽典・ソルフェージュ・コード）、45分はピアノ奏法及び幼児歌曲の弾き歌いを学ぶ。子どもの音楽的成長と発達を踏まえた上で、個々の学生の能力に沿った指導を行う。オンライン上での譜読課題を宿題として課す。

授業の到達目標
　ピアノ奏法及び幼児歌曲の弾き歌いの基礎的な知識と技能、音楽基礎理論（楽典・ソルフェージュ・コード）の知識の習得を目標とする。ピアノ演奏の初心者は、バイエル100番程度と、同程度までの楽曲、既修者は更に上のレベルを目指す。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
毎日少しの時間でもピアノに触れ、歌うことが上達への近道です。

評価方法
　ピアノ実技試験(50%)、実技担当教員の評価による平常点(20%)、音楽理論(20%)、譜読課題(10%)で評価する。平常点は、実技担当教員が、学習意欲、目標到達度、積極性を評価するものである。ピアノ実技試験は、複数の教員が個々の演奏を評価する。

教科書	参考図書
標準バイエル教則本（全音楽譜出版社）、ピアノキャンバス（ドレミ楽譜出版社）	幼稚園教育要領解説・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説・保育所保育指針解説書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

01	ガイダンス／レッスン1
02	レッスン 2／音程の種類、音符・音程ドリル
03	レッスン 3／音程の判定方法、ソルフェージュ
04	レッスン 4／長短系音程、弾き歌い
05	レッスン 5／完全系音程、音符・音程ドリル
06	レッスン 6／音程（派生音）、ソルフェージュ
07	レッスン 7／音程のまとめ、弾き歌い
08	レッスン 8／コードとコードネーム
09	レッスン　9／コードネームのルール
10	レッスン 10／メジャー・マイナーコード
11	レッスン11／コードの転回形、セブンスコード
12	レッスン12／器楽合奏（コードの活用）
13	レッスン13／身体表現と音楽
14	レッスン14／身体表現と音楽2
15	後期の復習（理論）
16	試験とまとめ（音楽理論）

2018年度シラバス

科目名:児童文化	担当者:浦中　浩一	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種・保育士資格		開講時期	前期･後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
保育に活用できる言葉・技術等に関する知識や技術を学ぶ。（1）子どもの発達と絵本、紙芝居、パネルシアター、紙皿シアター、言葉あそび等に関する知識と技術を学ぶ（2）子どもが児童文化に親しむ保育環境、（3）子どもの経験や様々な表現活動と児童文化を結びつける遊びの展開、についての知識と技術を習得する。

授業の到達目標
様々な児童文化教材の特性を理解し、実際に教材作りを行い、子どもの遊びやイメージを豊かにし感性を養う環境構成や保育の展開方法を学ぶ。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修として授業で使用する絵本、教材などについて事前に調べ教材について理解を深める。また、事後学修として授業で製作した教材等を実際に使用し保育の展開方法、環境構成を学ぶ。

評価方法
　授業への参加態度40%　数回のミニレポート・製作物提出20%　シアター等の発表20%　　確認テスト20%（製作物　授業内で製作するもの　パネルシアター、紙皿シアター等）

教科書	参考図書
保育園・幼稚園で２歳からたのしい忍者あそびがいっぱい 著浦中こういち　かもがわ出版	幼稚園教育要領解説・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説　保育所保育指針解説書授業中に適宜資料を配付する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
グループでの製作活動等を行います。意欲的に取り組んでほしい。

01	子どもの発達と言葉あそびの特性と理解（演じ・実技）
02	保育に生かす年齢にふさわしいあそび　（演じ）
03	子どもの発達と絵本の特製・理解（絵本の選び方）指定された絵本の準備等をおこなう。
04	子どもの発達とパネルシアターの特製・理解　年齢にふさわしいパネルシアターの選び方
05	パネルシアター製作　（教材作り　色の塗り方等）
06	パネルシアター製作　（教材作り　仕掛けの使い方、作り方等）
07	パネルシアター製作　（演じ方）
08	パネルシアターを使っての保育の展開を学ぶ
09	絵本を使っての保育展開を学ぶ（演習）指定された絵本等の準備を行う。
10	様々なシアターを使って保育展開を学ぶ
11	紙皿シアター製作　（教材作り　製作の仕方、テキストの作り方等）
12	紙皿シアターを使っての保育の展開を学ぶ（演習）
13	乳児保育に生かせる言葉遊び（演習・実技）
14	幼児保育に生かせる言葉遊び（製作・演習）
15	学習の総まとめ
16	定期試験は実施しない。

2018年度シラバス

科目名:図画工作A	担当者:田端　智美	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・小学校教諭1種・保育士資格		開講時期	前期･後期
		配当学年	1
受講者制限:なし		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
乳幼児・児童の造形表現活動を援助するために必要な造形の基礎知識・技能の育成を行う。特に平面領域（絵画等）の授業を行う。ポップアップカードや絵本を制作することにより、保育者・教師に必要な表現力を身につける。

授業の到達目標
①乳幼児の表現活動や小学校の図画工作の単元で用いる素材・道具を用いながら、描いたり作ったりして楽しむことができる。②描画や造形の素材の特性を理解し、素材を基本的な扱いや加工するために必要な道具を安全に使うことができる。③制作の過程を大切にし、自分の作品を振り返ったり、他の学生の作品の良さに気づいたりすることができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業に必要な材料の収集や道具の準備、作品管理を行う。作品をファイリングし、制作の過程や振り返りについてまとめる。授業内で作品が完成できなかった場合は、事後学修として次回の授業までに完成させる。

評価方法
受講態度20％・作品評価60％・レポート20％に対する評価点を算出し、成績とする。

教科書	参考図書
『3・4・5歳児の造形活動おまかせガイド』	幼稚園教育要領、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領、小学校学習指導要領、保育所保育指針

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
半期の欠席回数が6回未満とする。授業開始10分以上の遅刻は2回で欠席１回としてカウントする。レポートの提出、授業への質問・応答はムードルでも行う。連絡先tabata@ohkagakuen-u.ac.jp

01	オリエンテーション・授業の受け方・絵本における造形技法の紹介
02	平面演習１（ドリッピング・バチックなど）
03	平面演習２（マーブリング・染紙など）
04	平面演習３（共同制作・スタンピングなど）
05	平面演習４　（紙版画）
06	ポップアップカードの制作１(とびだす仕組みを学ぶ)
07	ポップアップカードの制作２・提出
08	絵本制作１（アイディアスケッチ）
09	絵本制作２（ストーリー展開）
10	絵本制作３（表紙画作成）
11	絵本制作４（絵本頁1.2制作）
12	絵本制作５（絵本頁3.4制作）
13	絵本制作６（絵本頁5.6制作）
14	絵本制作７（製本）・提出
15	作品発表・鑑賞・講評
16	作品返却

2018年度シラバス

科目名:図画工作Ｂ	担当者:淺野　卓司,梅本　洋子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・小学校教諭1種・保育士資格		開講時期	前期･後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
造形活動に対する興味や関心を高め、乳幼児から児童を対象とする造形表現を指導・援助する者が必要とする基礎的知識・技能・作品分析力を実際の材料を用いた活動に関わることで身につける。

授業の到達目標
①素材の性質について体験的に理解を深め、それらを生かした表現方法を身につける。②素材を加工するために必要な道具を適切に選択して、安全に使うことができる。③製作過程において、自分の作品や他の学生の作品の良さを分析的に捉えることができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
・材料の収集や道具の準備を行い、表現活動のイメージを広げるための動画（DVD）を視聴しておく。

評価方法
・欠席・遅刻が半期で5回を超えた場合に受講資格を失うこととする。・製作活動に臨む態度（事前学習、授業態度）を、評価の40点分としてカウントする。・製作における構想力、表現技術、作品分析に関する試験は60点分とする。

教科書	参考図書
『DVDでわかる！乳幼児の造形』サクラクレパス出版幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・単位認定の条件は、半期の欠席回数が6回未満であることとする。授業開始から10分以上の遅刻は、2回で欠席１回としてカウントする。・レポートの提出、授業に関する質問・応答はMoodleで行う。・製作のイメージを広げるために適宜、授業でパソコンを用いる。・オフィスアワーは金曜日昼休み、メール連絡は、asano-t@ohkagakuen-u.ac.jpまで。

01	土粘土の研究　粘土活動の基礎知識
02	土粘土の研究　植木鉢をつくる（紐作りで粘土を積んでみよう）
03	土粘土の研究　植木鉢をつくる（どべを使って粘土を繋ごう）
04	土粘土の研究　ランプシェードをつくる（板づくりで土台を作ってみよう）
05	土粘土の研究　ランプシェードをつくる（型抜きを活用してみよう）
06	クリーム粘土に挑戦　パフェをつくる（液体紙粘土の表現方法を学ぼう）
07	クリーム粘土に挑戦　パフェをつくる（紙粘土と他の素材を活用した表現に挑戦しよう）
08	クリーム粘土に挑戦　ケーキをつくる（みんなで大きなケーキをつくろう）
09	光の折り紙　トランスパレント紙でつくる（トランスパレント紙の基礎的な扱い方を学ぼう）
10	光の折り紙　トランスパレント紙でつくる（折る・切る・ちぎるなどの表現を使って作ろう）
11	光の折り紙　鑑賞会
12	簡単なおもちゃ製作（牛乳パック・箱をつかったおもちゃ製作をしてみよう）
13	簡単なおもちゃ製作（しかけのあるおもちゃを作ってみよう）
14	小学校図画工作への接続　色水をつかって
15	小学校図画工作への接続　新聞紙を使って　体全体を使った造形活動
16	試験

2018年度シラバス

科目名:子どもの保健ＩＡ	担当者:木村 達志	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
子どもの保健Ⅰ では、子どもの健やかな成長や発達、病気の特徴や予防法などを学びます。この講義では子ども達の健全な成長を支援するため、「子どもの保健」の意義を理解し、発育（月齢や年齢）にともない変化する身体的な特徴、生理機能、運動機能や精神機能（社会性）の発達について学びます。

授業の到達目標
1.子どもの保健の意義を説明できる。2.子どもの身体発育の特徴について説明できる。3.子どもの「生理機能」「運動機能」の発達について説明できる。4.子どもの「認知機能」「人格形成（社会性の獲得）」について説明できる。5.子どもの栄養：乳児期～幼児期の栄養の特性と注意点が列挙できる。6.子どもの事故とその防止について説明できる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　子どもの保健Iで覚えるべき知識を確実なものとするため、授業外での復習を行って下さい。子どもを取り巻く社会状況に関する情報には常に関心を持って下さい。

評価方法
授業への取組40%、小テストを含む講義内容に関する筆記試験60%

教科書	参考図書
子どもの保健 第7版 巷野悟郎（編） 診断と治療社	幼稚園教育要領及び解説、保育所保育指針及び解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び解説

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡手段は授業時に案内します授業時に案内します

01	ガイダンス　子どもの保健の現状、保健水準
02	行政が実施している母子保健活動
03	発育と発達の評価　成長曲線、統計用語の理解
04	生理機能の発達① 呼吸と循環
05	生理機能の発達② 体温調節・感覚機能・睡眠
06	生理機能の発達③ 消化・吸収・排泄
07	運動機能の発達、スキャモンの臓器別発育曲線
08	精神機能の発達、認知機能
09	精神機能と人格形成、疾病
10	子どもの栄養(1)：発育と栄養（小児の特性・食育・生活習慣病など）
11	子どもの栄養(2)：乳児期（授乳・離乳）
12	子どもの栄養(3)：幼児期・学童期
13	子どもの生活環境
14	子どもの事故　ヒヤリハットの事例
15	子どもの事故防止
16	まとめ、試験

2018年度シラバス

科目名:子どもの保健ＩＢ	担当者:船井　廣則	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　乳幼児の罹患しやすい代表的な病気やその予防法を中心に学ぶ。できるだけ各疾病の具体的事例を取り上げるとともに、各種の画像・映像資料などを活用して授業内容の理解が深まる授業展開を目指す。また、新聞などのメディアを積極的に利用することをとおして、現在問題となっている子どもの保健に関わる事象を知り、それらについての自らの意見をまとめ、他者に伝えることのできる能力を高める。

授業の到達目標
1.乳幼児の心身の健康状態を的確に把握することができる。2.子どもの保健に関する新しい知識や情報を、書籍や各種メディアをとおして積極的に取り入れることができる。3.将来、保護者や同僚との話し合いや共同作業などをとおして、保育者としての信頼を得ることができるだけの知識と技能を身につける。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　毎週シラバスに目を通し、その週の授業に関連する話題を一つ探してくる（授業中にその話題を発表する機会を設ける)。

　講義の中で興味を持ったことについて、家族や友人の間で話題にしてみる。また、乳幼児の健康や疾病に関する問題について、Moodleを利用して積極的に意見表明したり、問題提起などをしてみる。

評価方法
授業中に課す小レポート2回(20%)と小テスト１回(20%)、および期末試験(60%)によって評価する。

教科書	参考図書
巷野悟朗　『子どもの保健』　診断と治療社	授業の中で紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業中スクリーンに提示するスライドは、あらかじめMoodle上に提示しておくので、必ず閲覧(必要に応じてダウンロード・プリントアウト)しておくこと。

01	授業のガイダンス、子どもを取り巻く今日の自然･社会的環境について
02	新生児によく見られる異常や病気について
03	乳幼児の健康状態の評価方法について
04	子どもにみられる一般症状(全身症状)とその対処法について
05	子どもが遭遇しやすい事故とそれへの対処・予防法について　（第1回小レポート実施）
06	予防接種の目的と種類について
07	乳幼児期に好発する感染症について（１）ウイルス性感染症
08	乳幼児期に好発する感染症について（２）細菌性感染症など
09	乳幼児期に多い病気（１）アレルギー について
10	乳幼児期に多い病気（２）消化・呼吸･循環器系の病気について　（第２回小レポート実施）
11	乳幼児期に多い病気（３）血液･内分泌系・皮膚・目･耳などの病気について
12	乳幼児期に多い病気（４）悪性腫瘍・その他の病気について
13	乳幼児期のこころ、精神、神経系の病気について
14	各種の保育施設とそこでの保健･衛生問題 について
15	母子保健の現状と母子保健行政について　（小テスト）
16	定期試験

2018年度シラバス

科目名:教育実習Ⅰ	担当者:藤田　公和, 北島　信子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	実習
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須. 選択	選択

授業概要と方法
　自ら課題を持ちながら幼児と関わる中で、幼児教育の基本を理解・体験したり、教師としての職業倫理などの　理解を深める。

授業の到達目標
①幼稚園・小学校の役割や機能についての理解　②幼稚園・小学校に就園・就学している子どもについての理解③観察、参加、部分実習等を通して幼稚園・小学校の教育（保育内容指導・教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間等の指導、生徒指導等）の実際についての理解　④幼稚園教諭・小学校教諭の職務内容についての理解　⑤幼稚園・小学校と家庭、地域との関係についての理解

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　実習のための体調管理を十分に行うこと。　絵本の読み聞かせ、手遊び等の事前準備をしておくこと。

評価方法
　実習園からの評価60%、実習日誌20%、実習事後レポート10%、その他（実習への意欲、実習状況、実習巡回　指導報告書など）10%を総合して評価する。

教科書	参考図書
教育実習Ⅰハンドブック	幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、小学校学習指導要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　本実習を行うにあたり、原則、当該年度の「教育実習指導Ⅰを履修することが条件となる。実習事前事後指導を　通じて、社会公共的な活動参加に対する留意事項の認識・確認を課題とする。　連絡手段；事務局実習担当

01	＜1日目＞オリエンテーション、園の概要（子どもの数、クラス編成、教育方針、教育の特徴、職員構成と園務の　分掌施設設備、環境構成、家庭や地域との関係等）についての説明を受け、観察を通してそのことについて実際　的に確認する。（観察） ＜2日目＞教育の様々な場面における教師の子どもへの働きかけ、かかわり方の実際について観察する。(観察) ＜3日目＞幼稚園の1日（教育の実際、子どもたちの降園前と降園後の職員の仕事の実際）について観察する。(観察) ＜4日目＞担任教員の指示に基づき、教育の特定の場面における子どもへの部分的な働きかけを体験する。(参加) ＜5日目＞自分から子どもたちへの積極的な働きかけを体験する。（参加、観察）
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:教育実習指導Ⅰ	担当者:藤田　公和, 北島　信子	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須. 選択	選択

授業概要と方法
　教育実習Ⅰのための事前事後指導としての本授業では、実習の心構え、実習日誌の書き方、実習のあり方の基本　を学ぶ。また実習後の振り返りにおいて今後の課題をあきらかにする。

授業の到達目標
①教育実習Ⅰの位置づけについての理解　②教育実習Ⅰの目標の理解　③幼稚園についての理解　④教育の実際についての理解　⑤実習日誌の書き方についての理解　⑥実習後の振り返りについての理解

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　自己紹介カードの作成（準備）等

評価方法
　事前の課題等50%、事後課題等40%、授業への意欲10%を総合的に評価する。

教科書	参考図書
教育実習Ⅰハンドブック	幼稚園教育要領、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領、小学校学習指導要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　遅刻、早退、欠席等については事前にその旨を申し出ること。　連絡手段：事務局実習担当

01	教育実習Ⅰの教育課程上の位置づけと課題１
02	教育実習Ⅰの教育課程上の位置づけと課題２
03	幼稚園についての概要説明
04	実践演習
05	実習日誌の書き方１
06	実習日誌の書き方２
07	実習園事前訪問について
08	事後指導
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2018年度シラバス

科目名:海外幼児教育インターンシップ	担当者:加藤　あや美,内田　政一	開講学科等	保育学部 保育学科
		授業形態	実習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法 海外（主にニュージーランド）における保育・幼児教育の分野でのインターンシップを通して、国際的な視野を持った教育者・保育者としての素地を養います。また、現地での研修に参加することにより、実践的な英語を学びつつ、様々な人や文化と接触し、異文化理解を深める機会とします。授業は、事前指導と現地での語学研修・実習、及び事後指導で構成されています。渡航期間は2月下旬から3月中旬までの3週間程度の予定です。
授業の到達目標 研修先であるニュージーランドを中心とする海外の保育・幼児教育事情を知る。また、現地での研修により、異文化に直接触れ、異なる他者への理解を深める。加えて、日常的な英会話を身につけ、英語を使って現地のこどもと簡単なコミュニケーションをすることを目指す。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 ニュージーランドで研修を行うことを踏まえ、その準備段階に当たる事前授業への出席は必須とします。また、事前授業では、コミュニケーションに特化した英語を学んでいきますが、授業以外においてもListening,・Speakingを中心とした英語の学習を怠らないようにしましょう。
評価方法 授業への参加度　30%　現地実習評価　40%　実習記録作成　30%

教科書	参考図書
適宜、プリントを配布します。	授業内で紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) この科目は後期科目ですが、海外への渡航を伴う科目であるため、事前に説明会を開催します。受講を希望する学生は、必ず参加するようにして下さい。（オフィスアワー：火曜昼休み）

01	＜事前授業＞ 事前授業では、プログラム内容の詳細な説明や旅行業者による渡航に関わる提出書類等についての説明を丁寧に行っていきます。また、現地でのコミュニケーションに必要な実践的な英会話のトレーニングにも取り組みます。さらに、昨年度参加者によるプレゼンテーションの機会を設け、海外渡航への不安解消に繋げていく予定をしています。 ＜現地研修＞ 研修実習国はニュージーランドで、滞在先はホームステイを予定しています。また、参加費用は30～40万円後半までの設定となる見込みです。１週目は語学及び文化研修を主としたプログラムに参加します。2～3週目は、現地の保育・幼児教育施設にてインターンシップを行っていきます。
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	